

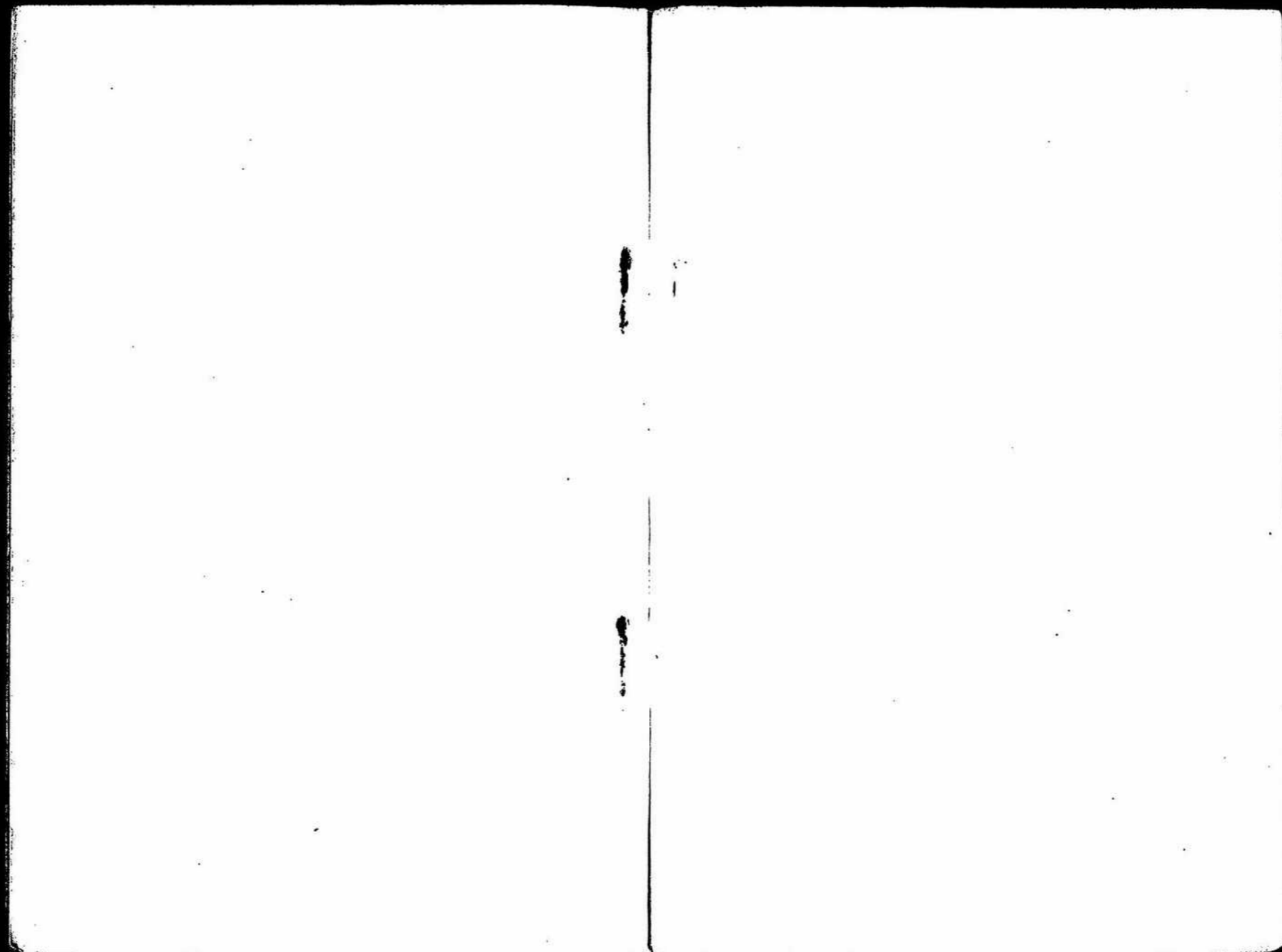


調査資料第三十五輯

外人の觀たる最近の朝鮮



朝鮮總督府



305
11

外人の觀たる最近の朝鮮

内閣文庫
七八〇七号
和書
冊

はしがり

年年我が朝鮮を訪れる外國人は四千乃至五千五百人（支那人を除く）に達するのである。特に近年は多數の視察團が米國其他からやつて来る。昭和元年から昭和六年十二月までに、三十八團體、参加人員二千九百五十八人が朝鮮視察にやつて来た。其の外に各國の名士有識者が單獨に朝鮮を視察せられるのも少くはない。此等の多數の外國人に、朝鮮統治の真相を諒得せしめることは極めて大切な事業であるが、又一面に於いて彼等が現時の朝鮮を如何に観るかを知らねば、我國として非常に必要なことだと思ふ。

従前から斯かる外國人の感想を集録して見たいと考へてはゐたものの、何分色々な事情から、思ふやうに材料を集めることが出来なかつたが、恰度米國のブルナー教授の朝鮮農村視察報告を翻譯する機會を得たので、従來雑誌『朝鮮』に掲載せられたものを併せ集録することにして、不十分ながら本篇を編纂することにしたのである。此

等の資料の蒐集に就いては、通譯官小田君に負ふところが甚だ多い。記して其の好意を感謝する。

尙序ながら、朝鮮に關する外人の文献は、H. H. Underwood, Ph. D. の A Partial Bibliography of Occidental Literature on Korea (From early times to 1930) に殆ど網羅されてある。總督府の書庫に在るものは、参考の爲附録として書目を掲げて置いたから、御参照を乞ふ。

昭和七年三月十五日

朝鮮總督官房文書課長

外人の觀たる最近の朝鮮

目次

朝鮮農村視察報告 (ブルンナー教授)	一頁
緒言	五
第一章 一般狀態	八
第二章 經濟問題	一七
第一節 物質的進歩の徵證	一七
第二節 不況の徵證	二七
第三節 不況の諸原因	四一
第四節 教會と經濟狀態	四五
第五節 救濟方法	四八
第三章 社會生活	五四

目次

一

第四章 教會の状況と計畫……………六九

第五章 地方教會の次の手段……………八三

 第一節 經濟……………八四

 第二節 教育……………九一

 第三節 社會生活……………九五

 第四節 教會……………九八

 第五節 一般管理上の考慮……………一〇二

朝鮮農村對策の二三二 (ブルンナー教授)……………一一一

 二つの基礎觀念……………一二二

 經濟問題……………一二七

 教育問題……………一二八

 社會生活……………一三一

 一般的事項……………一三七

教會及宣教師團體との關係……………一三九

朝鮮人の熱望 (シヤウッド・エデー)……………一四五

朝鮮人の熱望……………一四五

日本の施政……………一五〇

朝鮮人の訴……………一五四

日本人の立場……………一六二

將來に於ける日本の政策……………一六七

朝鮮の過去……………一六九

米國視察團の眼に映せる朝鮮……………一七七

苦情と利益……………一七七

汽車の窓から見た朝鮮人の生活狀態……………一八〇

日本は朝鮮で何を爲したか……………一八二



目次

朝鮮部落の宗教 (ロバート・ムーズ)……………一八五

變化せる朝鮮 (フランク・ヘッジ)……………一九七

北滿在住の朝鮮人 (ロイド・ビー・ヘンダーソン)……………二〇三

附録

總督府書庫に在る朝鮮關係の洋書……………二一五

—(以下)—

朝鮮農村視察報告

エドムンド・デ・シユワイニツツ・ブルンナー

緒言

第一章 一般状態

- (1) 朝鮮の位置
- (2) 歴史
- (3) 人口
- (4) 職業分布
- (5) 環境上の要因

第二章 經濟問題

- 第一節 物質的進歩の徴證
- (1) 貿易

- (2) 銀行預金
- (3) 郵便貯金及契
- (4) 鐵道運輸量
- (5) 平均生産額の増加

第二節 不況の徴證

- (1) 土地所有權
- (2) 内地人が土地所有權を奪食せる結果
- (3) 農民の經濟状態
- (4) 負債
- (5) 税
- (6) その他の徴證



(7) 判 決

- 第三節 不況の諸原因
- (1) 全世界の農業不況
 - (2) 朝鮮に於ける過渡期
 - (3) 工夫の無いこと
 - (4) 浪 費
 - (5) 政治状態

第四節 教育と経済状態

- (1) 教育の信徒の富
- (2) 移住の影響
- (3) 収入と富との関係

第五節 救済方法

- (1) 家内工業
- (2) 産米増殖計畫
- (3) 遠き將來の展望
- (4) 繁榮せる所

第三章 社會生活

- (1) 共同社會體の構成
- (2) 家 族
- (3) 家族と慈善團體
- (4) 變化しつつある社會道徳
- (5) 教 育
- (6) 健 康
- (7) 一般社會生活
- (8) 組 合

第四章 教會の状況と計畫

- (1) 一般状況
- (2) 地方事業
- (3) 成功の理由
- (4) 地方の教會
- (5) 教會員の年齢と性の分布
- (6) 宣教師と財政
- (7) 教會の綱領
- (8) キリスト教青年會の綱領

- (9) 摘 要
- (10) 進歩の衰へた原因

第五章 地方教會の次の手段

第一節 經 済

- (1) 義務の認識
- (2) 農業宣教師
- (3) 農業協同
- (4) 地主と小作人との關係
- (5) 朝鮮人へ土地所有權附與
- (6) 廉い貨幣
- (7) 家内工業
- (8) 市場取引
- (9) 政府の利用
- (10) 消費の教訓
- (11) 工業化

第二節 教 育

- (1) 地方指導の課程

- (2) 聖書研究
- (3) 實驗事業
- (4) 農業及自家生産の課程
- (5) 固有教會學校の監督
- (6) 全世事業
- (7) 擴張事業
- (8) 特別地方教育の中心
- (9) 學校の寄宿舎
- (10) 事業の再評價

第三節 社會生活

- (1) 奉仕單位の決定
- (2) 模範部落
- (3) 現存機關との協力
- (4) 近代傾向の解釋

第四節 教 會

- (1) 成就標準
- (2) 集團事業
- (3) 青年の認識



- (4) 教會を社會中心として一層廣く使用すること
 - (5) 部落學校
 - (6) 説教に於ける新しい強調
- 第五節 一般管理上の考慮

- (1) 地方教會委員會
- (2) 聖書講習會の利用
- (3) 政府との協力
- (4) 國民協會
- (5) 文 獻
- (6) 將來の宣教師
- (7) 博い知識
- (8) 視察と研究
- (9) 再評價會議

緒 言

此の報告は地方朝鮮に於ける組織力ある基督教の現状に關するもので、國際傳導師會議の爲に、千九百二十八年の其の團體の會合に關聯して爲したのである。

「郷邑に於ける教會の事業を活氣づけ、豊富にし且勵ます方法」を其の會合で討論すると決定された時、地方教會の狀態及其の事業の經營に影響を及ぼしてゐる社會事情の分析を特定の國に提出する爲に或る小さい限られたる場所に於て研究をする様に奨められた。

朝鮮は幾分か其の國で教會の地方事業が成功した爲に、幾分かは朝鮮基督教指導者が近頃この様な視察を乞ひ協力してやらうと言つた爲に其の場所として選ばれた。

此の報告の讀者は先づ、地方朝鮮は到る處で、亞細亞に於てすら見出される事情の何としても典型的なものを願してゐる様に茲で看做されてゐると想像しない様に注意すべきである。研究は單に實驗室の事件として提出され、元來朝鮮で何かの益に立つかも知れぬとの見地より書かれた。發見物から歸納的に推論し様とは全然しなかつた。然し乍ら用ひた方法や、到達した結論は到る處で價値があるべく、又恐らく他の場所に於ても同様の研究を刺戟するであらう。

朝鮮農村視察報告

此の研究の資料は次のやうなところから出てゐる。

一 圖書の研究 朝鮮田圃生活に關する文獻、殊に英語、佛語の政府の報告書は綿密に研究した。日本語の出版物にのみある或る資料はその場所を翻譯して手に入れた。

二 朝鮮に於ける會見 著者は此の計畫に關して日本並に朝鮮に於ける役人、面長から總督に及ぶ凡ゆる階級の役人、宣教師、其他の外國人、朝鮮人の實業家、新聞記者、牧師、教員、農民、並に内地人の農民、商人、或る尨大な灌漑・開墾計畫の管理者を含む文字通り數百の人々に會見した。此等の會見談が確實に代表的である様に爲出來る限りの努力をした。意見の僅かの種々の相違、年齢、信仰及同様の考察にも相當に注意した。凡て此等の人々の限りない好意と親切、政府並に幾多の利害關係ある基督教諸團體の寛大で無條件の協力には、茲に厚く謝する次第である。

資料の幾らかは餘儀なく證言に基かねばならなかつた爲に、又著者は協力した宣教師、役人及朝鮮人に會見を求めねばならなかつたら、提出された證言に明瞭に同意しない他の人々の意見に基いては少しも述べない様に注意した。

三 實地調査 之は二通りあつた。著者が朝鮮に着くに先だつて、協力委員が著者より與へられた調査要綱を用ひて、三十九ヶ村(内四ヶ村は滿洲にある)に於て社會宗教事情の研究を爲し、著者は其

の後に手に入れた報告と照合しつゝ、且米國で社會科學を修めた朝鮮人通譯の助力を藉り、いくらか深く研究を進めつゝ、以上の村の三分の一を訪れたのである。此等の村は視察に責任を持つた朝鮮會衆基督教會の委員が、朝鮮の種々の方面の事情を示すものとして選んだのである。

加之、著者は總督府の首席農事技師三井榮長氏、外事課の小田安馬氏其他の役人と共に、六ヶ村を調査した。孰れの村も朝鮮田圃生活の或る特殊相を顯はしてゐた。著者は亦此等の役人に、灌漑・開墾其他の計畫や、其の社會的結果を觀る爲に、他の數ヶ村に連れられた。政府の農業學校や農事試験場の數ヶ所にも參觀した。

著者は實地研究中に、南部の港より滿洲境まで旅行し、朝鮮十三道の内、シベリアと境してゐる人口稀薄な區域のみを省いて、十二道巡視した。此の小さい國で著者は汽車、自動車、時には牛車、馬、三板、ジャンクで三千三百哩以上も旅行した。然し乍ら、著者の朝鮮に於ける滞在は三ヶ月に過ぎない。故に研究は明かに完全な徹底的な調査と考へらるべきではない。それは三ヶ月では不可能であつた。

第一章 一般状態

此の報告は地方朝鮮に於ける教會の事業を支配してゐる目下の社會經濟状態に於ける要素に主として力点を置いてゐる。研究の目的は、朝鮮地方教會が遭遇してゐる難局をよく了解し、斯くして、若し出来るならば、其の將來の方針に多少の指導を爲さんとするにある(註)此の序章は朝鮮の位置、歴史、人口及住民の密度や分布に影響する外界の特徴の様な一般的考究のみに止める。後の節で順次、教會の問題の經濟、社會及宗教相を論じ、最後の章は提議された豫定書に與へよう。

(註) 朝鮮では宗派の行爲は朝鮮教會が行使する自治権の程度によつて異り、それ故に教會と傳道團間の勢力の區別に應じて異なるといふことを讀者は了解されたい。然しこの報告では基督教會は單一として考へる。

(1) 朝鮮の位置

朝鮮は今や公知の如く、亞細亞大陸の最東部を形成し、黃海と日本海とを分つてゐる八萬五千二百二十八平方哩の半島である。其の最南東の港、釜山は日本本洲の最西端より僅かに百二十哩である。南西海岸の木浦港に浮んでゐる多くの支那ジャンクは支那に近いことを物語つてゐる。北と東北では朝鮮はシベリアの小部分と滿洲に境してゐる。それ故に、朝鮮は極東の胸部に位して、支那・露西亞・

日本を分ち且接続してゐる。此の點に、多くの朝鮮の過去の經驗と現在の問題が説明せられるのである。

(2) 歴史

基督紀元の千二百年間、即ち千九百十年迄朝鮮は國家的實在であつたが、其れ以前は三王國が土地を分割してゐた。多くの人類學者は半島には少くとも起原を異にする二種族が定住したと信じてゐる。今日ですら北部と南部の朝鮮人間の或る特質の差異は、朝鮮在住の外國人や内地人に評論される事柄である。何世紀間も、朝鮮は名義上の保護國であると承認してゐた支那との交際を除き、外部との一切の接觸を避けてきた領國國民であつた。支那との親族關係は朝鮮が直接の原因であつた日清戰爭の結果、明治三十八年に消滅した。露西亞帝國は太平洋岸に不凍港を求めつゝ、次に朝鮮の獨立を脅かし、其の發展を日本は當然に不安視した。その結果、日露戰爭が起つた。明治三十八年に朝鮮は日本の被保護國になり、明治四十三年には正式の合同即ち併合が行はれた。

朝鮮領有の日本の権利は國の内外で全然抵抗せられずに推移しなかつた。大正八年の所謂獨立運動は朝鮮の人民が國家の自由の喪失を不平に思つてゐることを最もよく示した行爲である。其の時の示威運動は擴く波及したが、武器は有しなかつた。然し彼等は餘りに残酷に鎮壓されたので、世界的に

抗議が申込まれた。齋藤海軍大將が新總督に任命され、彼の統轄の下に非常な進歩を遂げた。

朝鮮の人民が再び政治的獨立を得るまでは、半島の現狀に進歩が齎らされる筈がないと信ずる人があるから政治状態に一言觸れるのは必要であつたのである。

政治状態は幾分有益であり、幾分有害な重要な社會的結果を齎したことは疑がある筈がない。然し此の調査は素より、朝鮮が日本帝國内に存続するとの假定に基かねばならないといふ事は強調しなければならぬ、併合は既遂事實である。昭和二年の朝鮮の地方教會の狀況の研究は政治的希望や歸らぬ線言に關する筈はない。其の問題とする所は「現狀に於ては地方教會は何うなのか」との質問に答へるにある。

(3) 人 口

朝鮮の人口は約二千萬である。大正十四年の此の前の國勢調査の時には總人口一千九百一萬五千五百二十六人内、朝鮮人一千八百五十四萬三千三百二十六人、即ち、九七・五%内地人四十二萬四千七百四十人、即ち二・二%、外國人四萬七千四百六十人で、其の十分の九は支那人であつた。此の總數は一千七百二十八萬八千九百八十九人の人口であつた大正九年以來、約一〇%、大正四年から大正十四年の十年間に一六・八%の増加を示してゐる。それ故に増加率は此の十年間の後半に殖えてゐる。而し

て現在人口に關する政府の見積りが正しいならば増加率は依然として増進してゐる。

人口は十三道、二百十四郡、外國記者より屢々村と呼ばれる二千五百三面に分布してゐる。此等の下に人口數二、三十人から數千人に及ぶ、二萬六千四百六十二も算する自然の部落或は村がある。

大正十四年末の總人口の内、百八萬六千五百五十六人は一萬人以上の三十の市街地に住んでゐた。市街地の最大なのは首府京城で、三十萬二千七百一十一人の住民を擁するが稠密な隣接地を加算したら五十萬人に達するであらう。他では僅かに二市街地が十萬人を突破してゐた。その外に人口、五千人から一萬人に互る、總人口三十六萬七千七百五十三人の、五十二の中心地がある。尙四十萬人以上が人口二千五百人から五千人に互る百五の場所に住んでゐる。大市街地に直接隣接してゐる居住地を算入するならば、總體の十分の一の二百萬の人民は都邑状態の下に住んでゐるのである。都邑の住民の比率は激増してゐる、最近五年間に、最も主要な市街地、十二の内十は國全體の速さより二倍から五倍に人口が増加した、更に小さい町の多くは更に多くの増加すらあらはした。

(4) 職 業 分 布

種々の主要職業別人口は第一表に示すが、それは一定の産業に依存してゐる人員總數で、單に従事人員數を示すのではない。

第一表

人口職業別 (大正十四年國勢調査)

職業別	朝鮮人	内地人	外国人
農林業	一五四、二九〇	八三、三三%	三九、〇三〇
漁業及製鹽業	二五、四九六	一四%	二、八〇二
工業及商業	四二、六五八	二二%	六六、八四
交通業	一、五三三	六、二%	一、七二七
公務	四三、三三六	二二%	一四〇、九五
其他の有業者	六五、八二四	三三%	二二、三六二
無職及不詳	三三、七四八	一三%	一〇、四八四

朝鮮人の間では農業が優位であるのが直ちに氣付くであらう。内地人の間では豫想し得らるゝ様に公務が首位で、交通業・商業が之に並んでゐる。此の表から各個職業別の内地人の割合も亦決定し得らる。此の様に人口の二%を構成してゐる内地人は、公務に生計の資を求める者の二五%も出してゐるが、農業者では僅かに四分の一%を貢獻してゐるに過ぎない。

(5) 環境上の要因

此の節に關するものは、職業に關する詳細な統計でなく、國內の人民の分布である。朝鮮の様に普ねく農業が行はれてゐる土地では、風・雨・温度が人口の分布と密度に至大の影響を及ぼすものである。

朝鮮では灌漑された土地の面積が廣大であるにも拘らず、降雨が人口の分布に非常に影響する様である。朝鮮は最北の四道を一つに考へて、大體二つに區分される。大凡、四道は兼二浦から元山に描いた線の北の總てを包含する。此の區域では毎年の降雨量千ミリメートル以上の所は、平壤北部の海岸に近い狭い地域だけである。而して人口の非常に稠密な地域に可成り密接に相應してゐる。此の分界線の南では、温度が冬季攝氏零點下十度以下に降るのは一ヶ所に過ぎない。北部では、東海岸の矢張り人口稠密な僅かな狭い地域を除いて、最低温度は攝氏零點下十度から十九度である。

風が人口に影響するも一つの要因である。朝鮮は山が多い。山が風景の一部分を構成しない所は國中に少しもない。辛うじて四分の一の土地だけが百米足らずの高度を持つてゐる。北部では僅かに十四%の地域が之と同じ低さである。北部の半分以上ではあるが朝鮮殘部の五分の一に當る所では海拔五百米、或はそれ以上である。

非常に山の多い江原道を北部四道に加へると、此等五道で、朝鮮全面積の五五%ではあるが、僅かに耕地の四〇%と、人口の三〇%であるに過ぎない。残りの四五%の面積で耕地の六〇%と内地人農業者の九三・九%を含む七〇%の農民を持つてゐる。此の八道は米國の北カロライナ州のバルチモア、メリーランドとウイルミントンの緯度の間に位してゐる、前に述べた北部と南部との地理的相違は後

に述べる社会機構と社会組織に於ける相違と相表裏してゐる。

教育の最もよい機会は今では、中央、南朝鮮にあることは明瞭である。又此の地域では農作が非常に集約的であり、若し何處かであるとすれば、此處で、先づ朝鮮は過剰人口問題に逢着するであらう。既に、國のこの半分の所では内地と同じ位に人口が稠密である。

然し、北部は將來の工業的發展の可能性がある。此處には鐵道に依つて初めて近づき得る廣大な森林があり、又金・石炭・鐵・黒鉛・銅が発見された。又國內には多くの未開發水電があり假に朝鮮に工業化が到來するならば、凡ゆる種類の新しい機会が開かれるのは主として北部に於てであらう。

然し、其れは將來の事である。總人口の増加の一般的事實は増減常なく、其れが今日朝鮮の重要問題の幾らかを暗示してゐる。

之と關聯して非常に重要な事はある個々の道や村に於ける人口増減の事實である。北部の四道の増加率は南部よりも急速である。大正十年から大正十四年までの四年間に此の五道の人口は一〇・八%、南部の八道は八・二%増加した。

北部では一〇%以上の増加は五道の内三道で示され殆ど四分の一である。南部では八道の内僅かに

二道が同期間に非常に増加した。南部に於ける増加は大抵都市に於てである。北部に於ける増加の多くは平壤府を除けば田舎に於てである。換言すれば北部はその未開發富源と南部の人口の壓力の爲にあまり好ましくない地理的環境と後に多く述べる積りである滿洲への移民にも拘らず既に先に進み出でてゐる。

此等の傾向は此の研究に關して特に調査した三十五ヶ村に於てすらあらはれてゐた。南部の此等の村は大正六年から大正十一年に至る迄、此の區域が米價高の爲に繁榮を享樂した時に人口は二三・九%増加したが大正十一年から昭和二年までは僅かに六・六%で、その時は實に三十五ヶ村の内僅かに十ヶ村が増加を示した。北部では大正十一年から昭和二年までの増加は九・一%である。調査した十ヶ村の内七ヶ村が此の増加に責任がある。十ヶ村の内僅かに一ヶ村が人口が減少した(註)

(註) 調査當時此等の村の總人口は二萬四千五百十三人であつた。此の研究の便宜の爲、此等の村を北部、中部、南部と三つの組に分けた。北部の村は既に言つた四道にある。中央の村は黄海道、京畿道及江原道の西部農業地にある。南部の村は忠清、慶尙、全羅の各南北道に包含されてゐる。正確な位置は次の様に表の形式で述べる事が出来る。

地方別	道	調査した村の數	村の人口	北	中	全農村人口
北	道	四	一〇	五七五	二三八%	一三五%

朝鮮農村視察報告 一五



第一章 一般状態

一六

中 部	三	二二	七九二五	三七%	一三六%
南 部	六	一三	一〇四三	四二五%	五二九%
合 計	一三	三五	二四〇五	一〇〇%	一〇〇%

故に此の調査の實地研究の部分が基礎としてある標本は、少しも大きくはない。朝鮮會衆基督教會が選んでくれた村が、實際に具有してある代表性の程度如何が大切なのである。然し乍ら人口増加の事柄と後述の他のある個々の事については、此等の村に付ての事實は確實な地方及宗教事情に充分一致してゐたので、此れ位の大きいの一群を選んでそれで充分代表的であるとの考へは間違ひでない。

南部に於けるある村の現實の衰微を伴つた緩慢な増加は原因如何に付て問題を起したがそれに付ては現在地方教會が活動してゐる周圍の經濟的環境を考慮することが必要である。

第二章 經濟問題

朝鮮に於ける現在の不景氣は農民の集まる所では何處でも人心を吸收する話題で、絶へず新聞で論ぜられ、役人を當惑させ又多くの宣教師を深く心配させてゐる。

此の問題の正確な定義を下すことは難かしい、大部分の輿論は現在の不景氣を政府が執つてゐる政策の結果、朝鮮人が土地を喪失した爲だとしてゐる。然し統治の味方をする者は現狀の儘放任してゐたら半島に繁榮時代があらはれるであらうと云つてゐる。此の雙方の立場は多くの相當の理由を示してゐる。

農民の低い収入と莫大な負債並に、自作農民の手より土地が段々減じてゆくことは否定出来ない。又生産の増加と富源が増加したことも否定出来ない。此の事情は教會の利害關係は何であるか又教會がこの問題の解決を援助することが出来るか否かをきめる前に慎重に吟味するを要するのである。

第一節 物質的進歩の徴證

物質的進歩の多くの徴候がある。三十年前は鐵道もなかつたし、道路も少なかつたし近代的産業も

無かつた。舊政府と舊文明は整理され逐次病院、西洋式學校の様な近代的新機軸が齎された。米國の資本で起された鐵道は露西亞との戦争の緊要に迫られ日本人が完成した。現今は一千四百三十哩の開業線があり、同じ哩数がその外に豫算を経たか又は建設中である。殆ど凡てが國有で國營である。鐵道と共に大市街地に立派なホテルが出来、立派な大通りが出来た。韓國政府が適當な記録を保持しておかなかつたのでその進歩した程度を測り評價することの出来ないのは遺憾である。日本と併合以來は發達に關する正確な記録がある。

(1) 貿易

貿易額は屢々朝鮮の經濟資力が増加した最も有力な徴證の一つに數へられる。貿易は明治四十三年の合併の年に輸出が四百五十三萬五千圓輸入が其の額の三倍以上に達した時より、著しく増加した。増加額の詳細は第二表に示す。

第二表 貿易品價格累年表

年次	輸出			輸入		
	輸出	移入	計	輸入	移出	計
明治四十三年	四,525,000	一,537,000	一,992,000	一,444,000	一,537,000	三,981,000
大正四年	九,329,000	四,001,000	五,010,000	一,815,000	四,195,000	五,960,000
			指數			指數
			明治四十三年基準			明治四十三年基準
			100			100
			115.1			115.0
			118.5			118.5

大正八年	一九八七	一九八四九	二二九六六	二二〇三	九,587,000	一八四九三	二八〇七六	六〇六	六,139
大正九年	一七六三九	一六九六一	一九七〇〇	九八九	一〇,617,000	一四,一七四	二四,九二六	六〇七	五,326
大正十年	二〇,八八四	一九,三三三	二二,八七七	二二六	七,五八八,000	一五,四四三	二二,三三八	五八四	一四,104
大正十一年	一七,四八九	一九,七九五	二二,五〇四	二二七	九,五七九,000	一六,〇四七	二五,〇四三	六四三	四〇,604
大正十二年	一〇,四〇三	二四,二六二	二六,六六五	二二五	九,八三三,000	二六,四四二	二六,五七〇	六六八	四,234
大正十四年	一四,三三九	三三,七八八	三四,一七〇	一八二	一〇,五三六,000	二四,八三五	三三,九九〇	八五五	一,七三七
昭和元年	二四,七七六	三三,八七五	三六,九五一	一八三	二二,九三三,000	三三,四六三	三三,二二七	九三六	九,216

明治四十三年より昭和元年までの間に、輸出額は一、八二二%輸入額は九三六%増した。大正八年の獨立運動の年からすら、昭和元年までには輸出額は六五%、輸入額は三二%増した、此の表は戦後期間を特徴づけた不況を示してゐる。然し直後に於ける同様の衰退は少しも示してゐない。

實際、昭和元年の輸出額は明治四十三年の十八倍であり大正九年度の殆ど二倍である。昭和元年の輸入は明治四十三年の九倍以上であるが大正九年度の一倍半である。輸出増加の年々の平均は併合最初の五年間は三〇%であり、戦争中は八〇%である。戦争直後の期間は、先づ一〇%減少し、次の年には一一%増加したが大正十一年から大正十二年にかけて輸出額は二一%の増加を見た。然し此の増加は次の二ヶ年間は各々一五%に下り大正十四年から翌年に互つては僅かに六%である。確か

に朝鮮現在の不景氣の正體は此の増加を維持することが出来なかつた事にありそれは大正十一年より大正十二年に互る二一%の増加や初年度の輸出額平均増加が三〇%であつた事と對照すると著しく目立つてくる。

戰爭中輸出を凌駕した輸入は其後直ちに奔落した。輸入は輸出よりも一層徐々に後退したが大正十四年から十五年にかけ少しく強調を呈した。

前の表の數字は少しも深刻な不振の微證を示さず寧ろ反對である。然しその數字は都市も村落も一様に包含してゐることを記憶せねばならぬ。農民も亦、約六百萬石、二億圓の米を輸出して、貢獻する所があるのである。併合當時は朝鮮は辛うじて二十萬石を日本に移出してゐた。此の數字は商品價格(朝鮮銀行の指數に由れば大正三年七月を一〇〇とすれば大正九年三月には三六七に達し、現在では二一〇前後である)の變動にも、又相場の變動にも直されない。

然し此の價格の變動を考慮に入れても、大正三年度以後貿易の増加は四倍で、明治四十三年より五倍を越してゐる。貿易の増加は内地人の取引を大いに映してゐるが朝鮮人の經濟力の正しい尺度でない時々謂はれる。疑もなく人口の二%の内地人は朝鮮人よりも一個人當りの富は大きい。然し朝鮮の總貿易(輸出入共)は内地人人口より十二倍の早さで増してゐる。此の數字より朝鮮人側の資力の増加

した微證を認めざるを得ない。

然し經濟力は増加したであらうが朝鮮で消費される作物の食料品價格といふ、も一つの要素を考慮しなければならぬ。斯く米の輸出が既に示した通り著しく増加したのに朝鮮の米の消費量は人口がより多く増加したに拘らず各年を通じて辛うじて一%である。朝鮮人は米を賣つてその代りに廉い滿洲粟を輸入した。粟の輸入は大正元年の二萬八千石から大正四年に二萬九千六百五十七石、大正十一年に百萬石、昭和元年には二百二十五萬石近くに増した。

も一つの惡兆候は累年の輸入超過である。是れは亦日本にもある現象である。それは幾分かは朝鮮の輸出品は主として原料品で輸入品は加工品であるといふ事實の爲である。輸入品の多くは又日本からの資金で支拂はれる。

(2) 銀行預金

他に朝鮮の富を示すものは銀行預金・郵便貯金其他の貯蓄預金の形式のものである。銀行預金は最近十年間に恐ろしく増加した。大正六年には總預高九億八百二十一萬九千六百七十二圓に達したが昭和元年末には四二・六%増加し四十五億六千四百七十六萬二千七百七十六圓になつた。之も亦大正十一年に少し減じ、大正十二年には大正八年以來の底をつき戦後の不況を示してゐるがそれ以後絶えず増加

してゐる。此の凡ての計數を照査する爲大正七年に創立された朝鮮銀行の貯蓄預金を調べた。此の銀行は多くの農業銀行商業銀行に取つて代つたので全鮮に五十に近い支店を持つてゐる他の多くの都市の銀行よりも地方取引の大部分を占めてゐると思はれる。かくして大正十三年六月には、銀行より與へられた資料によれば百二十萬七千二百人の貸付人の三分の一以上は農民で更に十分の一は多くは地方からの金融組合である。十萬四千二百人の貯蓄預金者の五一・七%は朝鮮人であるが、各預金者は内地人一人當り百八十圓に對し平均四十二圓五十三錢で總額の二〇%しか持つてゐない。預金總額は大正十三年六月三十日の五百四十七萬二千九百九十二圓より昭和二年六月三十日には一千四百四十六萬三千二百二十八圓に増した、此の一〇九%の増加の極く小部分が新支店開設の爲であるから此の増加は堅實である。預金を擔保として貸付けられた金額が大正十三年には全額の二七%で昭和二年には殆ど三五%であるといふ事實の裡に金融逼迫を微かに示してゐる。

此の増加の幾分かは人民が銀行を一層利用した爲であるかも知れない。銀行制度が人民の信用をどの位まで得てゐるかを精確に知り得なかつたのは遺憾である。此の點に關する少しの資料を與へてくれた二、三の銀行では預金者數の増加率は人口増加率を左程に凌駕してゐなかつた。

(3) 郵便貯金及契

最後に郵便貯金を研究しやう。何となればこの制度は凡ゆる農民に出来る様な貯蓄の手段を與へたものであるからである。大正八年には百二十二萬二千二百一十一人の朝鮮人預金者がこの制度を利用し各々平均二圓二十三錢の債權を持つてゐた。然し預金者數はこれ以後大正十一年までは減少した。大正十二年には百二十六萬五千九百五十四圓あり前年度より五・三%の増加である。此の頂上から昭和元年には三・五%減少して百二十二萬七千七百三十三人の預金者になり平均銘々二圓四十六錢になつた。契は多少地方の貯金を吸収する。残念乍ら此の組合に關する統計は大正六年から昭和元年までの間は役立つものがない。大正六年には百四十一萬三千二百四十一人の組合員を擁する九千三百三十八の組合があつて平均預金は一圓九十二錢五厘であつた。十年後の昭和元年末には組合數は倍加して一萬九千六百十七になつたが組合員は四二・四%減少して八十一萬四千三百三十八人になり平均預金額は四圓八十一錢四厘であつた。内地人も朝鮮人も此の契に加入し、小數ではあるが市街地にもある。此の何れの統計も地方朝鮮の繁榮を少しも示さぬ。

(4) 鐵道運輸量

富の増加した事を第四番目に測り得るものは鐵道三等旅客の交通量である。そこで鐵道局は大正十年、大正十二年、大正十四年、昭和二年の各三月三十一日を終期とする各年度の統計を國全體に付て又

各道から一つの代表的地方驛に付て作る様に依囑された。此の期間には鐵道哩數は少しも増加しない。此等の年度の第一の年度に輸送された三等客の總數は千二百二萬八千十四人で昭和元年から昭和二年にかけては五二・三%増加し、人口の五倍の速さである。然し増加率は逐年衰へた。大正十二年には大正十年より二三・六%の増加を示したのに、次の期間の増加は各僅かに一五・八%、五・八%である。此の増加率の減退は最初の二年間は人民は鐵道旅行の習慣が付き初めてゐたが、その習慣は最後の二年間の時期には僅かに人口と同じ速さで増加したことを暗示する、更に村の停車場からの運輸物は國民數と同じ速度で進まなかつた。洪水や新道路新停車場の開設による變換の爲の運輸の損失を斟酌しても計數は殆ど停止的である。此れは都市の人々は地方の人々よりも旅行の資力を持つてゐる事を示す様に思はれる。

(5) 平均生産額の増加

今まで用ひた指數は、朝鮮で富が増加してゐるのに地方よりも市街地が富の多くを受けてゐる様に思はれる。然し地方の富は恐らく市場標準によるよりも土地の面積や生産高でよく測り得られるだらう。その故に、次に討究し様とするのは此の要因の吟味である。米作に委ねてある面積は凡ての耕地の三六・六%である。明治四十三年、大正十四年兩年度の米作面積と他の穀物豆類に委ねられた面積の

比較は第三表に示してあるが、其れは又以上の兩年度に此の地域からの生産物と面積及生産高雙方の増加量を示してゐる。

第三表 主要農産物の作付反別及生産額(大正十四年)

品名	面積 (町)		生産額 (石)	
	明治四十三年	大正十四年	明治四十三年	大正十四年
豆類	七〇七	一一六	三六五	五八三
穀物	八五七	一、四四五	六、七〇八	一〇、二一〇
米	一、三五三	一、五八五	一〇、四九五	一四、七三三
合計	二、九一七	三、一四六	一〇、一三六	一五、五二六

此の比較の結果政府が耕地面積は著しく増加したと主張するのは全く正しいことを示してゐる。生産高は非常に大きな率で増加し多くの地域が耕作されもしたし、更に集約的に耕作されてゐることを示してゐる。種子も亦改良された。第三表に示した此等の作物の指數は、耕地面積が三五%生産高が五三%増加したことを示してゐる。然し乍ら同期間に農業人口は四八%増加し戸數は五四%増加した。此の比較から一人當りの所有地の大きさは減じてゐて主要農産物の生産高増加も辛うじて養ふべき給養人員の増加を超してゐる。

増加しつつある面積と生産高の雙方への内地人の超人間的努力がなかつたならば朝鮮の經濟狀態は現狀よりも更に悪いであらう。此等主要農産物の外に新らしい作物が輸入され従來の作物も發達した。棉、苧、蕎麥、キャベツ、麥、メロン、苹果、梨其他の果物の作付反別や生産高も著しく増加した。特に棉では在來種よりも遙かに多く生産する米國の變種が輸入された。測らずも凡て此等は朝鮮が唯一の作物―米―へ經濟的に依存してゐた影が薄くなつた。朝鮮の農民は保有地の少いのには拘らず以前より多くの種類の物と多量に取引してゐるといふことは確かである。又この統計上の増加は初年度の計數の不完全の爲でもない。何となれば面積は年々増加し生産高は勿論變動はしたがじり／＼と騰る傾向があるからである。

家畜類の數も同様に増した。大正九年から大正十四年までには地方の戸數は一%の二分の一しか増してゐないが牝牛・牡牛の數は六・七%、豚は一七・七%、鶏は一六・七%増加した。内地人農業戸數は此の五年間に約一〇%減少したから、此の増加の多くは朝鮮人の財産の増加を示してゐる。

内地人は亦科學的養蠶を紹介し壓倒的に奨励して朝鮮人の爲に貢獻した。在來の蠶は完全に驅逐され、更に良い種類のものと代つた。蠶を飼つてゐる戸數は明治四十三年から大正十四年までに殆ど八倍も増加した爲に今は六分の一以上の戸數がこの副業に従事してゐる。大正九年からの増加は六四%

である。生産高も同様に明治四十三年以來二十倍以上、大正九年以來一三三%増加してゐる。

生産高の増加は、米國の農民が懲りた様に、必ずしも繁榮を意味しない、商品価格は劇しく變動した之を書いてゐる時(昭和二年十二月)には大正九年價格の約半分の値で賣買されてゐる。然しこの價格は大正四年の價格の殆ど四倍、大正十二年のそれより殆ど五〇%の躍進を示してゐる。

第二節 不況の徴證

収入増加は必ずしも繁榮を増すといふことにはならない。經濟的悲觀論者は惑はされてゐるのだと決める前に朝鮮は深刻な不況の生みの苦しみにあるのだと主張する人々が示す徴證を調べるがよい、この徴證は殊に土地所有・小作・収入・負債に關するものである。

(1) 土地所有權

朝鮮人農民は絶えず土地の所有權を奪はれつゝある。大正四年から昭和元年の十一年間に全農民數は四・七%増加したが、土地を持たぬ小作農民の割合は二五%即ち五倍も多く増加した。大正四年から昭和元年の間に總小作人は總農業者數の三六%より四三・八%に騰つた。政府より與へられた計數が事實を示してゐる。

地	主	自作農	自作兼小作	小作農	合 計
大正四年	三九四〇五	五〇三三〇	一〇三三三八	九四五三九	一七〇三〇二
昭和元年	一〇三六五五	五四〇六六	八五二六六	一八五三六四	二七六〇二七

換言すれば朝鮮人農民の七五%が地主と交渉がある。地主の内約五分の一は自分の土地全部を貸してゐる。此の五分の一の者が朝鮮の耕地の半分以上を所有してゐる。残りの者が幾らかを耕し残りを貸貸してゐる。此の数字より判断すると完全な小作人に陥りつゝあるのはこの自作兼小作農である。

此等の計数は國全體としては地方によつて異つてゐる。北部には所有關係が多く南部には小作が多い。北部の四道と江原道は農民の三七・七%が自作農で僅かに二%が完全な小作人である。南の八道では一三%が所有者で五%が完全小作人である。調査した三十五ヶ村に付ては北部の道の農民ではその三分の一、南部の道では六分の一、中部の道では四分の一が所有者であつた。

此の問題は確かに重大である。自分の耕す土地に利害關係を持つてゐる者は小作人より進取の氣象に富み自分の部落に利害關係があり社會的に健全であるといふことは世間周知のことである。農民間に於ける小作の増加は教會にとり金錢と時間の貢獻に悪い影響を及ぼすらしい。

(2) 内地人が土地所有權を喰食せる結果

朝鮮に於ける小作問題は新らしくない。それは數世紀に亙つて朝鮮農村社會の痼であつた。比較的

小數の兩班は國民を搾取して懐を肥した。土地が朝鮮人農民の管理のみでなく所有權からも離れて内地人の手中に移つたといふ事實よりも朝鮮の經濟狀態に影響を及ぼしてゐるのは、この事態からの遺産である。

内地人農民の殖民と、初めから分つてゐた事ではあるが朝鮮人農民の大規模の追出の魔手は屢々非難の的になつた。此の故に此の點に付て考慮することは必要である。此の事實は容易に確められないが、一定の事は明かである。朝鮮の併合以來十七年間に日本は此の半島に一萬足らずの農民を植民させた。現今の數は大正八年よりも少ない。これは種々の殖民的努力が行はれるに拘らずである。朝鮮人が内地人に取つて代られつゝあることによりて教會はその仕事を根柢にされることを心配する理由はない。

政府の統計は農業地並に住宅地の六六%近くが内地人の所有として登記されてゐることを示してゐる。然しこの事實は慎重に穿鑿するを要する。朝鮮の認可状を持つてゐる會社に屬する凡ての土地は會社は内地人のものであらうとも朝鮮人の所有として分類してある。此等の會社のあるものの所有地は莫大である。他の一方に於て内地に成立してゐる會社のあるものは朝鮮人の株主をもつてゐる。更に朝鮮人の名義になつてゐる土地所有權の事實上の移轉は内地人の代理店か又は個人よりの貸金によ

つて生ずる。此の方面に關しては資料が得られなかつた、公平無私な民間の内地主や朝鮮人の手を盡した慎重な見積りによると現實に又は事實上内地人の所有してゐる土地の割合を大體一二%から二〇%に置いてゐる。南部のある郡では租税記録によれば日本人の所有は土地の半分以上に互つてゐるといはれてゐる。斯くして慶尙南道蔚山郡では一朝鮮人地主と教育家の調査では課税財産價格の三二%が十二萬の朝鮮人の手中に、六八%が八千人の内地人の手中にある。故に内地人所有地の大部分は南部にあつて、此處にては土地の四分の一が朝鮮人の手より離れたと斷定することは正しいらしい。

然し非常に慎重に考慮しなければならないことは結局、どの位の土地が内地人或は朝鮮人に所有されてゐるかといふことではなく、寧ろ朝鮮人小作人の状態である。朝鮮人は概して僅かに一・二八町を耕してゐる。その半分は米を作る番である、地主と借地人の作物の法律上の分配は五分五分であつて、又は北部では通常固守されてゐる。然し小作人は肉體的精神的勞働を提供するのみでなく通常凡ての種子や肥料を負担し租税も亦支拂ふのである。大概の國では小作人の勞力を除いて此等の項目の半分又は凡ては地主の負擔する支出の適法の部分と見做されてゐる、南部のある村では大邱のウィリアム・リオンの慎重な調査では小作人の實際の純分前は一七%であつた。この状態は朝鮮の此の部分では決して珍らしくない。南京大學農學部長デヨン、エツチ、ライスナー氏は同様の状態を簡單な調査

中に發見し之を評論しキリスト教青年會のブロックマン氏に書信してゐる。

全面積の一平方哩の人口は大凡二百五人であつて、耕作地の一平方哩に付ては一千二百二十五人である。此の概算は政府の資料に基くもので全人口を含んでゐる。若し人口の八〇%が農民であるならば農場人口の密度のみで一平方哩大凡九百人であらう。國土は此の稠密な農業人口ばかりでなく農民を搾取して生活をしなければならぬ其外の二百二十五人の爲に生業を興へなければならぬ。莫大な國債は勿論當分は近代的發展を齎すことが出きやう。然し土地の積載量は非常に重苦しく負はされてゐるし小作人の境遇から觀察する限りでは甚だしく過度に負擔させすぎるといふのは事實である。急速に増加する人口だけがこの事態を惡化させ問題の解決を一層焦眉で又複雑なものにしてゐる。

朝鮮人地主は屢々小作人から贈物を期待する。地主の多くは又含音を通じて小作人と交渉を持つが、含音にも小作人は亦時々贈物をして懇ろにして貰はねばならない。多くの小作人は殊に南部に於て朝鮮人よりも内地人を選ぶ。

日本本土に於ては最近二三年間に何千といふ小作爭議がある。朝鮮に於ける最初の一つはこれを調査してゐる間に爭議中であつた。セウルプレスは係争點を述べてゐる。

『富平農民組合の第一回總會は此の前の金曜日に関かれ、三百人以上の小作人が出席した。日本勞

働黨代表として辯護士古屋氏、京城及仁川基督教青年會の代表者及新聞記者が出席した。その際次の要求を地主に提出すべく決議された。

- 一 地代は従来通り据置くこと
- 二 地代として米を一里以上の距離を運ぶに付ては地主は運賃を支拂ふこと
- 三 必要なる肥料の内小作人は六〇%地主は四〇%支拂ふこと
- 四 小作期間は四年と定めること
- 五 地主との妥協交渉が纏らなければ小作人は地代を支拂はずに解決するまで農民労働組合に供託すること

問題になつてゐる水利組合の地主は一段歩三十五圓の収益であるのに一段歩十四九十六錢を組合に支拂ふ様に要求された。前述の十一圓を地主に當然歸する二十一圓四十錢から控除すると彼等の純収益は小作人の収入十三圓六十錢に對して僅かに十四圓四十錢である。彼等の分前は餘り僅少であるとしても地主は小作料を五%増加することを要求してゐて此の點に實は禍根があるのである。

爭議中の富平小作人は多いといはれる収入の中から租税や肥料代の凡てを支拂つてゐることに注意しなければならぬ。之に類似した状態は地主と小作人との關係を急速に尖鋭化してゐる。三十五ヶ

村の中南部にある村の半分を含め十五ヶ村では關係は悪いといはれ、九ヶ村では普通だと稱されてゐる。他の十ヶ村では關係は良いといはれてゐる。此の十ヶ村中八ヶ村では地主は邑又は市場町の近くに住んでゐる。悪い關係の十ヶ村では地主はある市に住み、此の十六ヶ村の中他の五ヶ村ではある者は部落に住んでゐるが他の者は都市居住者である。

(3) 農民の經濟状態

次には自作農も小作人も生計の資を得ることが出来るか否かを調査することが必要である。

調査した部落内の農民の經濟的地位は出来るだけ慎重に調査した。収入の計算は米、稗その他栽培した作物の數量を基礎とした見積りである。最高の収入と最大の農場面積は北部で發見した。調査した地方の平均収入は二百一圓六十錢から三百四十圓の間であるが北部の地方では平均収入は滿洲の四ヶ村よりも多かつた、細目は第四表に示してある。滿洲の四ヶ所の朝鮮人村の數字は比較の爲に挿入した。

第四表 地方別農場面積並に収入額

地方別	平均農場面積	最低限に最大面積	平均収入	最低限に最大収入
北部	11.1	10.1-3.5	340.0	110-7.00
朝鮮農村視察報告				3.3



第二章 經濟問題

部	中	南	滿
部	一〇五	〇八	三〇
部	〇三三一九	〇二五二二	二六一三三
部	二〇二六一	二五三九七	三四五〇
部	一〇一三五〇	一五〇一五〇	三〇一三五八

収入の数字は養蠶とか吠、靴、繩の製造の様な副業からの凡ての収入を含んでゐる。然し事實を語るものは完全な豫算である、此の調査は現在朝鮮の種々の機關によつて爲されてゐる。慶尙南道の農務課は大正十一年に道内の農家の收支に關する精密な見積りを作つた、其の結果は次の様に摘要され得る。

自作農の内三〇%は利益を生み、七〇%は十回或はそれ以下の損益を示し
 自作兼小作人の内九五・九%が欠損をして年を送つた
 完全小作人の中九六%は收支償はなかつた

損益と額と耕地面積との間に直接の相互關係があつて農民の現在の困窮の多くは餘りに小さい土地によつて生活し様と試むる爲であることを示してゐる。

第五表に示した数字から收支の分配に付て何等かの考が得られ得るが、その数字は調査者が役人と共に訪れた村で得たものである。

第五表

收	入	支	出	率
米	一七五〇〇	食料品	一四七七一	五〇%
薪	九〇〇〇	薪の原料	三九六〇	三八%
欠損	二九五二	利息	三六〇〇	二二%
	二九四五二	衣服代	三〇〇〇	一〇%
		種子・肥料・器具	一四〇〇	八%
		修繕費・税・其の他	一七〇〇	五七%
			二四四五二	一〇〇%

この様な事實に鑑みると三十五ヶ村の中十七ヶ村の七十七戸が一時的に或は永久的に恵に依つてゐるといふことを知るも驚くべき事柄ではない。

(4) 負債

當然次の疑問が起る。如何にして農民は仕事を續け得るか。貸金周旋業者が解答してくれる。不足額は借金で埋め合せられると。朝鮮人家族が借金の上にやりくりしてゐる程度は十三ヶ村の基督教を信する家族に付て調べた綿密な研究によつて分る。北部では百四十五家族の内五家族に付二家族が平均して通常三割の利率で六十圓の借財をしてゐる。京城近くの道では一群の百十家族中五家族に付

四家族は四割八歩の利率で百十圓の借財をしてゐる。南部では百三十七家族中二十一家族が平均年収入を超過する借財をして三割六歩の利息を支拂つてゐる、凡ての地方中では多くの自作農ですら彼等の土地を止むを得ず抵當に入れてきた。而會した人の大多數は憔悴してゐて數年間といふものは新しい收穫期節が初まる毎に少しづつ更に借財をしてゐることに氣が付き事態は益々悪くなると感じてゐる、此等の村は特に不幸といふのでない。寧ろ此等の村は訪れた模範部落の三つ四つの村には比ぶべくもなかつたが調査した村の一般平均より優れてゐた。

此の有様は特に新しいものでない。明治四十三年に東山農事會社がその所有地の四千三百九十九人の小作人の管理を引受けた際に一家族當り平均二百十圓の負債をしてゐることを發見した。然し乍ら昔は債権者は極く稀に抵當權を實行したものである、彼等は喜んで債務者に借りた金の高い利息の爲に實際的奴隸の状態に生活を續けることを許してゐた。然し内地人は屢々低い利息を課してゐるが若し呑氣な朝鮮が期限までに支拂はなかつたら法律の制裁を加へるのである。

一割二歩から四割八歩に及び稀には更に高い所の利息がなかつたなら現在の負債額は左程重大なものではない低利率の金は確實な擔保物のある人のみ借り得るのであるがその擔保物は大概の小作人は持つてゐない、利率や現在の價格標準を以てするならば稀な家族のみが百圓或はそれ以下の負債より

逃れることが出来るといふことを割り出すのは簡單に出来る。朝鮮人をして小作關係から所有關係に進み移るのを非常に困難にするのは土地價格の高い事と共に之である。

(5) 税

莫大な税金が農民の窮狀に非常に責任があると屢々主張される。政府の統計によれば徵收される總税金額は大正六年から昭和元年までの間に二千七百萬圓から七千七百萬圓即ち一八七%増加してゐる。即ち殆ど三倍である。人口増加率の十二倍以下ではあるが、銀行總預金額の膨脹の早さの半分以上である。此の増加の一つの理由は莫大な國債である、國債は日本の保護政治(明治三十八年—明治四十三年)の期間に十倍に即ち二百萬圓から二千百萬圓になつた、而して併合以來再び十倍以上に増進した。此等の資金は殆ど無比の計畫即ち殖林、鐵道、港灣の發達、灌漑事業等の經費及補助費その他の費途に當てられた。故に此の支出として幾らか人民に還元してゐるのである、それにも拘らず租税はそれが収入を生む割合よりみて莫大である。朝鮮人一家族當りの平均は十五圓二十八錢三厘で、丁度内地人に對する戸別割の四〇%である。その外に農民は屢々僅かな村税を支拂ひ自己の村に於ける道路事業の夫役をする。彼の總税金額は多分彼の収入の八%乃至一〇%に近いであらう。

(6) その他の徵證

經濟的窮迫を示す左程重要でない其他の若干の微證がある。婦人達は野良で段々頻繁に見受けられる様になつた、以前は彼等は農圃の仕事に携ふことは稀であつた。小兒労働も北部では約十歳より初まり、南部では平均八歳で凡ての村に存在するのが見出された。村の六分の五では子供が農作行爲に従事し、六分の一の村では只家の仕事に従事してゐる。大正十四年には大正十三年の數字と比較して、公立普通學校に入學を許可された男子の數は八・一%女子の數は一〇%減少した。

屢々起る自然の災害も亦その役目を演じた。三分の一の村では一年或は二年毎に、五分の一の村では三年或は四年毎に、四分の一の村では五年毎に或は更に屢々洪水や旱魃があるといふことである。灌漑、殖林、堤防、建設工事が今盛に進捗してゐるので此の災難の原因は變て無くなるであらう。

更に現在盛に行はれてゐる人口の移動がある。朝鮮人は何千となく日本に移り、其處で彼等は屢々日本人労働者より安價で労働を提供する、日本本土には朝鮮にゐる日本人と殆ど同數の朝鮮人がゐる。彼等は亦滿洲やシベリアに何十萬となく移住してゐる。見積りは人により異なるが彼等の確たる半島より土地が豊饒な滿洲やシベリアに百五十萬から二百萬の朝鮮人がゐると謂はれてゐる。

此の動搖は調査した村では極めて明瞭であつた。最近五年間に北部の十ヶ村中八ヶ村では五百三人が去つたが、その大部分は滿洲に、残りは京城府へ行つた。中部の十二ヶ村の中四ヶ村では三百四十

五人送り出し、南部の十三ヶ村中四ヶ村では千五百二十七人が去つて行つた。中央の村からは移住者の多くは滿洲に行つた。南部を離れる人の行先は内地朝鮮及滿洲の何處かへ一様に行つたらしい。故郷を去る理由は恒に生計困難の爲であるといはれる。滿洲の四ヶ村では此の期間に二百二十七人の來住者を朝鮮より迎へ百人を送り出しその多くは更に北方の地點へ、残りは朝鮮に歸つたと謂はれてゐる。

此の移住は日本の人々を憂へさせてゐる、日本の報知新聞最近の社説でデヤパンアドバタイザーに引用されたのが一部分で次の様に載つてゐる。

『滿洲への朝鮮人の移住は年を経ると共に段々増加してゐる、而してこの移動は朝鮮總督府では如何ともし難い。之は朝鮮と我々との關係に於て重要な問題である。従來は日本の政治が朝鮮人を經濟的に窮迫しない様に保護する事を怠つたので滿洲へ行つたのである。』

耕作されてる土地が擴くなり生産が夥しく増加したことは否定し難い事實である。然し之は朝鮮人に餘り利益を與へなつたので彼等は母國に留まる氣分にはなれなかつた。日本の政治の爲に、朝鮮人が彼等の主權國の人民に倚存する様に朝鮮に於ける我々の威信を高めなければならぬ。……之は政府にとつて重要な問題である』

二千三百七十五人の總減少に對して此等の三十五ヶ村は三百五十三人の來住者を迎へたが、その多

くは道内から、少數は日本からである。

農村生活に満足しないも一つの徴證は既に言及した市街地の發達である。大正五年末は地方戸數は朝鮮に於ける全戸數の八四・七%を占めてゐたが大正十四年末には比率は七五・九八%に下り、昭和二年末迄には恐らく七二%から七三%の間であらう。

(7) 判 決

徴證は今や提出し盡したから、讀者は朝鮮に於ける經濟的不況の程度と重大性に付て自分の意見を樹てられ度い。著者にとつては朝鮮の市街地より地方を一層深く包んでゐる重大な形勢が存在してゐる事に付ては疑がない様である。増加する負債、増加する小作關係及人口の否み難い動搖は健全で尋常な状態の徴候ではない。此の様な事態に教會が重大な利害關係を持ち又恐らく責任を持つてゐる事は明瞭の様である。然しその事を決定してもよい前に、出來得べくんば、不況の原因を發見することが必要である(註)

(註) 先の調査と照合する爲、又朝鮮人が時局を如何に考へてゐるかを知る爲に、調査した各村に於ける指導者に主要な經濟問題を述べる様に頼んだ。二十人は物價下落の爲生計を立て、或は現在の生活標準を維持することが困難であることを示し、七人は小作問題を、十五人は高利率、負債或は資本の無い事を、而して五人は所有地の狭い事を述べた、僅かに二人が税金の低いことを訴へた。

第三節 不況の諸原因

不況の原因を詳細に論じ、何れが比較的に重要であるかを、精確に考量することは此の研究の範圍では不可能である。然し一定の事は明瞭の様である。

(1) 全世界の農業不況

世界の農民は現在不利な境遇にある。千九百二十年以來、米國は農業不振を續け、多くの當局者は更に數年間繼續すると信じてゐる。農民の窮状は英國、日本、その他到る國で議會で討論される重要な問題になつた。農民の窮迫が日本本土に於けるより更に深刻な所はなく、農民の反動が近年それ程機敏で果斷な所は世界の何處にもない。農民の收益が千九百十八年から千九百二十年までの物價騰貴時代に、日本や朝鮮に於けるよりも、比較的多かつた所は何處にもない。此の時代に南部朝鮮に起つた事は、朝鮮人や宣教師の證言によれば、米國の中東部の州で起つた事と同じである。俄景氣の後に避けることの出來ない不況がきた。朝鮮の其の政治状態に縁の遠くない關係を持つ、一般的世界状態より逃れることを希望するわけにはゆかぬ。

(2) 朝鮮に於ける過渡期

繰返して言ふが、朝鮮は農業經濟から工業經濟への過渡に臨んでゐるのである。昨日は封建時代にあつた。明日は文明の利器を使ふであらう。今日は生みの苦しみにあるのである。都市の通りには自動車と牛車が交通の權利を争つてゐる。フォードの貨物自動車、牛、「摺軍」を背負つた人足が街路に並んでゐる新營業建築用の煉瓦を輸送する爲互に糶り合つてゐる。旅行者はタクシーと人力車の何れを撰んでもよい。今日では恐らく勞力が非常に廉いので車夫が勝つであらう。然し明日は何うであらうか。闘争の結果は明かである。此の状態に日本は責任は無い。朝鮮は二十世紀の道具や利器を欲するのである。社會的には朝鮮は飛行船と自動車の近代文明に浴するのを益々喜ぶのである。經濟的には地方朝鮮は暫くの間、恐らく餘儀なく、牛車時代に彷徨ふのである。日本に於ける多くの指導者は自分の國の現状を千八百二十五年から千八百五十年に至るまで英國に存在してゐた状態と比較するが、此の比較はある點では更によく朝鮮に當て嵌まるのである。日本は英國の試煉のあるものを避け様と望んでゐるが亞細亞が臨んでゐる變遷は未だ嘗て苦しまれずには行はれなかつた。朝鮮も例外ではあるまい。而して此の變遷が現在の不況の原因の一つであるといふ事實に隠せずに向ふ事を拒むのは人民にとつて不利益である。

(3) 工夫の無い事

現在の窮迫の第三の原因は朝鮮人が生産的にも、經濟的にも、彼の欲する所に従つて、工夫を廻らす能力が無いことにある。日本滞在中怠惰な者を殆ど見なかつた。朝鮮では寛いで呑氣に煙草を吸つてゐる人や、白晝野良で寝入つてゐる人すら見るのは稀ではない。内地の作物産出高は朝鮮の二倍半である。朝鮮に於てすら、内地人は何時も、朝鮮人の隣人よりも一町歩に付き、二倍或は三倍多く栽培する。支那人も朝鮮人が失敗した所で成功してゐる。

(4) 浪費

典型的朝鮮人は目に一丁字無く、金銭を不必要な物や粗惡な品質の必要物に無分別に費消する癖がある。彼は二十年前より或は十年前からでも、多くの金と恐らく大きい購買力を持つてゐるであらう。然し此の増大は欲望と同じ速度で進まなかつた。此の事實が既に述べた他の事柄と共に彼の不満足を増やした。加之、朝鮮人は法外に過重な費用を要する結婚式や葬禮に關する様な、或る社會の風習を墨守してゐる。金の使ひ方を認つてゐるのは朝鮮人に限つた事ではないが彼等は直一途に經濟的に生き残らんが爲に悶踈いてゐる人の内でも一層不幸である。

(5) 政治状態

最後に政治状態も人民を不幸にしてゐる。多くの朝鮮人が適法ではあるが最高倫理と相容れない過

程を経て土地を失つた事に付ては疑がある筈が無い。朝鮮には搾取が行はれてきたのである。朝鮮に於ける日本の行動は西洋諸國の支那との交渉に於ける政策に多くの先例があることを回想してもそれで日本をゆるすわけにいかぬ。然し韓國政府も亦官吏や金持によつて被治者から破廉恥な搾取が行はれるのを構はずに放任し又陰謀で固めた機構や危ふげに變動する政策が突然襲つてきた滅亡を招いたといふ事を忘れないのはよい。然し乍ら自由の喪失、特に占有後の最初の十年間に於ける内地人の過失、朝鮮人が自分の相手との競争に經濟的に敗けた事は或者には失意の心理を、或者には秘薬を求め、傾向を生み出した。何れの態度も國民の幸福に有害である。

此の状態に於ける一つの攪亂分子は紙幣發行の獨占權を持つてゐる國營の朝鮮銀行である。此の銀行が朝鮮の搾取よりも發展の爲に動かなければ不況の克服は尙更困難であらう、此の銀行の方針は現狀を一層悪化させたとき々非難される。それは兎も角、朝鮮人に對する利益に付て疑問を抱くことは大正十四年八月に日本に於て銀行の總裁が述べた次の様な朝鮮銀行の役員の聲明に鑑みる時は正常である。曰く「朝鮮銀行は内地人の事業が朝鮮及滿洲に發展するのを援助する目的を以て創立されたのである……朝鮮及滿洲に於ける發展が經濟的に重要である個人や会社に特別の援助を與へてきたが凡て此れは日本の經濟目的に奉仕し様と欲して爲されてきたのである。」日本と朝鮮を黙々の裡に差別する

のは、差別待遇を避け朝鮮を帝國の完全な一部分にし様とする政府の努力に背馳する様に思はれる。混亂した世界状態と一社會時代から他の社會時代への移り變りは不幸にも同時にやつてきて、朝鮮人に資力を經濟的に利用する技術上の智識の無い事竝に現在の政治状態と相俟つて今まで引續いた經濟的不況の最も重要な原因中に數へられる様である。然らば現狀に於ける教會の利害關係は何であるか。

第四節 教會と經濟状態

調査の初めから終りまで「經濟状態は教會に何等か影響を及ぼすであらうか」と絶えず質問した。宣教師達は悪い影響を齎すであらうと憂へてゐる。教會の内外に於ける朝鮮人指導者で僧職にある者も然らざる者も其れは教會に害をするかも知れぬばかりでなく既に有害な結果を感ずると確信してゐる、此等の人々が殆ど異口同音に證言することを最も成功した朝鮮人實業家の一人より引用した言葉によく摘要することが出来る。曰く「日本は資本を持つ又朝鮮を支配するだらう。朝鮮人は雇人になるであらう。それで工業化する迄に更に多くの者が、滿洲には將來の希望に満ちてゐるからでなく、寧ろ朝鮮では將來の見込が無い故に、滿洲に行かねばならぬであらう。教會は亦信徒への經濟的壓迫と

難局に對抗するに當つて教會が其の教區を全然援助しなかつた爲に今後數年間は衰微するであらう」

(1) 教會の信徒の富

此の意見に鑑みると、教會の信徒が住民全體と經濟的に何う比較されるかを知ることが大切な事である。二つの比較の基礎が選ばれた。土地所有の事實と家畜所有の事實が之である。二つの比較の結果は教會の信徒は概して地方住民の平均よりも善くも悪くもないことを示した。三十五ヶ村四千戸の様に小さい標本に於ては差異は極めて些細なのでとりたて、言ふ程の事は無い。次は最初の比較の結果を示す。

地方別	村数	非基督教戸口		基督教戸口	
		戸数	所有耕作地率	戸数	所有耕作地率
北 部	10	1,326	33.4%	210	37.5%
中 部	3	1,085	24.9%	3	1.0%
南 部	3	1,487	16.5%	28	1.8%

家畜に付ては政府の統計に由れば朝鮮では農家百戸に付き牛五十八頭、豚四十二頭である。三十五ヶ村の基督教信者の中では比較數字は各五十六頭及五十三頭であつた。此の比較に基けば、教會はその信徒の經濟状態が現状の一般的结果から免れる様に期待することは出来ならしい。

(2) 移住の影響

これは既に滿洲か日本に可成りの移住のあつた村では既に明かにあらはれてゐる。この様な移住の影響の一つとして教會が非常に弱つたことが屢々記された。是れは人口の自然増と來移住が減少を平均した村でも事實である。教會は非常に微力になつたので新しい人口を獲る餘力を持つてゐなかつた。その現象は地方亞米利加で屢々見受けるものである。

(3) 収入と富との關係

經濟状態が教會へ及ぼした影響のも一つの驗證は、農業収入と教會への一人當りの寄附である。農業収入と農場價值並に富の地方教會の發達と社會状態に及ぼす影響は米國に於て社會及宗教研究協會によつて論證されてゐる、同様の關係は次に明瞭に示す様に朝鮮にもある。

農業収入別(單位圓)	平均寄附	教會により調達さるる豫算率	
		100%	豫算率
100—199	3.0%	100%	
100—199	2.9%	7.2%	
200—399	3.5%	8.6%	
400—	9.0%	9.7%	

朝鮮農村觀察報告 四七



此の表で注目されるその傾向に對する唯一の例外は低い収入の人々の中に於ける貧弱な豫算を持つた僅かの小さい教會の傾向である。

此の點に付て一言しなければならぬ經濟狀態中に於ける一要素がある、最近一二年の内に新らしい教會或は教會學校が建てられた部落では教會の信徒の平均負債は殆んど新建築に對する平均寄附に等しかつた。他の多くの村では基督教信者は教會や其の補助團體への寄附と教會が唱導する子女の教育や安息日基督教の祭典並に村の休日を守ることを含む高い生活費が、經濟的に進歩することに失敗したことに責任があると、確信してゐると述べた。

それ故に教會は經濟狀態に眞の利害關係があり他の何らかの社會機關と同様に影響を受けるばかりでなく、この問題に關しては其の信徒に對しても幾らか責任があると思はれる。

第五節 救濟方法

この狀態を改善せんとしてゐる努力並に所々の個々のある村で成し遂げられた見事な成果に付て述べなければ此の議論は完全ではあるまい。

(1) 家内工業

先づ第一に内地人は屋内で經營し得られる多くの副業を齎したが内、主要なのは養蠶である。藁から臥と簾の製造も主要産業である。繩と鞋の製造も、假令護謨入りの眞田紐と靴が急速に此等の繩製品に取つて代つてゐるが矢張り主要な副業である。

(2) 産米増殖計畫

政府の庇護の下に三十五萬ヘクタールの土地を灌漑し様とする巨大な計畫に基き、作業が既に開始されてゐる。其の結果として此の範圍内で生産高が二倍半増すと見込まれてゐる。事業は三億四千萬圓を要し、四分の一は補助金が土地所有者に支拂はれる筈であり、残りを地主は公債の賣却に由つて集めた資金より七分一厘の割合に低利な率で貸りる事が出来る。増加した産出高は利息を支拂つて猶餘りあるべく、加之、土地の價格が非常に騰貴するだらうと期待されてゐる。此金の五分の四は勞力に支拂はるべく、その多くは朝鮮人で昨年は延人員八百萬人雇はれた、計畫は最後には成就するであらうが鐵道哩數を倍加するに要する勞働賃金支拂に加へて今後十一年間に互り約三千萬圓の金が毎年朝鮮に流れ込むのである。若し此の金が朝鮮に保有され新工業計畫に資本として用ひたなら眞の進歩が起つてゐるであらう。

(3) 遠い將來の展望

朝鮮では水力、石炭、木材、鐵、金、其他の礦物の資源が莫大であるに拘はず工業化は遅々として進まない。自然の富源はやつと手をつけられた。勿論、何時かは富源は開拓されるであらう。實に開拓は初められたのであつて鐵道の擴張はその發達を速めるであらう。然る後に教會は新しい機會と新しい問題に遭遇するであらう。

(4) 繁榮せる所

然し乍ら、朝鮮は近い將來に於て現在の窮境を逃れる道を求めてゐるのである。それ故に、繁榮に達する立派な道を發見した少しの特殊な村を見出して研究し様と努力した。どんな事が爲されたかを説明する爲、見付け出して研究した此種の村の内二ヶ村を此處に記述しやう(註)

(註) 此の例外的の六ヶ村は此の研究の基礎とした三十五ヶ村に加へられてゐない。三十五ヶ村は普通の状態を示すものとして撰ばれた、六ヶ村は最善の状態を示す様に思はれた而して此の六ヶ村をも含めたら其れが影響して用ひた程度の標本よりなる結果を不正にしたらう。

全羅南道康津郡桃林里は六十戸、三百二十一人の人口を持つてゐる。明治三十八年以來同じ面長を戴いてゐたが、村の成功の多くは彼の指導の賜物である。大正八年に面改善同盟が成立し、毎月會合して共同の問題や農法の改善を論じ合つた、此の討論が實用的結果を齎した事は到る處で明瞭であつ

た。家屋は典型的の村に於けるより大きく多くの家の屋根は瓦葺である。庭は通常見出されるものより廣く綺麗である。米の生産高は最近二十年間に倍加した。昭和元年迄に一ヘクターに付四十五石平均になり、昭和二年の生産高は約五十石であつた。此の村は其の産物に村の記號をつけ、その産物は優秀な品質のものと認められる様に成り、屢々市價よりも少し高價に賣られる。生産物は面改善同盟の手を経て協同組織で賣却される。此の同盟は一種の公會所を持つてゐるが、是れは以前は居酒屋であつて村が買収したのである又視察の時には大きな倉庫が將に完成しかけてゐた。繁榮は益々地主を生んだ。六十戸の内二十八戸は自作農、十八戸は自作兼小作農で十四戸は小作人であつた。僅かに土地の五分の一が地主の手中にある。

婦人も亦、衛生、養蠶、棉の栽培に献身してゐる團體を作つてゐる。團體は棉帛を持つてゐる棉は賣却した残りて地方の需要を充し得る。婦人達は家屋を清潔にし、井戸の表面が汚れない様に充分に保護される様に注意する。彼女等は男達は頭髪を西洋風に切るべしと命じた。村には亦共濟組合がある、凡て此等の組合は一萬五千圓の價值ある現金と財産を持つてゐる。金は村の人には一割八分で外部の者には三割六分で貸される。既に述べた生産物の外に吠や籬簾が造られる。全収入は一家族に付き八百圓を少し超過してゐる。

村の標語は「働け」である、毎朝六時に半鐘が打たれるがその時は人々が床を離れて其の日の仕事を始むべきだと思はれるのである、村を訪れた身體の壯健な親類は終日終始、響應されるが「それから若し彼等が働かなければ留まるべからず」である。村出身の五人の青年が農業を研究し、五人の青年が中學校或は師範學校に在學中で、二人の少女が養蠶を研究中である。

同じ道内で、も一つの部落は優等棉の栽培と協同によつて六年間に殆ど全部が小作であつたのを九十二%が地主であるまでに躍進した。

京畿道、高陽里にては學校の校長に感化されて良い物への刺戟が婦人を通じて起つてきた。最初の必要資本の半分の補助金に勵まされて、彼女等は、大正十一年八月に家畜組合を組織したが、今では百九名の組合員を擁し組織以來一萬一千圓儲けてゐる。組合の資金は村の人に一割の利率で貸與される。配當金は土地、牛の買入や或は家屋の改善の費用に當ててゐる。婦人達は亦舊式の洗濯法に反對してゐる。何となれば彼女達は鶏や蠶の世話に忙がしいので、鹽、石鹼、洗濯粉が彼女等の家事を容易にしたのである。村の人は亦吠を作る。

此の村も亦而改善同盟と青年會を持つてゐる、後者は毎年の清潔日の責任を持つてゐる。青年會は橋が洪水で毀損した時修繕した。近くの村に傳染病が発生した時には日夜高陽へ通ずる道を凡ての往

來を止めて見廻つた、村には傳染病患者は無かつた。

此處でも亦午前六時、正午、午後六時に鐘を打つ。學校が是の責任を持つてゐる。繁榮の微證の一つは就學年齢の百八十五人の小兒の殆ど三十六人が學校に通つてゐることである。實に學校も著者が朝鮮で見たい一番立派な、優れた農場を持つてゐて、其處で生徒が監督の下に働いてゐた。有望な卒業生は引繼いで農業作業で援助を受けてゐる。夜學校があつて、其の卒業生並に晝間の學校の卒業生が讀書會をつくり雑誌や新聞を回覧してゐる。

同じ道内の、も一つの村では意氣銷沈せる面長が自分の部落が段々貧乏になつてゆくことを述べた後「文明は非文明より悪い」と言つた。研究した二つの成功した村では孰れも六十を越え又二百哩も離れてゐる元の面長が二十年前より孰れの時がよいかとの質問に、同様に「遙か以前より今暮す方がよい」と答へた。證據立ての爲に彼等は經濟的進歩の後に起つた社會的進歩を指摘した。彼等と彼等の村にとつては將來は希望を持たせ而して彼等の人生の試煉は財の富の爲でなく精神的の富の爲である。

第三章 社會生活

朝鮮に於ける經濟狀態は多くの重要な社會的效果を持つてゐる事が示されてきた。他方では社會風習は東洋の到る處と同じく人民の經濟生活に非常に大きな影響を及ぼしてゐる。此の章は、そこで、社會環境—その中にあつて地方教會が働かねばならない—の吟味に移らう。此の吟味は紙面の制限と人民の社會生活は到る處で記述されてきたから極めて簡單でなければならぬ。

其れは主として視察した三十五ヶ村で發見された狀態と訪問した他の村で爲した觀察に基くものである。朝鮮人農民は大抵の東洋人の様に群をなして住み、村を出て野に働きに行くのである。三十五ヶ村の内十五ヶ村は農民、少數の巡査、教員、説教師を除いては雇人はない。他の村では商業らしい物も初まつたが、此の十五ヶ村は殆ど純粹に農業團體である。

(1) 共同社會體の構成

此等の自然社會體の廣さは各々村と田畑を包含し、地方により又同地方内では人口により著しく差異がある。北部に於ける田畑は他の何處よりも大きいことが思ひ出されるであらう。又自然の社會體の廣さもその通りで廣袤三分の一平方哩から十哩平方に及ぶ變化があり、平均三・六平方哩である。

北部の社會體は他の何處よりも餘程密度が低い。そして北部では割合に孤立してゐる農場建物や二戸から五戸乃至六戸の村が見受けられる。中央の道では平均面積が三分の一平方哩で南部では二分の一平方哩である。而して活動範圍は七分の一平方哩から一平方哩である。此等の全社會體は廣さでは米國の千人以下の村の總合面積と大體等しい。

米國の村が隣接區域の農民に與へる商業上及職業上の奉仕は朝鮮では市場町で爲される。朝鮮にはこの様な町が千三百位あつて各町で毎五日目毎に行商人が、何哩も離れた周圍の村から見物したり買つたりする爲に來た人々の爲に大通りの兩側に商品を並べてゐる。市日は牢固として抜ぬことの出来ない社會制度である。市日は新聞と小屋の代りをする、市日に出かけることは通常一日を全く潰すことになるので、市日が頻繁に環つてくる事は經濟的損害である、市場町が呼び寄せる範圍は可成り廣く、五十平方哩から二一〇平方哩に及ぶ米國に於ける農村の取引面積と全く匹適してゐる。研究した村は概して市場町から五哩離れ、同地方内では少しも差異はない。時々、距離は十哩から十五哩であることがある。

朝鮮に於ける二萬六千以上もある此等の村は、社會組織の何かの設計に於て極めて重要である。此等の村は社會活動の自然の單位を形成する。人民は今まで孤立し過ぎてゐたので自分の村と市場町と

を除いては、何處とも少しも重要な接觸を持つ事が出来なかつた。明らかに是れは教會の誘引力に影響する。何となれば村の教會に信徒として加へられてゐる村の人口の割合は屢々米國西部の内地傳道場に於ける割合と具合好く匹敵するが、辛うじて教會信徒の八分の一が他の村からきてゐるから。同様な状態は公立普通學校にもある。兒童の大部分は多くの近くの部落よりも學校のある村から通つてゐるのである。

此等の村或は自然社會體は朝鮮の社會組織の最も獨特の特色の一つの様である。それは民主的で、非常に自制的で、その中に家族生活の根を張つてゐるのである。

(2) 家族

家族は極めて重要な社會單位である。その構造は一層凝集的で、家族を支配する風習や傳統は西洋に於けるよりも更に嚴格である。是れは現状に於ては朝鮮にとつて強味の源でもあると同時に弱味の源でもある。廣い輪廓だけとつていへば家族の構造と家族の慣例は東洋の多くの所に存在してゐるのと似てゐる。老人を非常に尊敬し、祖先を禮拜する。慣例上の葬式は非常に金のかゝる行爲で多くの好い土地が埋葬地として使はれたので、從來生産目的の爲に失はれてきた。然し、この状態は支那に於ける程仲々無くならない。そして政府は埋葬に關する餘程嚴重な規則を勵行してゐる。故に農業地

を埋葬地として更に使はれる事は左程ではあるまい。

祖先を忘れない様に強調することは子孫を求める欲望になり結婚を個性の無い、個人の事件でなく家族の事件にしてしまつた。假令若い人々が益々自由選擇を要求してゐるが、大概の結婚は仲介によつて取極められ、仲人は當該家族と交渉するのである。在來の結婚式は葬式の様に普通の家族の資産と全く釣合のとれない経費がかゝる。此等の二つの儀式に關して蒙る費用は、調査した村で報告された多くの負債の問題に責任がある。一層進歩的の村のあるものは共に、花嫁花婿用の必要な衣裳、婚禮用椅等を用意して廉く貸してゐる。

未來にも永く生き様とする家族の欲望の強い事は結婚を個性の無いものにしたばかりでなく家族内で斷然從屬的地位にある婦人の状態に非常に責任がある。

(3) 家族と慈善團體

家族の連帶責任は家族を朝鮮の養老院と貧民收容所にした。是れはこの様な慈善的機關のない土地では重要である。然しその結果は生産力ある朝鮮人に非常な經濟的重荷を背負はせてゐる。朝鮮では五十歳の人は老人である。自分の子息が成人すれば隱居するのは男子にとつて普通の事である。子息は斯くして父とあとから來る後裔を扶養する責任を負ふ様になり、而して國家はこの様に隱居した人

毎から十五年或は二十年の生産期間を失ふのである。勿論初めは、この習慣は村の生活を鞏固にする役にたつた。この習慣は長男が弟妹と土地を争ふことを防いだ。今日ではこの習慣は非經濟的である。然し更に悪いのは、原因の如何を問はず貧乏してゐる或はそう思はれるどんな親類でも、ある經濟的に成功した人の所へやつて來て滯留することを許す道徳である。此の習慣は多くの人を餘儀なく破産しない様に絶望的に努力させてゐる(註)數世紀に互つて收税吏や寄食親類の爲に朝鮮では庶民側の進取的經濟的進歩が虚けられてきた。一人が残したものは他人が貪り食つた。

(註) 著者が朝鮮に滞在中、一宣教師の朝鮮人秘書が辭職した。理由を迫られた時は言つた。貴下は月に三十五圓支持つて呉れるが、若し私が月給三十五圓貰ふと私の叔父従弟が來て私と同居するであらう。若し私が職が無ければ私の方から出て彼等と同居することが出来る。私は仕事のない方がよい。西洋流教育の爲既に負債のある一人の朝鮮人が親戚時の二十人の親類を養つてゐた。

(4) 變化しつつある社會道徳

經濟的窮迫は此の風習を改め始めてゐる。經濟状態や其他の状態が社會道徳に變化を惹き起してゐると調査した村で異口同音に公言した。是れは教會の構造にも見られる。初期にはある所では男女は同時に教會に出席しなかつた。そして宣教師が婦人に説教する時には彼の顔に被覆をかけて彼女等を見えない様にした他の教會では男女の間にカーテンが掛けられ或は教會は頂點に壇をつけたL字型に

建てられ男女は假令分離されてゐるが同時に宣教師を見又宣教師より見えた。最近の教會では男女は舊清教徒派の中ですら壇の反對側の席に就いてはゐるが、カーテンもL字型も消滅してしまつた。

二ヶ村では祖先崇拜がなくなりかけ、又二ヶ村では若い者は最早當然の事として老人に服従しないといはれてゐる、多くの村では凡ての風習や傳統が急速に或は緩慢に變化してゐるといはれてゐる。そして三分の一の村では兩性間の交際が段々自由になつてゆくといはれたが、僅かに三ヶ村では兩性間の自由の關係が問題になつてゐるといはれてゐる、七分の一の村が特に衣服の型を變へる様に強制された。之は非常に重要なことである。何となれば夏には朝鮮の國民服は白でそれ故に婦人達には洗濯、アイロン掛け裁縫―裁縫といふのは充分に清潔にする爲バラバラに解かれるからである―に忙殺されるからである。冬には衣服の洗濯は染め直しを必要とする。この様に費消された時間の幾らかを更に生産目的の爲に使つたらよい様に思はれる。

社會思想の最も著しい變化の一つは多くの朝鮮人青年が熱心に共產主義の學理を抱懐したことに顯はれてゐる。老指導者の一人が言つた様に「經濟的不況はボルシェビズムを促進させた」僅かの人々の會話や會合から判断するならば智識階級が奉じてゐるのは空論的典型的共產主義といふ事が分る。今や數年も古いソビエトの「新經濟政策の實際の詳細と主として共產主義理論と更に妥協せねばな

らぬ事を示してゐる此の政策の後に於ける修正を驚く程知らない。支那に於ける事件も亦此等青年指導者を鼓舞した。然し露西亞は彼等の精神上の指導者である。

(5) 教 育

從來家族はそれが受けた凡ての教育を普通の子供に施した、然し乍ら、嘗ては漢籍で學生を教育し承認された支那風に從つた無数の學校があつた。今でも澤山あつて、大正十四年には二十萬八千三百十人の生徒を持つてゐた。然し有り相な事ではあるが大正十年以來一年約一〇%宛在籍が規則正しく減少し續けてゐるならば昭和二年から昭和三年にかけては十六萬二千人しか生徒數を持つてゐないわけである。

公立普通學校は大正十四年には三十六萬七千五百五人、私立學校一殆ど全部が基督教の學校であるが一萬七千四百人の生徒を持つてゐた。一萬人以下の學生が高等普通程度の學校に在學中である(註)朝鮮に於ける生徒數は約五十一萬である。今では南部では殆ど凡ての面毎に、北部では二面毎に公立普通學校がある。換言すれば自然の共同生活體十乃至二十毎にこの様な學校が一つある、朝鮮は固定式學校制度を採つたから生徒自身はそこまでは通ねばならないのである。調査した教會の約七分の二も含めて地方教會の多くが自分の學校を持つてゐるのはこの困難の爲である。此等の學校數は政

府が學校を新設するに従つて減少してゐる。公立學校は部落の一般社會生活中の一因子として段々増加しつゝある。

(註) 朝鮮には專門學校八校、高等普通學校十四校と近頃創立された小さい京城帝國大學があり、大體官公立である。又約三十の各種の實業學校がある。

朝鮮人は最近十年間に教育熱を非常に昂め、二三年前迄は在籍數は頗る飛躍した。然し今は此の増加は衰へた。ある所では經濟的狀態の爲に減少してゐる。而して教育は屢々借金によつて行はれてゐる限り此の減少は續くであらう。

此れに關聯して一つの重要な問題が注意される必要がある、昔は朝鮮では教育は公職に就く資格を與へた。今日では大抵の有利な公職は内地人に占められてゐる、そして高等普通學校や專門學校の卒業生の數は就職し得る教職、公職の數よりも遙かに多い(註)昔は學者は手技に身を落してはいけなと思はれた。技術教育は此の態度の爲に遅々として進まなかつた。多くの卒業生は役にたつ仕事をすより忘れてゐたがる。そして調査した村の指導者は、近頃の學生の未就職を今日の社會問題でもあるし且又家族が負債してゐる理由であると言つた。

(註) 十三道の中五道の知事は朝鮮人である。總督府では朝鮮人の課長數は僅かに一、二人である。課長は通常内地人である。概して言へば租税で支へられてる公共機關の行政並技術の長は内地人である、同様の狀態は官公立學校にもある。而長は凡

(4) 健康

地方朝鮮に於ける社會生活の他の方面の中健康状態は假令最近三十年間に非常に改善されたことは疑ない筈であるが特別に取扱ふ爲撰び出す價值がある。

傳道團はセブランス聯合醫學専門學校に歸依者に簡單な衛生學を教へることに由つて非常に貢獻をした、日本政府も港灣に於ける入船の嚴重な検査ワクチン注射や種痘を重視することによつて、状態改善の手段を講じた。コレラは大正九年以來殆ど驅逐されてゐる、天然痘は非常に除かれてゐる面して室扶斯は主として飲料水の源泉の改善が成功して昔程流行してゐない。調査した村の約半數は種痘や蚊の驅除の様な豫防手段を講ずる政府の努力を扶けてゐた。非戸は一層よく注意されるといはれてゐるし、又半年毎の大掃除には巡查と喜んで協力してゐるといはれてゐる、然し調査した三十五ヶ村に於ける状態は未だ餘程改善すべき餘地があることを示してゐる様に思はれる、寄生虫も亦大きな犠牲を要求する。

調査の前年には此等の村の僅かに五ヶ村が少しも悪い傳染病に襲はれなかつた。二十ヶ村では少し室扶斯があつた、十五ヶ村では赤痢があつた、十四ヶ村では流行感冒があつた。各村で一、二人がデブテリア猩紅熱天然痘に罹つた。マラリアは十七の村で流行し鉤蟲やトラホームは二、三の村で屢々起つた。五ヶ村で總て十人の癩病患者があつた。而して八ヶ村は住民中に總計二十人の白癩或は氣狂ひを持つてゐた。癩病患者を除いてはこの様な患者に對する何等の設備はない。癩病に對してすら却々充分な設備はない。

凡て此の不健康は多大の犠牲を要する。此等の村の三分の二に於ては不健康は負債の幾分か責任がある。教會のない七ヶ村の人は病氣に抵抗するに魔術や祈禱を行つたり犠牲を供したりする。假令金肥の使用が今や政府によつて奨励されてはゐるが、下水、汚物や下肥が日本支那に於けるが如く、何處でも肥料として使はれてゐる。

調査の前年に於ける此等の村の出生率は南部の二四・八%から北部の三五・九%に及んでゐる。死亡率は平均前者二八・七八%、後者一八%である。幼児の死亡率の統計に付ては調査した村では得られなかつたが大正十四年には全國の普通學校の死亡率は男子七・八%女子は七%で最近十二年間の平均より少し高い。

かゝる状態は評論する必要がある。教會は過去の行動や現在の行爲によつて人民の肉體的康福に關心を持つてゐることを示した。

此等の事實は未だ爲さねばならぬ多くの事があることを示してゐる。

(7) 一般社會生活

人民の一般社會生活は儀式上の或は普通の餘暇時間の交際に關係を持つてゐる。此等は幾分か利用し得らるる會合の場所の如何による。ある村では暇な時間は家内工業をして費すといはれてゐるが他の村では多くの時間をブラ／＼し、話をし、遊戯を爲し或は長い朝鮮煙管をすふことに耽つてゐるのを認めてゐる。男子間の交際の頻繁な場所は上流階級の家の男子の部屋、市場、酒屋、或は小賣店である。

普通の遊びは朝鮮將棋か、かるたを含んでゐる。若い人の間では風揚げ、石投げ、鞞、綱引き及石蹴遊戯がある、相撲は祭には普通に行はれ十二ヶ村では學校の上級生は西洋の野球やテニスを入力した。然し、凡ての年齢の人にとつて普通の暇な時の遊びは旅講談師の話聞くことである。

(8) 組合

禮式の交際は學校、教會、少人數の村の集會、或は青年會館を中心としてゐる。儀式上の餘暇時間の交際は明かに増えてゐる。ある形式の交際は確かに内地人より助長されてきた。見付け出した組合は經濟的及社會的の二種類に分けられる。經濟的組合は農業組合、救済組合や契を含んでゐる。三十ヶ村の内二十四ヶ村は此等の一つ或はより多くを、十一は少しも持たなかつた。社會的組合は餘り

なく、八ヶ村は一乃至二、十七ヶ村は少しも持たない、而改善同盟と青年會は一番普通の型である。此等の豫算は時々二百五十圓から三百五十圓に達し、多く村内の改良の責任を負ふてゐる、社會的組合の多くは經濟的趣のある目論見を持つてゐて凡ての經濟的活動は大なり小なりに社會的である。此等の團體の多くは七十人乃至八十人の組合員を持ち毎月、四ヶ月毎に或は半年毎に會合してゐる、平均出席者は加入者の八二%である。而改善同盟と貸付或は救済契は最も多くの組合員を擁してゐる、凡ての組合の五分の三は最近五年以内に組織され殆ど四十の中七つが十年以下の古さである。

經濟的組合は教會のある二十二ヶ村の内十七ヶ村で、教會のない十三ヶ村の内僅か七ヶ村で見出されるといふことに氣付いたのは面白かつた。同様に社會的團體は教會のある村の十四の村にあり教會のない他の僅か四つの村にしかない。此等の組合は地方に於て慣習や風習を改め殊に傳統を破り困難な企業を企てる勇氣を會員に與へる道徳的團體を作ると認められてゐる。

團體の一致によつて可能な此等の變化してゐる行動標準は多くの影響の結果で、あるものは明瞭に西洋の、あるものは初め日本の影響で、あるものは都市の文化や風習の模倣にその源を辿り得る。此等の新文化の徴候は此等の村の指導者より承認された。都市は浪費、娛樂、衣裳の欲望を助長し又物質的の便益に關する智識を擴めると非難されてゐる。外國の影響は教育への欲望が増大し、科學の事

實を喜んで信ずることによつて認められてゐる。外國人からも新らしい道具が齎らされた。然し他方では外國人は小規模の取引を消失させてゐるし又工場の建設せられる所では職人が失業を餘儀なくされるといふことが認められてゐる。

内地人の影響は、西洋文明の或る方面と日本を提携させ様として、朝鮮に於ける西洋風の運動の一部として朝鮮を包含してゐる事を除いては、此等の變化中に於ける他の二つの要因程は恐らくよく了解されてゐなかつた。

飲酒が増えた事に責任があると内地人は非常に屢々非難された。然し六ヶ村では飲酒が最も頻々としてあるといふ話だが十八の村では飲酒に可成り強い反感がある様であつたし、數ヶ村では禁酒が輿論に強制されて勵行されてゐた。朝鮮に於ては禁酒を可とする經濟的議論は却々強い。然し日本の下で酒場と遊廓が公認されてゐるので日本の朝鮮地方生活に對する影響は禁酒や賣淫問題を明らかに超越した事柄である。

地方部落への日本の偉大なる社會的勢力は警察官によつて揮はれる。治安を維持し、犯罪を豫防し、發見する普通の義務の外に警察官は衛生規則を勵行する責任を負はされてゐる。彼は埋葬を許可し、公會を許可し、演説を檢閲し、若し露はされる感情が彼が公政策と考へる所と一致しないならば集合

を停止する爲に集合に臨場する。若し彼が必要と考へるならば彼は辯士を捕へ取調の爲に拘留するこゝとが出来た。彼は屢々宿屋の主人に客を警察署に知らせる様に要求して、部落を訪れた外來者に特別の注意と監視をする。彼は學校を訪れ、生徒の行動と連絡を保つ、彼は旅行免狀の凡ての願書を取調べ、朝鮮の國境外への旅行を許可する、彼は出生と結婚を記録し、彼の管轄下の凡ゆる住民の公の記録を保持する。警察官が立派な教養のある人であり、よい判斷の下せる人であるならば、彼は部落で慈悲深い力を持つてゐる。然し若し教育も判斷力もなければ往々ある事であるが人民の生活を慘めなものにすることが出来るし又實際するのである。

明かに日本は支配國として非常な影響を社會狀態に及ぼしてゐる。日本は他の如何なる國よりも更に急速に封建制度から産業制度の道程を歩んだ。そして假令行程は未だ完成してゐないが今日までの進歩は世界の賞賛を博してゐる。それ故に日本は朝鮮で施行されたどんな政策からでも得られる効果に付て自信を感じるのである。そして重大な誤謬の一つは朝鮮を同化し又日本の經驗を利用させ様と凡て同時に企てたことである。併合後最初の十年間は大ざつばにあらゆる生活様式に觸れた六十以上の政策の變更が實施され一、二年後には修正されるのであつた。假令變更の裏面の動機が如何に價値のあるものにせよ、社會秩序に於ける引續く變化が同化される速度には制限がある。其の限度を超

えたら社會の混亂が起る、そして規則の絶えざる變化、公の報告書で「時代精神」に屢々言及すること、ある政策の失敗を用心深く認めることは、斯の様な偶發の結果に向つてゐる。

新政治の人民の社會生活に及ぼす終局の結果を豫測したり今日までのその効果を評價することは不可能である。然し日本の模範的社會組織が首尾よく職務をつくし、新らしく建てられた日本風の扉と窓とを持つて朝鮮人の家や朝鮮風の暖房を持つた朝鮮人の家を見るならば文化の必然的混合が既に始まり朝鮮に於ける日本人ですら自分の國が併合した土地の社會的環境より影響を受けずにはおられないことを知るのである。この様な環境の内に教會は今日あるのである、教會は別の政府、急速に變化した社會組織や此等の相異つてゐる力の作用により鼓舞された一層活發な譯の分らぬ人民に向ひ合つてゐるのである。今日地方朝鮮に於てその教會はどうなのか。

第四章 教會の狀況と計畫

朝鮮に於ける最初の基督新教の傳導事業は醫療であつた。布教は勅令で禁じられてゐた、そして積極的の基督教の宣傳は僅かに三十年の間に行はれた、昭和元年一月一日に於ける基督教の教會—朝鮮人、内地人及支那人の團體を包含し、基督新教徒、ローマカトリック教徒、ギリシヤカトリック教徒—は朝鮮總督府統計報告に載せてある報告によると二千二百二十人の説教師を加へ三十六萬千四百四十一人である。それ故基督教は比較的短期間に人口の一・九%を獲得した。

(1) 一般の狀況

朝鮮基督新教徒派の中では宗業事業は殆ど獨占的に長老派教徒とメソヂスト教徒の手中にある、英國教、救世軍、第七日安息日耶蘇再臨教、聖公會の一派がある。然し、彼等の信者は全體の5%に足らない。此等の二つの二大團體は傳導團聯合會の最近の記録によれば十一萬一千六百九十八人の洗禮を受けた者と二十二萬五千三百八十六人の信者を持つてゐる。此の數字は大正九年以來洗禮を受けた者では三五・九%全信者では僅かに八・四%の増加を示してゐる。又七千二百二の教會や布教所や傳導事業の中心地があるといはれてゐる。

此の増加にも拘らず、ロバート、イ、スビーア博士は、教會よりの夥しい漏洩があると指摘してゐる。スビーア博士によれば長老教會では一人を保持する爲には四人の改宗者を獲得することが必要であつた。近來数年間に總體は非常に増加したに拘らず純粹の減少があつた。全基督教徒團の政府の統計も同様の傾向を示してゐる。

寄附も亦高下してゐる、大正九年の七十四萬九千七十四圓から大正十年には百六十四萬九千七百十七圓に騰り一二〇%の増加で税金と銀行預金の増加に全く匹敵してゐる。其の頂上から毎年減少して昭和元年には百十八萬七千六十七圓になり二八%を失つた。三十五ヶ村に於ける一人當りの提供額に基けば、大體の見積りは此の總額の四分の一から三分の一は朝鮮の全信者の四分の三を占める地方教會の信者より徴收され、残りは全信者の四分の一である都市の信者より集められたのである。

(2) 地方事業

布教聯合會と朝鮮國民基督教會に含まれてゐる團體の全員中七三%は地方にゐる。換言すれば地方の信者は十六萬四千五百三十二人、即ち朝鮮地方人口の一%である。それ故に逆に都市人口の一・七%を構成してゐる六萬八百五十四人の教會の信者がある。市街地には約二百二十五、地方には約七千の活動中心地がある。

此の統計で重要な事實は教會が地方人口中よりも都市人口の中の割合が多くなつた事ではなく地方の事業が全體の大部分を占めてゐることである。前に示した様に地方基督教新教徒の数は全基督教徒の七三%である。その割合は總人口中の地方人口の割合に殆ど等しい。朝鮮を獨特の場所としたのは即ち之である。

例へば實際の布教事業は日本では朝鮮よりも二十年も早く始まつたが、日本での教會の總信者十七萬七千六百八十三人は朝鮮の地方の信者を左程超過してゐない。而して日本に於ける教會は殆ど都市にある。僅かに最近二三年間に地方傳導問題が日本で大いに論ぜられてゐる、精確な數字はないがメソヂスト監督教外國傳導局の秘書の一人トーマス・ドノフ博士は亞細亞の人口の八〇%は地方にあるが基督教事業の八〇%は都市にあると大體見積つてゐる、粗雑ではあるが此の見積りと、日本のかゝる事實は朝鮮に於ける教會は、他の場所と比較すれば農民に近づくことに非常に成功した事を示してゐる。

(3) 成功の理由

何がそうさせたかを調べるのは今や適切である、明確なる答へは初期の宣教師が地方事業をしたといふことである。彼等は京城や平壤の様な大都市に定住はしたが、此等の市街地を根據地にして絶え

ず田舎に出かけた。地方の信者達を屢々巡視することは出来なかつたので、指導者の訓練に最初より力を注ぎ地方の町より基督教信者を毎冬數週間の訓練講習會に連れてきた。屢々數百人時に千人以上の人を呼び集めたこの講習會は都市に印象を與へ都市の事業にも有利に反響した。此の様な訓練は朝鮮人基督教信者を信仰の宣傳者とするに與つて力あつた。彼等は全然金を寄附することは出来ないが、使役を申し出たのである。この経験は彼等を發展させ最初から宣教師達は地方事業に關する限り財政的援助を受けない固有の教會を建設する様に努めたのである。是れは朝鮮人に責任を負はしめた。

此等の原因の外に政治状態が宣教師に有利になる様に動いた。傳導が非常に發達した時期は朝鮮が日本に併合される前後の暗黒時代であつた。人民はバビロン逗留時代の猶太人の經驗に匹敵する様な經驗を嘗めてゐた。そして彼等は豊かな生活を約束する基督教の教理や假令他の世界に委託されてゐても、正しい者の終局の勝利の語に極めて容易に耳を傾けた。宗教は彼等の傷ついた精神に解脱を與へ、彼等の損失を償ひ彼等の意欲のあるものを満足させた。

最後に基督教運動の成功の多くは幾多の宗派間の協力の爲であるといふことは疑ある筈がない。全部とはいはぬが高等教育を施す多くの設備は性質に於て同體である。合同出版事業もある。而して最も大切なのは朝鮮の領土を割然と割り當てられたので宗派間に争がないことである。

固有の教會の場合には更に鞏固な結合がある。長老派の四つの支派が合同して朝鮮長老派教會を作り又メソヂスト教徒も眞面目に同一の行動を論じゐるからである。

田舎に住んでゐる教會の全信者の割合が非常に多いのであるから、基督教新教の傳導に關する歴史家バイク博士が次の様に喝破したのは驚くに足らない。曰く「朝鮮に於ける典型的教會は村の教會で典型的基督教信者は頑丈な、勤勉な正直な農民である」と。次では田舎の教會に付て述べよう。

(4) 地方の教會

次の記述は訪問した三十五ヶ村の内二十五ヶ村で見出した教會の調査と六ヶ所の他の教會の研究に基くものである。

建物は朝鮮風で前に述べた様に正方形或はL字型であつた。幾らかは矢張り校舍を持つてゐたが、二三は公立普通學校の設備にそっくりであつた。採光は石油ランプで一、二の教會は電氣があつた。會衆は朝鮮風に床の上に座るのであるから腰掛は不要である、舌オルガンと時としては小さい聖書室の装置が設備を完成してゐる。

教會の平均人員は第八表に示す様に地方により著しく差異がある。

第八表

地方別による平均教員と出席者

地方	平均教員	平均出席者	出席率
北部	二四	八五	六八五%
中部	一四二	六八	四八〇%
南部	八〇	七二	八九〇%

北部は教員と出席率では二番目であるが、現在の人口との割合に於ては他を抜いてゐる。第九表はこの事實を示す。教會のある此等の村で現在の人口の割合は米國西部に於ける村の國內傳導教會によつて作られた記録と比肩することが認められるであらう。

第九表

地方別教會人口率

地方	村の總人口	在住教員	教會の人口率
北部	二、七〇〇	八二七	三〇五%
中部	五、五九九	一、一三〇	二〇〇%
南部	一〇、三六	一、七七八	二五%

現在人口比率は此等の教會が爲した競争の程度に於て疑問を起させる、僅か二ヶ村では他の宗教は現れ出なかつたが三分の二の部落では教會がなかつたか或は此等の宗教が組織だつた表示をしなかつた。

た。佛教派は十七ヶ村に、基督教、佛教、儒教の宗教政治的綜合といはれる天道教は十一ヶ村に、而して儒教すらも十二ヶ村にあつた。宗教は僅かに五度重大な社會的分裂を惹き起した。内二度は基督教徒とローマカトリック教徒間の不和であつた。後者は以上の村の中五ヶ村にあつた。

(5) 教員の年齢と性の分布

教會が年齢と性に於て同じ割合で教員を得たか否かを知らうと努力した。一定の年齢別に從つて人口を分類する事は出来るが、教員の比較資料を手に入れることは容易でない。然し乍ら、人口と教員中の成年男女を比較することは出来る。此の比較は第十表、第十一表に示すが、それは東洋に於ける様に教會は、男子を獲得することが女子程でない事を示してゐる。尤も此の點に於ては北部の教會は他の地方よりも成功してゐる。

第十表

地方別教員成年男女率 (二十二ヶ村)

地方別	男		女	
	人口	教員	人口	教員
北部	四九九%	四七六%	五〇一%	五二四%
中部	五三%	三九二%	四七八%	六〇八%
南部	四九〇%	四〇六%	五二〇%	五九四%

朝鮮農村視察報告



第十一表 地方別教會員男女率 (二十二ヶ村)

地方	總人口		教會員	
	男	女	男	女
北 部	五一〇%	四九〇%	四五五%	五四五%
中 部	五三三%	四六七%	四一九%	五七一%
南 部	四九二%	五〇八%	四〇六%	五九四%

(9) 宣教師と財政

此等の教會の宣教師の多くの者は初期の傳導事業の産物で教育が無い。若い人は概して高等學校か神學校の教育を持つてゐる、少数は大學卒業生である。普通の牧師は四・三箇所をもち四十八圓五十錢の月給を貰つてゐる、借替の無い助手給料は月三十圓で、聖書讀み女は十八圓である。

朝鮮教會の給料負擔はコエン氏の調査した時には、二百二十圓の總豫算の四六%に達し、その割合は米國に於ける餘り裕福でない教會のそれに極く近い。此の現在の調査に於て、視察した教會に於ける各員の平均寄附は三圓七十二錢であつた。

第七表に示した様に朝鮮人自身より非常に支持されてゐる組合事業の外に病院や教育機關の様な事業を總て自分で世話する意味に於て自立出来るまでには暫くあるであらう。

(7) 教會の綱領

朝鮮の地方教會の豫定書は全世界の田舎教會の月並みのものである。説教と祈禱の勤行が活動の大部分をなしてゐる。この様な會合は一月に教會毎に八回から十二回に及んでゐる。訪れた凡ての講社は日曜學校を、五分の一の講社は聖書毎日講習會を亦持つてゐた、此れは米國に於ける村の教會に於けるより少しく割合が高し。

通常柄に相當した宣教師である女の團體が、半數の教會にありその平均人員は二四人である。意志では宣教師である男の團體が四分の一の教會にあり若い人の組合は半數の教會で見出された。此等二つの平均人員は二三人と三〇人である。二つの教會は各々指揮を取り教師訓練團や幼稚園を經營してゐる。五ヶ村は簡單な朝鮮語で讀書、習字、算術を教へる夜學校をもつてゐた。

加之、勿論の事であるが凡ての教會は訓練會、協會、宣教師が催す會議に大なり小なりに關與してゐる。此等の主な目的は聖書研究と靈感である。然しある布教團では訓令が發せられ個人衛生學、家庭衛生學、乳呑兒の世話に關する印刷物が配布される。

熱心になつてみたりする様な小さい變化や聖書毎日講習會の様な改革を齎したりすることを除いて最近三十年間には此の綱領に少しも變化がなかつた。

教會の一部と考へなければならぬ基督教青年會が農村方面である著しい事をしたけれども、ある布教團に雇はれてる農村宣教師が全鮮にたつた一人ゐる。

(8) 基督教青年會の綱領

基督教青年會は明治三十四年に首府で仕事を初めた。地方網羅的組織が計畫された時朝鮮の問題は村の問題で都市の問題でないといふ事が分つた。最初の手段の一つは無學を排除せんと努めることであつた。そして此の目的の爲に何百といふ夜學校が創立され隣接してゐる村の多くで創立が引續いて行はれた。よい農法、健康、共同生活を扱つた簡単なパンラレットが讀み方を教へられた人に給與された。少年の俱樂部も教育、休養、生産の綱領を持つて活働してゐる。競技は風紀を正しくするに大なる貢獻をした。然し教へられた競技は装置がなくても出来るもので朝鮮人の指導の下では同じ様に再び出来ない示威運動は企てられなかつた、その教理によつて青年會は毎年五六百の青年を奉仕にも指導にも訓練してゐる。

經濟的方面では青年會は二種の實驗が行はれる實驗農場を持つてゐる。(一)は典型的朝鮮農場で有利に生育することの出来る新しい作物を見出すこと。(二)は普通の朝鮮人が持つてゐる様な農場を更に經濟的に有利に管理することである。

會員は落花生、玉蜀黍、苗の栽培を初めるのを援助し、家畜や卵を貯藏して、酪農業や家禽業に進むことを奨励した。基督教女子青年會館は奉仕に従つて間もない。然し朝鮮人婦人や女子を必要に應じて助けてゐる。

(9) 摘 要

それ故に朝鮮に於ける傳導事業の此の三十年から四十年は地方への擴充の見知からも遂げられた自活の程度からも傳導の歴史に於て多くの方面に獨特の記録を作つた教會を生んだ。それは朝鮮に於て最大の宗教力であつた。

然し近年は發達の速度が衰へ、莫大な減少があり、或年には純粹の減退がある。教會を支持することも衰へた。最も有名な洞察力のある朝鮮人指導者の多くは基督教は頂點に達したのか又現在非常に速かに廣がつてゐる反對勢力と拮抗することが出来るか否かに付て意見を求められてる、一般經濟状態と教會の進歩の間には密接の關係がある様だ。然し當然考慮しなければならぬ所の衰へた進歩の尤もらしい他の原因がある。

(10) 進歩の衰へた原因

教會の内外に於ける多くの人の意見によると、教會は人民の理想や思考の變化を考慮に入れること

をしなかつた。尊敬すべき老指導者が「若い人の一人が書物に書いた様に、朝鮮には生れ變りが起つてゐるのである。朝鮮は大正八年以來新思想を持つてゐるのに教會は少しも持たぬ」といつた。

第二に教會は現代の人々が教會の學校より多く受けた進歩した教育と同じ速度で進むことが出来なかつた。多くの部落に於ける現代の或は次の指導者は、教會の専門學や大學或は公立高等普通學校の産物である。それなのに教會内にはバイク博士が「基督教新教傳導の歴史」「朝鮮の傳導界」の最近の版より引用した別の指導者の發表した聲明に依れば教會には「科學的學問の輕蔑」がある、此の論説は續いて曰く「眞の基督教信者は科學的學問を世俗の智識で、信仰を弱めかくして惡魔の誘惑であり魂の敵と考へられると論じ非常に輕蔑してゐる」

第三には一代前の青年を基礎として廣く打ち建てられた教會は、假令教會や聖書講習會で説教してゐる青年は未だ多くない事は言ふまでもないことであるが、日曜學校、青年會の管理に於てすら今日の青年に多くの意見を吐露させることが出来ない。教會によつて説かれた民主主義の爲事業の實際の經營に當り老人が青年を拒んだ」と米國の二つの有名な大學の卒業學位を持つてゐる若い俗人がいつた。此の點に關して著者は、調査中に訪れた二十八ヶ所の内の多くの教會の役員に面會したが若い人が教會より認められて委員に選舉されたのは僅かの教會に於てだけであつた。

更に最近二、三年間は明瞭な反基督教運動があつて多くの基督教信者をして守勢をとらしめ又東洋に於ける教會の弱點につけ込んだばかりでなく世界戦争を目して基督教の虚偽の啓示であるとしてゐる。

更に若干の理由として教會の會員の地位と指導者たる職に於ける風紀が頹廢してゐて民衆の年來の信仰への熱心を鈍らしてゐる。此れは幾分かは既に述べた状態の爲より、幾分かは或る教會の發達その物が宣傳には餘り役にたない様にして團體を守りたててゆく一層の奉仕を要求したからである。又幾分かは不景氣の口調が餘り屢々説教壇より響く爲である。而して宣教師の中に於ては幾分かは國民主義の勃興の趨勢が彼等を新らしい稍第二義的の任務に置いたからである。彼等は此の新らしい状態の下で自分の地位が不安であり或者には將來すら不安定である爲である。

最後にある意味では他の點の二つを重ねることになるが教會の指導者は大學教育を受けた指導者をして朝鮮に於て心配を起させてゐる問題を了解することが出来ない様である。哲學博士の學位を有する一米國人が曰く「今日の若い人は三つの問題を論じてゐる。發展對革命、共產主義對資本主義、國際主義對國家主義、之である」

宣教師のある者は時局を覺つてゐるといふ事はスピーア博士が近頃の報告に引用してゐる宣教師の一人の言葉によつて示されてゐる、曰く「我々老人は此の總ての新らしい状態に何等の用意がない。

彼等は高等學校の教育すらもつてゐない。彼等は高尚な人で自己の経験を有し我々の聖書講習會は凡て此の池の中に岩の様に立つてゐる教會を興へた。然し池の後には嵐がありそして我々は新しい問題に當る様に訓練された人を必要とし、その際には姿を變へて今日の人民は狼の前の羊の様になるであらう」

然かも宣教師自身は教養を欠いてゐるか或はあまり指揮權を振ひすぎることゝ氣に留めなかつた。何となれば彼等は新しい局面に堪へる様に綱領を改作し様とは提案しなかつたしその局面に適ふ様に新しい辯解を始めなかつた。初期に於ては牧師に近づくことは治療の奉仕によつてであつた。輝かしい事業がその方面で爲された。後に朝鮮の大きな興味は教育にあつた時には教會は身構へて立ち、凡ての程度の學校の扉が開かれた。今日では非常に興味があり非常に重要な點は經濟的と社會的の事であつて今度は教會は何等の用意をしてゐない。宣教師は新しい智的傾向を「池」と罵つたり又「嵐」故に立派な教育ある人を求めたりしてゐる、若し是れが教會が提供出来る凡てであつたら狼の前の豫想は正しい。實際若し教會の統計が正しいならば、羊のあるものは既に食ひはれてしまつたらう。現在の状態が基督教の仕事にどう影響するかに付て多くの人が憂慮してゐるが教會が現状に付て何をし様とするかに付て宣教師の多くは驚くべき程興味を持つてゐない。而かもそれは教會が答へねばならない問題である。而して有效なる爲にはその答へは小數のものであつてはならない。

第五章 地方教會の次の手段

地方朝鮮に於ける一般状態は教會の仕事に影響するので、それに付て今まで述べてきた事實に基き、又特に研究した地方教會に關して述べてきた事實に基いて誰でも前節の結語とした質問即ち「地方朝鮮の現在の困窮に對して教會はどんな返報をするであらうか」にそれぞれ答へるがよい。調査者は此處に於て少くとも討論の基礎として役立つであらうと見込んで答を下して置かう。彼は朝鮮に於ける滞在は短かつた事を充分知つてゐる。然し少くとも彼は新しい眼で見、而してこの調査は可成り多い實際の資料—そのあるものは初めて發表されたのである—を纏めるに役立つた。更に此の節も調査資料の解釋からのみ出来たのでなく調査それ自身の過程から出来たものである。總ての村に於て會見した人には教會の綱要に付て提案を求めた。教會の役員、宣教師、官吏、實業、以上何れも基督教信者である人にもそうでない人にも同様に提案を求めた。

この様にして得た意見の多くは次の様な提議綱領に具體化されてゐる。綱要の項目は人民の經濟的生活、教育、健康、社會生活、及教會といふ様な事に關してゐる。

第一節 經濟

(1) 義務の認識

最も必要な點で地方朝鮮の爲に盡す義務があるといふことを教會が悟らねばならぬ。此の義務は救濟が求められてる所を救濟せん爲に將に出かけ様とする彼の名を以て自稱する動作力の明瞭な義務にあるばかりでなく、教會はその人民に高い生活標準を與へたがその生計を支へる方法を示さなかつたといふことにもあるのである。又どうすればパンや魚の様に増すであらうかの方法を示さなかつたに過度に張りつめた資産を持つてる人民から贈與を求めたこともある。又教會はその建物が輕い様な金貸しから借りた金で建てさせる事さへし、かくしてこの様な教會員をして搾り取られる高利の不法な利息に推定的反對の態度をとることなしに生涯の負債に運命を陥れた事にもあるのである。

(2) 農業宣教師

此の問題解決の第一歩として農村の宣教師の数が増やさるべきである。現在では全鮮中ある宗派の傳導に雇はれてる僅かに一人及基督教青年會の中に僅かに二人ゐる。少くとも各布教團に一人ゐるべきであり、而して米國の長老教會の布傳團には二人ゐた。此等の人の職務は後に屢々言ふ所であらう。

要するに農村方面では彼等の仕事は朝鮮人農民に彼の持つてゐる資産を更に有効に使ふ方法を教へることにあり、通常の状態の下では何が爲され得るか説明することにあり朝鮮人がする事が出来ない時彼がこの様な状態を調べることにあり、日本語中に餘り屢々埋れてゐる政府の技術家の發見した物を農民に導き入れるにある。

肉體を癒し精神を修養する所の教會が特に舊約聖書の中で百以上の場所で農業方法に付て論ぜられてゐるのを思ひ出す時、何故に農民の幸福と、神と協力して農民が毎日のパンへの願を叶へてやる眞に人道主義的の課程の成功とに興味を抱いてゐないかに付ては主要な理由はない。自立の地方教會を建てて地方分野を占有する利己的組織的な見地からみても農業宣教師を送ることは十分の理由があらう。若し動機が奉仕であるならば現今朝鮮を救濟するにこれ以上の善い方法はない。「若し農業宣教師が今派遣され得るならば人民は宣教師に付て全態度を變へるであらう」と國際的に有名で教會と國際機關より屢々表彰された一朝鮮人がいつた。傳導の投資額と職員數の割合からいつても朝鮮に於ける様に此の型の事業のない所は世界にもない。此の様な奉仕はあらゆる朝鮮人指導者と面會した中の殆ど凡ての官吏より希望された。今進行中の農業事業の成功は、殊に苹果の栽培と關聯してその擴張の最も有力な論證の一つでなければならぬ。

(3) 農業協同

東京帝國大學農學部那須教授は全日本帝國中の農民を悩ましてゐる問題の唯一の解決を協同にありと見てゐる、朝鮮に於ける程、此の眞理が明白な所はない。政府の監督の下に可成り多くの共同賣買が發達した。共同は眞に精神的過程である。其は相互の信頼と利益共同の實感を基礎として成立する。教會は極めて適當に共同の組織を勵まし或は既に存在してゐるものの支持を奨励するがよい。或は充分に鞏固な所へ更に進んで少くとも教會員を生産過程で協同する様な組織に齎らし、斯くして時間を節約して副業に使ふ様に企てるがよい。朝鮮には頼りにすることの出来る共同生活と共同作業の慣習がある。デンマークの再生は孰れも教會より鼓舞された協同と教育より起つたといふことを朝鮮をして忘れしめるな。三分の二の村の指導者、並に多くの個人も教會がこの種の奉仕をすることが望ましいと力説した。

(4) 地主と小作人との關係

農業小作人は生きるに必要な最少貨銀を與へられるといふ事は公理の様である。亦典型的小作人は土地に對する競争による高い小作料の爲か或は自分の無力の爲に生活賃金を得てゐない事も明瞭の様である。朝鮮では小作人は通常地主の普通経費の一部分と考へられる費用を引受けてゐることは既に

示した。此の點に關して地主は土地の報酬として地代を受けるばかりでなく、地主は亦土地價格が絶えず騰るので利益を得る。是れは産米増殖計畫によつて恩恵を受けた地域では殊に然りである。

此の總ての問題を徹底的に研究する爲に教會及傳導團聯合會が委員を任命することが提議された。此の委員は數人の基督敎信者の地主と小作人を含むのである。

この委員會は此等の問題を解決し様として地主によつて企てられてゐる種々の計畫を發表し又最後にこの委員會は古代猶太人間に於ける此の點に關する多少の法制を知り、日本やその他の國に於ける現狀を知るばかりでなく總督府の農務課の協力を求める様に提案された。

(5) 朝鮮人へ土地所有權附與

朝鮮では自作農は十年間一％の率で減少し、小作人は二〇％の率で増えてゐる。此の傾向が續くならば朝鮮の田圃生活は地主の永久的農僕たる境涯に運命づけられる。教會がこの問題を解決する爲に直接爲し得ることは一つもない。然し教會は三の方法で援助するがよい。

- (一) 土地賣却反對の強い感情を發展させること
- (二) 教會及傳導團聯合會の委員をして自分の小作人に土地所有を遂げさせる様な實際的計畫（其の幾つかは實施中）を喜んで提供する地主や開拓會社を探して名簿を作り、然る後成功した評判のよい

小作人をかゝる地主に、その計畫を小作人に紹介すること

(三) 基督教を信ずる地主に自分の小作人が終に土地を所有させる様な手段を採る様に勧告すること

(5) 廉い貨幣

朝鮮の教會は協同信用組合を組織して印度に於ける教會と基督教青年會の先例を倣ふがよい。この組合は組合の活動能力が借りの擔保で各組合員の負債は凡ての人に結び付いてるといふ主義で經營する、教會及傳道團聯合會はこの様にしてその會員をして金貸しの奴隷たることから解放することが出来る様に研究すべきである。印度の經驗は問題に付ても成功に付ても記憶されるべきである。支那飢饉救濟國際委員會の贊助を得て組織された支那に於ける成功した地方協同信用組合にも注意するべきである。組合員は一割乃至一割二歩で金を借りることが出来るのである。

その外に教會は高利率に付て聖書の教義を承認するや否やをきめなければならぬ。一、二の教會は寄附金の提供を受けたがその資金は二割から三割六歩で貸されてゐた。此處に金のある教會や教會員が直面する眞の倫理的問題があるのである。

(7) 家内工業

日本政府は養蠶その他の家内工業を齎らすことによつて朝鮮農民に非常な貢獻をした。この事業を

擴張するのは喜ばしいことであらう。幾多の教會の學校の工業の先生は新しい家内工業を紹介したり又村内に小さい工場を建設することさへして此の點で援助するとよい。全然製造業時代でない工業時代に於てすら大規模に爲されなければならぬ。デンマークの全産業の五分の四は各々五人以下の労働者を雇つてゐる。龜の甲の細工、鉛筆、玩具、ボール紙箱、帽子の製造、鹽の精製は企てられるとよい工業の極く僅かのものである。

(8) 市場取引

朝鮮の土地でよく育つ多くの作物があるが常に有利な市場が問題となる。既に苹果過剰生産の兆がある。教會或は基督教青年會は朝鮮人農民の經濟的標準を高める爲め農業宣教師と共に市場技師を派遣する程大きな貢獻はない。

(9) 政府の利用

政府は多くの手段で農民の状態を改善し様と試みてゐる。經濟的に朝鮮人農民を助ける所の物は何でも生活標準を高めさせるのであるから教會はその勢力をこの様な運動に與へるべきである。かくして人民と簡單な交渉の中に宣教師や牧師は養蠶や果物の栽培—之は農業宣教師の特別奉仕の一つ—を奨励することが出来る、又金肥や綠肥の使用に付て有力な助言を與へることが出来又一層多くの一層

よい家畜や家禽の奨励を有効に唱へることが出来る。從來ある人が之を爲し遂げた。政府の農事試験場の範圍を利用して更に盛に爲すとよい。

(10) 消費の教訓

生産増加の問題は富の適當の消費の問題を伴つてゐる。幾多の朝鮮人が収入以上の生活をする傾向に付ては述べた。女子の組合や會は價値の智識を與へ、經濟竝に外國製品より國産品を買ふ要求を注入するに利用されるとよいと思ふ、此の點に關して米國農務省の國産示威運動の代理店の計畫が興味あるであらう。

(11) 工業化

教會は亦朝鮮に於けるその政策を考へる時遠き將來を考慮するを要する。北部の工業的發展の可能性に付ては既に言及した。滿洲への移住を悲しむよりは此れは非常に増加した人口の避けることのない結果で朝鮮が人民に仕事を找出することが出来るまで續かねばならぬといふ事實をあつさり認むべきである。何百萬といふ金が今朝鮮に流れ込んでゐる。鐵道の擴張は新しい經濟的機會を作るに相違ない。新しい町が建設され古い町は發展するであらう。教會は新しい機會が生じた時之を受け入れる用意をしてゐるであらうか教會の指導者は政府の様に何をすべきかに付て計畫をたて又夢みて

ゐるのであらうか。或は彼等は不景氣な現在に心を奪はれ過ぎてゐるのであらうか。

時局は教會が少數の人の洞察力にも拘はらず機關として無用意であるのを知つた。最も影響されるらしい區域をもつてる布教團は工業化の衝撃に抵抗する爲に日本及支那に於ける教會の經驗を考量し初むべきである。將來を眺め明日に備へるといふことは急速に進歩してゐる東洋に於ては早過ぎるといふことはな。

第二節 教育

教會は東洋に於ける教育に莫大な投資をした。教會は現在の資産を利用したり又現在の行動に少し變化を齎すことによつて多くの方面で地方教會の爲に盡すことが出来る様である。

(1) 地方指導の課程

神學校は地方教會の方式や視察の中に要求された課程、地方心理學、經濟學を包含すべきことは當然の様に思はれる。之れは米國の多くの神學校の例に倣ふことに外ならぬであらう。其事は前章で書き留めた新しい状態に對抗する様に修養した人を求めることに應ずるに役立つであらう。

(2) 聖書研究

聖書研究の課程では猶太人の社會生活、經濟生活、制度、理想に力を入れねばならぬ、近東に於けるイスラエルの地位は極東に於ける朝鮮の地位に似ないことはない。聖書は此の種の材料に豊かである。これは今の時に當つて少くとも教會學校や神學校で與へられてある科目の様に價値がある。同じ課目は専門學校や神學校に對しても亦擴張せらるべきである。

(3) 實驗事業

専門學校或は神學校程度の學校は近隣の村に於て、地方指導の實驗事業に従事するがよい。二つの學校の各々自分等の雇人が住み得る模範部落を發展させるばかりでなく、社會經濟的改良を目的とする遠大な計畫に於ける地方指導問題に於て上流階級の人々と喜んで協力する村を採用するがよい、教授、休養、宗教の包括的週末計畫が基督教青年會の主催の下に學生總代班によつて展開されるとよい。それは米國で全く有效であると分つた奉仕である。神學校も亦地方教會を撰び取り、その中で手順を實行するがよい。

(4) 農業及自家生産の課程

基礎農業、自家用の自家生産及母の職が、朝鮮人或は傳導團の主催下の凡ての學校に與へらるべきである、此の種の事業は宗教學校の産業科で幾らか初められてるが事業は擴張せられるとよい。教養

ある人は手業を爲す様に強制されるべきでないといふ觀念の爲に手業は朝鮮人間では一般に行はれていない。社會經濟的進歩と國民の救済に非常に害あるこの觀念を抹殺する爲にあらゆる手段がつくさるべきである。

(5) 固有教會學校の監督

既に述べた様に朝鮮人教會の多くは便利よく位置を占めてゐる政府の學校が無い爲に初等學校を經營してゐる。若し此等の學校に於て、殊に米國に於ける補助傳導師或は巡回傳導師より與へられた型の教授法に於て、幾らか監督が爲され得るならば教會學校は助かるであらう。

(6) 企業事業

學校の事業自體に於ては少しも研究はしなかつたが著者は訪問した學校の多くで産業科に於けるより外は企業事業の缺けてゐる事を感じざるを得なかつた。著者は英帝國內で宗教家の教育や政府に非常に影響を及ぼした印度パンチャブ州のモガにある有名な地方傳導學校の經驗を研究し其れに關する文献を凡ての布教團の高等普通學校に配布することを敢て提案した。

(7) 擴張事業

米國の多くの専門學校や大學の擴張事業に匹敵する計畫の中に奉仕の餘地が高等普通學校にも専門

學校にも可成り残つてゐる様に思はれる。支那に於ける大衆教育運動は朝鮮の夜學校の成功の様に此の種の事が可能である事を暗示してゐる、實際的價值ある通信科が初等學校及中學校の卒業生の爲に企てられるとよい。

(8) 特別地方教育の中心

政府が課する教育事業に於ける制限且又ある學校の豫算及人員的要因に固有な制限は、ある學校をして現在提案された種類の奉仕を進んで企てることを不得策にしてゐるかも知れぬ。その場合には又恐らくどんな場合でも二週から四週間乃至六週間に互つて擴張事業を教師や俗人の指導者に與へることの出きる地方教育本部をいつそ朝鮮基督教大學と關聯して直ちに建設するが賢明であらう。この様な本部から擴張事業員は今ある協會や又特別農民會へ一週間乃至二週間送られ得る。基督教青年會は協力し又この様な學校や教育本部を使ふとよい。

(9) 學校の寄宿舎

高等の官公立學校は、普通學校程度以上の教育を追求する朝鮮人青年の益々大部分を收容するであらうといふことは朝鮮に於ける現状では免れ得ない、都市の中等學校在籍中の地方郷邑出身の學生數は全學生數の四分の三を超えることが屢々發見された。此等の學生の多くは基督教信者で數百の學生

數の學校の八分の一である。此等の學生の爲に寄宿舎を建てるか或は現存學校財産の幾らかを使用し其處で米國の州立學校の多くにある學生事業の計畫と似た計畫を行ふことを考慮したらよいと思はれる。

(10) 專業の再評價

高等普通學校の多くの卒業生や専門學校の若干の卒業生が彼等の教養に示されてゐる教育投資に釣合のとれた職に就くことの困難に鑑みて、傳導團は自分の全教育方針を研究し且再評價しられたよいてあらう。學校は教課や方針に於て朝鮮人の希望通りにしてゐるか、或は學校計畫を認知した必要の仕事に關聯せしめてたてたであらうか。學校の將來の收容豫定數に於ては今研究中である。恐らく更に主要な問題は現在の計畫は朝鮮人の需要を充してゐるか否かである。ある學校の在籍數の減少は經濟的不況の爲か、或は卒業生が自分等の教育に相當してゐる種類の仕事を見出すことが出来なかつた爲であらう。

第三節 社會生活

地方朝鮮の社會生活を考ふるに當つて、教會は多くの村に於て家族以外の主要な且屢々唯一の社會

機關であるといふことを認めなければならぬ。教會は屢々自身自身の學校とてなければ學校とすら活動地を共にしない。この様な村に於ては教會は若し欲するならば他の機關が社會奉仕に責任を分つ事を期待出来る場所に於けるよりもより以上の事が出来る。此の差異は次の提案を評價するに當つて留意しなければならぬ。

(1) 奉仕單位の決定

朝鮮の田園生活の社會組織は二つの焦點―村と市場町―に集まつてゐるといふことは説明した。一定の奉仕に付ては、この二つの場所の何れに事業の中心を置くかを決定しなければならぬ。斯くして病の實地研究事業と公衆衛生事業は屢々市場町に最もよく爲し遂げられる。然し大概地方朝鮮に於ける進歩は農村は朝鮮の中心であると認識してゐる包括的實行的計畫から生れる。基督教青年會は既にこの態度をとつた。

(2) 模範部落

政府は多くの種々の事柄の中何か一つで、例へば肥料の使用、吠の製造等の様な事である模範を成就した村を模範部落として指定する慣例を作つた。政府の着眼點で社會生活に關係のあるものは少しもない。各傳導團は田園生活の可能なることを示す爲に一切を包括する模範部落を發達させる様に

企てることが勧められてゐる。其の計畫は農業宣教師による奉仕を入れるばかりでなく、教育、家族生活、健康、衛生、休養をも包含する完全な社會生活をも入れてゐる。講演會、音樂會、野外劇、芝居、遊戯、定期市、博覽會を賞品の競争と共に計畫の一部としたらよい。採點カードが成就を獎勵する爲に作られ、毎年賞品が最もよい村と最も進歩してゐる村に與へられるとよい。之は西バーヂャ州で州立農科大學の擴張部によつて有效に行はれた。

之と同様の提案が専門學校に對して爲されたといふことは承認してゐる。それを此處に繰返す所以は進歩が起り、問題が解決されることが出きるといふことを朝鮮が知る必要があることは明瞭であるからである。教育機關によつて選ばれた村は利益を得るであらう、然し村は實驗室として貢獻するであらう。此の計畫の下に傳導團より開發された村は、地上の天國の例證となるであらう。

如何なる機關も直接人民の社會生活に關係してゐないから朝鮮ではこれは尙更必要とされてゐる。時々教會、學校、面長、郡長が個々の村を助けたのみである。個人の幸福な生活は彼の社會環境より左右される。この様な努力は屢々村に於ても又主席教會役員や俗人より唱導された。

(3) 現存機關との協力

全鮮に互つて而改善同盟その他の社會及經濟團體が現在してゐる。教會の指導者は個人として此等

に加入し、團體と協力し團體を一身的市民奉仕の手段として利用すべきである。歐羅巴に於ける教會は協同運動と連絡して此の方面で莫大な直接的貢獻をした。

(4) 近代傾向の解釋

第三章では近年日本政府より人民に負はせられた新規則の夥しい數に付て言及した。此等の規則は往々面白く、往々腹立たしいが、然し各々の理由があつて通常日本の物質的成功からの經驗の一片である。若し迷惑をかけることなしに教會が眞實に可能な所である規則の意味と、世界状態の影響と、朝鮮の世界の傾向を示すことを試むることによりて打撃を和らげることが出来るならば教會は人民を助けて彼等は工業時代に進まねばならぬといふ様に改めさせるであらう。

第四節 教會

(1) 成就標準

米國の内地傳道會は近頃著名な地方教會に向つて明細書を發行した。明細書は種々の地位の教會に適する爲に、三つの段階からなつてゐる。教會は示された三十五點から四十點に基いて記入された。而してある宗派では引かれた線に沿ふた進歩の報告が内地傳導の繼續を保證する爲に要求された。此

の標準は樂な聴衆席、毎年採用される豫算、几帳面に支拂はれる勘定書、少くとも會員の半分は一定の奉仕を貢獻する様になつてゐる。明確なる教會豫定書の毎年採用、整理された財産、學校が運動場を少しも持たぬ所で運動場の管理、缺席者と新來者の規則的な訪問と追求、聖書毎日講習會、宗教教育の近代的綱領等を包含してゐるのである。

朝鮮の地方教會の爲に同様の成就標準を作成することは、殊に年取つた僧侶のある者の疑のない能力上の制限に鑑みる時は、甲斐のあることであらう。それは亦教會が田舎で何を引受けるかを宣明し、自分自身の理想を定めるにも役立つであらう。

今まで述べた點の多くは米國に於ける様に朝鮮にも必要である。それ故に地方教會の爲にこの豫定書に付て敷衍するのは著者の意ではない。既に米國にある文獻と丁度支那で發行された「地方教會の新豫定」といふ様な書物を研究し、朝鮮の教會に對して改作さるべきである。

(2) 集團事業

年齢と性の集團事業、特に男子、青年、少年、少女が特に重要視せらるべきだと示すのは甲斐あることであらう、この様な豫定計畫では休暇に家庭にある學生は、米國の基督教青年會の八週クラブの理想の様な、ある計畫を遂行するに利用されるとよい。

(3) 青年の認識

青年は老人とそりが合はないに極つてゐる。この東洋に於ける無忍耐は年長者より尙更抵抗されてゐる。今日の青年は明日の教會といふ明白な真理は二代間の教育の機會の差異が間隙を廣くするといふ事實と同様に記憶してゐかねばならぬ。青年は命令さるべき必要はない。然し公平に言へば地方教會と一般に教會の役員會議に於て發言權が與へらるべきである。

(4) 教會を社會中心として一層廣く使用すること

講演や社會的集會の爲に教會は一層廣く使用さるべきである。一つの宗派は之をしてゐる。他の宗派では集會場の希望が屢々述べられた。この様な建物を經理出来る教會はない、そして利用し得る資産を廣く使用するのが一番いゝ様である、若し教會の中で或はどこかで室を見出すことが出きたら、農業に關する雑誌、新聞、パンフレットを読むことの出きる讀書室を作るに非常に役立つであらう。此の豫定計畫と似たのは教會員中に讀書仲間をもつことであらう。

(5) 部落學校

教育と支那農業に關するケントン・エル・バターフィールド博士の報告は此の標題の下に此處に引用する賢明な提案を收めてゐる。曰く「此の共同問題を考究する爲に全部落を一緒に合合する様に試みる

ことは望ましい。これは往々市場日に爲された。然し最初の日曜學校は人々に讀むことを目的としたに過ぎない、日曜日に開かれた學校であることを願みつゝ支那に於ける經驗ある傳導教師は多少言葉を濁しつゝも進歩した、充分論議する價値ある様に思はれる提案をした。農村に於ける日曜を部落の學校の爲に使用し老若の村人の前に更によい部落にする豫定計畫を提出することは可能ではあるまいか。此の豫定計畫は一層よい農法の實行し得る援助、健康と慰藉の提案、共同目的への村の協力の方法、及個人人格と社會關係に該當するイエスの教へを入れたらよい、換言すれば神の國の明細書は村人の前に教師や説教師によつて提出されるがよい、教師や説教師はこの様にして宗教の實際的性質を示し、又同時に社會進歩と人間關係に於ける理想分子を強調することが出来る。學校にある學生は他のどんな日よりも日曜に於て一層よく手傳ふことが出来る。非常に面倒な繊細な奉仕の爲に割愛する職員を學校が持つてゐるならばその計畫の可能性を認める爲に少しも考へなくてよい。この提案は發達させて計畫をたて公平な試練が與へらるべきである。

(6) 説教に於ける新しい強調

凡ての問題の解決は「福音を説く」ことであると往々いはれる。假令説教するとも人間が耳を傾くる限り福音は感化であらう、然しある福音の真理は説教よりも一層強調されるがよい。例へば罪

は單に神學上の概念ではない。ある村の多くの農民が目方を増す爲に米に礫を入れる爲にその村からの凡ての米は今に割引して賣られるといふことが直接に社會に關係ある問題になつた。養蠶規則が破られるか或は地方協同組合員を正直に取扱ふことを失敗したならば、それは明瞭に罪の一種である。自由の生ずる眞理も亦然りである。朝鮮に於てすら眞理は神を破壊するであらうと憂へる者がゐる様である。同胞に關する教義もある。基督にあつては猶太人も希臘人もなく、東縛も自由もない。又朝鮮人も日本人もない。進歩は憎惡よりは生じない。

第五節 一般管理上の考慮

(1) 地方教會委員會

教會及傳導團聯合會は地方教會委員會を組織し若し賛成せられたならば、會よりこの報告に於て爲された奉仕に對する種々の提案の指揮を委託することが極めて熱心に勸告された。その外にこの委員會は地方教會に適用し得る方式に關する知識の交換の様に動むべきである。委員會は「朝鮮傳導界で一、二頁を又その初年度の事業として五百圓以上の經費が與へらるべきである。地方状態は一刻も猶豫がならぬし朝鮮に於ける基督教事業はこの様に多いのであるから、この措置は十分の理由があら

う。

(2) 聖書講習會の利用

毎冬開催される傳導師年會と聖書講習會の次第書は再吟味さるべく、而して更に多くの場所が社會宗教的性質の問題に與へらるべきである。従來之等の協會のあるものの中に於ては攝生法幼兒の世話等に付て、教訓が與へられてきた。之は續けられ又擴張せらるべきである。而して、教會の方式に關する談話、共同生活の福祉及少年、少女の必要物が加へらるべきである。教會は人々の心を占めてゐるものに關係しなければならぬからばかりでなく其れをしない事は朝鮮の人々に齎らされ得る救済と靈威の最も豊富な源を等閑に附することになるから以上の事は爲されねばならないのである。教會は常に個人のことを心懸けねばならぬが然し個人だけでもいけない。古い福音は社會的福音であることを忘れるな。モーゼの法典は政治、公衆衛生、土地享有、負債、農業、慈善、其他に付て規則を制定してゐる。而して之等は社會問題である。豫言者は社會政策を憂ひ、イスラエル王に忠告を與へ、非難し、未來の夢の中に立派な文明を幻に畫いた。若して而し救世主の道がこの人間の多い、互に關係し合ひ、錯綜した世界—その中であつては何人も社會より逃れることが出来な—に生活の方法を與へなかつたならば基督教信者は多くの人から欺かれねばならぬ。此等の明白な事實が朝鮮基督教運動に

よつて、強調せられない事は言はずもがな全然述べらなかつた事は極めて驚くべきことで、聖書研究熱があつた事を考へると殊に然りである。青年を失つた事に非常に責任のあるのはこの怠慢である。屢々言及したスピア博士の報告はある宣言―その宣言に於て傳導團が「幾分共產主義思想の爲に教會に瀾漫する不安に」鑑みて熱心に「その傳導的立場」を示した―の評論に於て同様の非難を暗に示してゐる、彼は曰く「然し乍ら朝鮮に於ける現在の不安は我々の福音主義の信條の下に横たはる基礎を問題にし而して教會が既に日本に於て受け又支那に於て受けつゝある様に、朝鮮に於ても我々は宗教就に精神的世界觀の基礎に對する徹底的な酷評的攻撃を受けねばならないであらう」

(3) 政府との協力

私が見る所によつても、又役人との會話よりするも、政府が計畫した多くの農業改良を農民に齎すことに政府は喜んで基督教團體と協力するであらうと信すべき充分の理由がある、而して若し教會、外國傳導師或は朝鮮人が、この様な協力の機會から遠ざかつてゐれば少しも利益を生じないといふことは無遠慮にも事實である。役人は聖書講習會やその他の基督教の集會に政府が朝鮮地方社會に與へるべき物を説明させる爲に招待され、そしてこの様な機關を利用し政府の言葉と額面價格通りに受け、政府の誓言と政策が最後の一點に到るまで履行されることを期待する爲に努力の限りを盡すべきであ

る。この事は朝鮮人を經濟的に強くするであらう。

汝の管轄區で政府は農民の爲に如何なる事をしたかといふ質問に應じて、ある宣教師が次の様な趣旨を答へた。

- (一) 樹木の保護
- (二) 道路建設
- (三) 作物に對して良好なる平均價格の保證
- (四) 新らしい物を更に安く買ふことを可能ならしめたこと
- (五) 標準的な改良された棉の種子の強制的配布
- (六) 人造肥料の輸入
- (七) 養蠶を奨励して農民の利益を計つたこと
- (八) 種々の食物用新作物の輸入
- (九) 竹細工の奨励
- (十) 鶏と豚の輸入
- (十一) 助言を求める農民に何時でもそれを與へる農事試驗場の維持

朝鮮農村視察報告

此の答へは多くの人から受けた答辯の典型的のものであるが、裸山を植林した政府の誠に著しい功績に付ては少しも述べてゐない。

此等の項は政治的狀態は、ある種の協力を困難ならしめるといふことを充分に承知して書かれたものである。教會は政府をしてその政治目的の爲に利用せしめる様な協力に加はつてはならない。教會の協力は朝鮮人の運命を改善させる様な物に限られねばならない。多くの役人はお上の目的は朝鮮人を救済するにありと公言してゐる。この公言を全額而價格で受けとれ。然し大正九年七月十六日のセウルプレスにある目的の公の宣言から引用すれば「朝鮮人の日本化」の様な政治的目的を助長することとは出来ないといふことを双方に認めさせるべきである。

(4) 國民協會

國民基督會や總ての聯合事業は出来るだけあらゆる場合に勵まざるべきであるといふことは當然の様には思はれる。東洋と西洋との歴史的差異の不滅は何よりも極めて滑稽なことである。朝鮮は合同事業で非常に利する所あつたので將來もこの方面に更に進歩するであらう。

(5) 文獻

傳導團及教會聯合會の毎年の會合で發表される文獻は、朝鮮教會の見解の狭いことを反映してゐる

基督敎文獻協會が少くとも朝鮮の若い人に與へる「基督敎徒の幸福な生活の秘訣」といふ様な本を翻譯したり、發行したりする外に、あらゆる所で教會の永續に重大の關係を持つてゐる世界的問題を論じた經濟學上の、又社會學上の研究の結果が、財團や、その他の團體に依つて利用出来る様にさるべきが、いゝ様である。

(6) 將來の宣教師

將來朝鮮に送られる宣教師はある方面の専門家たるべきで彼の職務は自分の専門の方面で朝鮮人を教育すべきことである。此の主義は西洋から福音主義の宣教師を任命するに當つても適用されるべきで、福音主義の宣教師に付ては朝鮮では最早普通の種類のを要しないのである。朝鮮には多くの教師と、他の方面の資格のある福音主義従事者がゐる。朝鮮人教育の便宜を増し、今までよりも教會の擴張事業に彼等を大々的に使ひ、福音主義の方面でも専門家は將來普通の宣教師よりも一層要求される様にしたらよい。普通の教養の西洋人は最早爲すべき貢獻をもつてゐない、何となれば何千といふ朝鮮人が彼同様に教育があり、或は更によい教育を受けてゐるからである。西洋で研究科の教育を了へた又は今受けつゝある朝鮮人が約四百人、米國だけでも二百五十人以上もゐる。日本には何千と行つてゐたし或は今ゐる。普通の専門學校の教育のある朝鮮人は、月並の教育しかない宣教師よりも、上

手に朝鮮人を教へ、又感動させることが出来る。他の一面に於て専門家は尙指導者の教育に貢献しなければならぬ。

(7) 博い智識

地方朝鮮に根本的に重要な事は、指導者の技術的知識の増加である。教會はこの批評と懷疑の時代にあつて成功せんが爲には、教會内外の人心を探らなければならぬ。局外者にとつては教會は一つの社會機構に過ぎない。彼は少しも神性を認めない彼等を感動せしめるには、地方教會は社會的機構として存在する権利ありや否やの試練に服さなければならぬ。何となれば局外者はその點で試練するからである。社會科學の充分の素養があり、習くの間は自分の信仰をくぐいふことを控へることが出来、又教會とその教へを社會的效用を以て證明出来る宣教師が基督敎信者の生活方法が社會的に有效であることを新たに感賞する爲に來るであらう。教會は亦異つてゐる慣習、環境及影響が如何にいろ／＼の型の人心を作り且養ふかを知る必要がある。教會は理想を説き、情緒で祈り、神の國の幸福を畫く爲に想像を呼び起す、然し之が法律や様式、事件や社會變化の實際狀態の研究を伴はなければ、結果は幻である。大きな幻影は觀察、分析、智識、洞察と結びついて現實化する。温かい情緒と、冷たい智識の分離は大なる悲劇である。信仰を擁護する爲に努力する際科學的方法を攻撃する人はこ

の悲劇を不朽にし教會を不利の地位に置く。

(8) 觀察と研究

故に教會及傳導團聯合會は、觀察と研究の常置委員をもつこと、又この仕事をする爲に提案された地方教會委員會内に局が設けられることを奨める。朝鮮の教會が今闘つてゐる問題を解決せんとするに當つて、他國の經驗に付て朝鮮では驚く程知らない。印度支那からの地方教會の文獻は特に研究さるべきである。極東の觀察、米國に於けるある觀察談と經驗談、殊に南部高地とニグロに於ける觀察談と經驗談は價値あるであらう。又總督府の發行文書中に殊に日本語印刷物中に材料の寶庫がある。凡てこの材料は教會が人民の康福とよい奉仕の爲に、政策を定めることを目的として調査さるべきである。

之に關して帝國大學や西洋諸國で經濟學、社會學を修めた人の數が、殊に俗人間に於て、増してゐることに注意が向けられ、而してそれ等の人の援助を宗教問題のこの方面の解決に當つて求めるとよい。この仕事のいくらかは學生が實驗室の演習としてするとよい。その外に典型的村の實地研究があるべきだ、採用された新政策は繰返して虚心平氣に研究し試練さるべきである。教會は客觀的に自分の政策と組合理業の手段とに付て試み様と非常な勇氣をもつて、今後はその仕事に向ふべきである。

(9) 再評價會議

此の過程が數年間續けられたならば、全朝鮮豫定書を作る爲に國民會議が開かるべきで、その豫定書の中には、社會經濟的、教育、醫療及福音主義の仕事が何れも都鄙を通じて、先入主や傳統に基かず現はされた必要物の智識に基いて、一單位として決定されるべきである。視察と經驗は、診斷と治療を生ずべきである。然る後純粹の基督教を適用することにより、且只それのみによつて、生き永らへ、良き奉仕をする道が、教會に開かれるであらう。(植原依郎譯)

朝鮮農村對策の二三

本篇は昭和二年九月ジョン・アール・モット博士が研究所長とする米國社會宗教研究社から派遣せられ鮮内各地の農村を踏査し其の結果をエルサレム宗教大會に於て報告したブルンナー教授が書簡を以て某當局に寄せられた農村對策である。一般の參考の爲茲に譯載することにした。

目次

- 二つの基礎觀念
- 經濟問題
- 教育問題
- 社會生活
- 一般的事項
- 教會及宣教師團體との關係

朝鮮農村對策の二三



二つの基礎観念

朝鮮總督府の立場より見て農村の改善を實行せんと欲せば、先づ以て二つの基礎観念に想到せねばならぬ。

第一に農民は國家の存立上最も重要なものである。朝鮮人口の四分の三は農業及林業に依りて生活し、其の他の人々も多少農業に關係を有し、又は地方の部落に生計を營んで居る。都會の人々は田舎に食物を求め、彼等に製品を賣り、而して都會人の大部分は小作料として或は金利として、田舎より多くの収入を得て居る。従つて地方農民の繁榮は亦國家として朝鮮全體の繁榮を招來する譯である。

第二に各般の地方開發に關する計畫を實施する爲には、夫れぞれ必要な機關が設けられて居る。總督府農務課は農事試験場並に教育機關の援助に依り、又道の同一機關との密接なる關係を有し、道種苗場は更に郡との直接關係を有して居る。或る地方に於ては此の組織が十分完備されて居る。總督府農務課は經費も人員も備はつて居り、試験済の事項に對しては、如何なる計畫も直ちに實施することが出来る様に準備されて居る。換言すれば官設の特殊機關が力強く整備して居ることは、農村に於て他の事柄よりも評判が良い様に思はれる。而して右の施設は現代朝鮮に於ける顯著なる問題の解決

に觸れて居る。即ち少くとも現代朝鮮人の頭を支配して居る、「如何にして將來生活を繼續し得るや」の經濟問題に關聯するのであつて、此の根本的問題に就ては日本政府の當初より着眼したる處であるが、今日に於ても此の事は最も注目すべき根本問題と云はねばならぬ。

小作問題

朝鮮の小作問題は數言にして盡すことが出来る。即ち此の問題の根本は小作人の多きこと、収入の不充分なること、及び多額の負債あることに存するのである。農家の半數は純小作農で、三分の一或は其以上の農家は僅少の土地を有するのみであつて、其の生計を營む爲には尙其の上に相當の土地を小作しなければならぬのである。農家戸數の七割七分は地主と關係を結ばねばならぬ地位にあるとのことである。小作料としては收穫高の五割よりも安いことは少い。時に依ると小作人は肥料・税金・水利費其の他、他の國に於ては當然地主に於て支拂ふべきものをも支拂はせられるので、小作料は收穫高の三分の二又は四分の三に昇ることがある。加ふるに土地に對しては小作人間の競争がある爲、小作人は土地を借る爲には地主或は舍音、或は其の雙方に贈物をしなければならぬことがある。而して此の問題は韓國時代より受け継ぎ、現代に於ても其儘になつて居るのである。大多數の朝鮮人が小作人であつたことは、併合以前に於ける經濟上の最大弱點であつたと言はねばならぬ。

一般農家は單に農業のみを以て生活を維持することは出来ない。四十五箇の部落を調査した結果に依ると、一戸當平均収入は一〇〇圓より八〇〇圓迄あつて、其の總平均三〇〇圓足らずである。最高収入は數箇所の模範里に於て見出されたが、其の模範部落は例外とすべき顯著なるものがあつた。更に基督教家庭に依つて構成された十三箇所の部落を仔細に調査した結果、斯かる部落に於ては非基督教家族を以て構成された他の部落に比して、飲酒或は賭博等の比較的少なきことを發見した。北鮮に於て、百四十五戸を調査した所に依ると五戸の内二戸は平均六十圓内外の借財を有し、三割の金利を拂つて居る。京城附近に於て、百十戸の部落に於て調査した所に依ると、五戸の内四戸は平均百圓の借財を有し、四割八分の金利を拂つて居た。南部に於ては、百三十七戸の内百一十一戸は其の借金が年收を超過し、其の借金に對し平均三割六分の利子を拂つて居る。到る所で、自作農でも彼等の土地を擔保として借金をしなければならぬやうな境遇に在ることを發見したのである。

余が會見した人々の多くは、失望落膽して、農村状態は過去數年に互り益々疲弊し、新收穫時に在りては前年度よりも尙一層の借財を爲すに至ると言つてゐる。此等の部落は他の部落に比し特に不幸なものではなく、寧ろ他の研究された部落よりも概して稍良好なものである。(前述の模範部落に比し

ては比較にならないけれども、他の普通の部落に比し良好な状態にあるものであつた。)

此等の實情を申し述べないのは、日本に對し余の友誼を披瀝する所以でないから、茲に書き述べたのである。日韓併合以來産米の大なる増收を來し、輸出額が非常に増加し、副業が勃興し、銀行預金が増加し、鐵道旅行が頻繁となり、朝鮮人の生活程度が向上せるに拘はらず、一方では此の如き憐れな状態が、現出して來たのである。其の詳細は本報告に於ては之を省略し、追つて第二の報告書に記載する心算である。が今茲に其の原因を簡単に述べると、三つの影響が、相互に働いた結果である様に思はれる。

- (一) 朝鮮人の工業製品に對する欲望が、彼等の生産品よりも、一層大なる速度を以て進んだが爲である。即ち彼等の經濟生活上の能力は、未だ牛車曳の時代を脱しないのに、其の欲望は現代工業制度の時代に、一足跳に跳込んで來たのである。
- (二) 朝鮮に於ける農業の不振は、世界一般の經濟不振の一部分であつて、日本内地、英國及特に米國に於ける現象と同一のものである。
- (三) 斯くの如き状態は、朝鮮も亦世界的農業問題に均霑せるものと云ふべく、此の困難なる事情は到處同様かと思はれるのである。其の困難の原因としては、都會が農村の全収入の不當なる部分

を、或は高い小作料として、或は無謀なる金利として吸収し、又は都會より賣り出される商品に對し、不當なる利益を受ける等に依り、生ずる現象と考へられるのである。

勿論農家の生産額が増加しなかつたとすれば、農村は現在以上疲弊して居たことは云ふ迄もない。官民の共同努力あるに拘らず、過去數年間は朝鮮農村に於ては、平均以上にあつた個人、都會附近の部落を除いては、純益は殆んどなく、凡てが損失であつた様に窺はれる。

此の状態は實に危険なものである、と云ふのは、朝鮮人は再び精神的に失望し、地主及金貸の絶對服従者とならねばならぬのである。斯かることは朝鮮に於ては、數世紀を通じて悪政の表徴と云はれて居る。日本としては朝鮮に對し、併合に關する聲明を滿たすことが出来ぬと同時に、世界の期待を裏切るものである。尙更に危険なることは、破産せる人民は一般に空想的な政治家及經濟理論家等の餌食になる恐れがあるからである。此の如き状態は、米國及丁抹に於て經驗されたと同様に、生産の増加のみを以て、朝鮮人を此の經濟的失墜より救ひ上げることは出来ぬ。

既に實施された計畫も尙一層擴張するの必要もあるが、更に新しき方面に對し、指導獎勵の計畫を進める必要があるであらう。それ等に關し、余の短時日に於ける朝鮮の研究の結果として、腦裡に浮かれることを、經濟・教育・社會生活及一般的事項の四項に分ちて述べて見やう。

經濟問題

(一) 小作人及地主に對する報酬

小作人が生活を維持するに必要なだけの報酬を要求し得ることは、公理の様に思はれる。小作人を疲弊困憊の状態に置くことは、社會的の不安を意味するものである。一般小作人は自己の無能力に因るか、或は小作料の高率なるに因るかは別として、生活費を得て居らぬことは明白なる事實である。

それに比して地主の収入は、前に述べた如く單に小作料を收得するのみならず、他の國に於ては當然地主の支拂ふべきものまでも、小作人に負擔せしめて居るのである。

尙一反歩當りの收穫の増加、土地價格の騰貴に因つて、地主の利益は益々多くなつて來る。此の現象は今回總督府が産米増殖計畫を實施せられた地方に於ては、殊に顯著に見られるのである。之に對して余は次の如く考へる。

- A 土地の貸借及收穫物の分配に關する、現在の地主小作人間の契約を嚴重に實行せしむること。
- B 未だ試みられざるものとせば、舍音(或は地主の代理人)を免許制と爲し、彼等の手数料は法律に

於て之を定め、若し出来得べくんば小作を解除される場合に於て、小作人に告訴し得るの権利を與へらるること。(但し小作人の不成績の場合を除く爲、彼等の收穫が其の部落に於ける平均以上なることを證明する、場合に限るとすること) 此の點に付て米國に於ける例として、土地賣買者殊にカリフォルニア及ワイスコンシン州に於ける經驗は、多少參考とすることが出来るであらう。

C 政府は委員を設け、地主小作人の關係を十分に研究すること。此の委員は朝鮮人及内地人の地主及小作人、農業關係の官吏、銀行家及一般民衆の或る代表者數人を以て委員會を構成すること。委員會は内地に於ける農村の狀態に對し十分注意を拂ひ、尙ほ朝鮮に於ては東山農場の試み等を考慮に入れることが必要であらう。

(二) 朝鮮人地主

朝鮮の小作農救済問題は、現時に於て重大なるものと思はれるが、一層根本的に重大なることは、自作農の増加發展である。土地は其の土地を耕す農民をして大部分を所有さすを理想とする。世界到處、小作人は自作農に比し能率が甚だ劣る。自作農は常に事業に熱心で、保守的で、社會的に安定した地位を構成する。今自作農の推移を見るに、政府の統計に依れば、過去二箇年間に互り、自作農

が一一、六二三戸の減少を示し居る。換言すれば、十年間に十一%の割合で自作農は減つてゐる。同期間に於て、自作兼小作農は四一、五八四戸の減少であり、十年間に二十二%の減少となる。然るに純小作農は四三、四八二戸の増加を示し、即ち十箇年間に二十%の増加となる。此の如き憂ふべき傾向を阻止する爲必要な對策を講ずることは、最も緊切なことであらうと思はれる。

人口の増加に因り、土地に對する要求が激しくなり、従つて多くの道に於ては、新しく土地を購入する者は、投資に對する金利以上の利益を得ることが出来ない様に迄、地價が暴騰して來て居る。是れは最も困難な問題であるが、之に對する余の對策は次のやうなものである。

A 朝鮮人小作農の有望なものには、低利資金を供給し、産米増殖計畫に依り開拓された土地を購入し得る機會を與へること。

B 政府は第一に、新計畫の基礎の確實となる迄之を監督し、小作人をして最後に其の土地の所有者たるを得せしむること。

第二に小作人の土地所有權獲得に對する計畫を、實際化せしむる様、政府に於て監督すること。

此の點に付ては藤井寛太郎氏の計畫、加奈陀の移民援助案及び加州土地設定法は參考の價値があらう。

- C 地主をして此等の信用し得る小作人に對し、騰貴した現在の地價よりも安く、土地を譲渡せしめること。其の例は他に澤山之見ることが出来る。
- D 農務課をしてデンマーク及チエッコスロバキヤ等に於ける農民救済法案（小作農を自作農たらしむる法案）を研究せしめ、前記二箇國の立法を朝鮮に採用し得るか否かに付き研究せしむること。
- E 土地の所有及獲得に成功した模範部落の經驗を研究し、其の成績を朝鮮語の平易なる文字に印刷し、能ふべくんば學校教師・牧師・僧侶・地方長官及農業専門家等を通じ、地方農民に諒解せしめたるならば、此等の部落は困難から脱出し得るであらう。又此等の暗示は將來の朝鮮に非常なる光明を與へ、朝鮮の將來に貢獻すること大なることは、説明する迄もなく明かなることである。

(三) 低利資金

余が訪問した部落に於ては、金利は一割八分乃至六割六分迄であつた。農家一戸當の平均收益及最近五箇年間の農業平均價格によりて計算して見ると、一度農家が負債を生じた場合は、以上の金利に依れば二度と其の負債から脱却することは到底不可能であると考へねばならぬ。

各種産業組合（團體）の多くは、政府の提案に依つて組織され、又監督を受け向上發展しつつある

が、然し此等の組合に於ても、尙金利は年一割八分である。或る組合は一割迄利率を引下げて居る。然し此等に對しては確實なる擔保を必要とするのであるが、朝鮮農民の大部分は其の擔保を得ることが出来ない。自作農増加獎勵又は小作人の救済には低利資金なしでは實行不可能である。其の解決方法として左に二三の事項を掲げて見やう。

A 産業組合 (Thrift Guilds) は、或る規定の下に相互信用組合 (Cooperative Credit Unions) に進め、個人の労働能率を擔保としての一人の借財は、全員の連帶責任に歸する様に改むること。

此の事實は印度、デンマーク其他に於て試みられ成功したものである。特に注意すべきことは、支那に於て曾て國際飢饉救済委員會保護の下に、地方共同信用組合 (Rural Cooperative Credit Societies) は、地方農民に對し生産の目的に投ぜられる資金に對しては、一割或は一割二分の金利を以て貸付したことがあつたことである。

B 總督府は産米増殖計畫に基き、地主に對し七分一厘の率を以て銀行を通じて貸付して居るが、同一の方法で政府は耕作者に金融の途を圖ることは出来ないだらうか。之は米國の數州に於て現在行はれ、又米國政府としても農業金融會 (Farm Loan Board) を通じて行つて居る。斯る計畫は政府としては、收入の一財源ともなり、又農家の金利を引き下げる上に非常なる力を有するものである。

る。

(四) 農業組合 (農會)

朝鮮に於ける共同販賣の状態は實に恵まれてゐる。余は此の問題に付て十分なる研究を遂ぐるを得なかつたが、自分の見た點から二個の質問を試みたい。

A 或る模範部落をして、共同生産を試みる爲に團體を組織することが出来ないか。内地に於ては、東大那須教授の調査及試験に依れば、一部落の農夫等は一團となり、共同的に米の播種耕耘收納を爲して、非常なる時間の經濟、即ち約三割の節約を爲し得たとのことである。斯くして副業に多くの時間を與ふことが出来る様になつたとのことである。

B 朝鮮には新規の作物の奨励及在來作物の改良と相俟つて、共同販賣組織を左の二方法に依ることになれば、更に大なる發展を示すのではなからうか。

- (1) 道或は出來ることなら朝鮮全體を區域とし、地方の生産品を共同販賣すること。
- (2) 生産物を賣る爲に販賣に經驗を有するものを雇ひ、新しき販路を探し古き得意先にも需要を盛ならしむること。これは他の國に試みられたことである。アルベルタ又はカナダの穀類生産者組

合の共同販賣は米穀の場合にも參考になることを提供するであらう。

(注意) カリフォルニアの干葡萄 *Shimoda* の小型の箱は、京城停車場の賣店にも賣られてゐるのを見るが、之は日本全國到處に販賣せられて居る。十年前には此の小箱は米國に於てすら見受けられなかつたのであるが、老練なる人々に依りて組織せられたこの共同販賣は、今日京城に賣品として現はるゝに至つたのである。又カリフォルニア柑橘組合の老練家が *Orangeade* を作り、以前には販賣の方法なきものであつたに拘らず、現在では非常な販賣の擴張をなさしめた如きも注意すべき實例である。

(五) 農事試験場

朝鮮に於ける農事試験場の機能は實に整然たるものであるが、不幸にして其の成績は充分農民に依つて速かに應用せられて居らない。是れ農民が無學にして、試験場に於ける科學的方法を、眞似ることが出来ないからである。これは次のやうな二つの方法に於て解決されることと思ふ。

- A 平易なる模範作場を新に作り、既に試験済の事項を一般朝鮮農家に採用させること。
- B 其の結果を朝鮮の平易なる言葉に印刷すること。

(六) 消費問題

生産増殖問題は相互關係に於ては、富の適當なる消費の問題である。朝鮮人が其の生産物を高價に賣却することの、下手であることは驚くべき事實であり、是等が實は負債を生じ、又小作人に落伍する原因となるのである。田舎の市場に行けば其處に子供らしく浪費して居る民衆を、容易に見ることが出来る。政府は此の點に着眼することが必要であり、斯の如き民衆に金の遣ひ方を教へてやる必要がある。故に或る特殊の部落に對し、此の問題に注意を拂はしむる爲に、家計簿を作らしめ物品の價格に對する智識を與へ、此等の部落民に物の消費に關する機能を知らしめたらよからう。之を實行するには、先づ婦人の贊同を得てやるべきであつて、亞米利加農務省の家族指導獎勵の方法を、應用することが必要であらう。數箇所に於て、斯かる試験に成功した曉には、大々的に宣傳をして、盛に擴張されたらよからうと思ふ。

(七) 遠き將來に就て

多くの政府は、缺點として場當り主義の政策に陥り易い。朝鮮は幸にして特種の事業に對しては、

永續的の仕事として着手されて居るものが多い。十二年計畫の産米増殖計畫又は鐵道擴張案等の實施に依り、朝鮮に一箇年數百萬圓の資金を流入して居る。自分は折々思ふのであるが、朝鮮人や外國人の内幾人が、此の事が何れ丈け朝鮮の爲になるかと云ふことを、了知して居るかを、疑問とするのである。此の金が、如何にして朝鮮に保留され、又如何に朝鮮人を救ひ得るかは茲に論ぜない。又多少問題外となるが、唯自分は朝鮮の將來に就て、懸念して居ることがある。夫れは過去數年間に於て、朝鮮から内地特に滿洲に、非常なる移民が行くことである。此の結果として朝鮮及内地より政府に對する批評喧しきものがあり、最近日本報知新聞は「朝鮮人の滿洲移住は漸次増加しつゝある……朝鮮總督府の政策は、朝鮮人に物質的方面に於て、保證を與へて呉れないと云ふ感念を、彼等に懐かしめた……朝鮮に於ける日本の權威を向上して、朝鮮人をして日本國民に頼らしめねばならぬ……是れ田中内閣に取つては、最も重要な問題である」と云つて居る。日本國に取つては、主權國民たる日本人に、朝鮮人が信頼することは最も望ましいことではあるが、目下の状態として、滿洲移住を防止し得るか否かは、疑問とせねばならぬ。此の問題に就て、如何に朝鮮人が理由をつけても、事實は經濟問題であつて、唯に小作問題乃至農村收入負債等の問題のみでなく、朝鮮の地理的關係にも因るのである。而して又斯かる事柄が、朝鮮の内地に併合された原因を爲して居るのである。

目下の耕作面積・收穫高・小作料等に就いて研究して見れば、現在の耕地のみを以てしては朝鮮の全人口を養ふに充分でないことは、證明するに困難ではなからう。

斯かる窮境に對しては二途の解決策あるのみである。

(一) 農民をして、移民或は工業に依つて方面轉換をさせることである。後者は資本と原料を要するものであつて、若し此の方法に成功したる曉に於ては、朝鮮は日本に頼ること益大なるに至るべきである。

朝鮮は今日迄工業の發達が遅々として進まざる爲、二百萬人の朝鮮人が滿洲・西比利亞に移住することを、阻止することが出来なかつた。朝鮮内には石炭・材木・水力・金及其他の鑛産等の資源を有して居るに拘らず、或る有名なる技師の説に依ると、此等の資源は未だ殆んど其の表面すらも開拓されて居らぬとのことである。

(二) 鐵道線の延長に依り、此等資源開發の便を圖つたならば、日本及朝鮮は共に開發の機會を得るであらう。總督府は大に工業の促進を指導し、朝鮮をして、日本の爲にのみ利用されることなき様導くべきである。

余は自己の経験から、産業開發に關しては、政府が充分此の點に注意すべきであると、信じて居

る。曾て大正十一年八月朝鮮銀行の總裁は内地に於て演説して次の如く謂つたことがある。朝鮮銀行は、滿鮮に於ける日本産業界の利益援助の爲に、建てられたものである。…朝鮮銀行は朝鮮及滿洲に於て、經濟的擴張を圖りつゝある主要なる個人及團體に對して、特別の援助を與へつゝある。是れ畢竟内地經濟發展に貢獻せんとする意思の發露に外ならぬ。此の日本及朝鮮に對する區別的の言葉は、總督府が差別的待遇の防止、及朝鮮は日本帝國内の主要部分の一部であることを、内外に徹底せしめんとする努力に對する反對運動と見做される。此の銀行は産業開發の如何なるものにも、中心となるべきものであるから、此の銀行の態度は非常に重要視されねばならぬものである。(註一)

自分が朝鮮農村開發に對する努力の一つとして、此の工業發展を主張するのは、農村過剩人口の捌口を此に求め又地主の金の使途を與へんとするからである。工業の發達は國內資源を増大し、農村人口の全人口に對する割合を少からしめ、遠き將來に於ては朝鮮農家の繁榮を來らしめ、投資資金に對しては配當を與へ、帝國の國運を益々盛ならしむることとなるであらう。

教育問題

此の問題に就ては、直接の教育には關係なきも、或る特別なる教育機關の運用を必要とする。或る方法で試験された結果を、必要に応じて朝鮮人に周知せしむれば、非常なる利益であらうと思はれる。勿論既に試みられ成功されたものも少くない。實例を擧ぐれば、米の正條植付や肥料の増産がそれであり、又獎勵に従つて米を收穫した後には小麥其の他の穀類の栽培を試みつゝある農家あるが如き其の例である。

(一) 民衆教育

朝鮮教育機關の急速な擴張に拘らず、朝鮮人口の九割は無學者である。内地に於ては全人口の總てが読み書きし得るから、思想は忽にして各方面に傳へることが出来るが、朝鮮に於ては多くの善き考も、良き事業に對する智識も、民衆の無學なる爲多數の人には知られずに終るのである。

夜學校の成功、基督教青年會の努力、夏季學校、聖書研究會の如き朝鮮人に對する讀書教育等が、余の考へとしては、今少し政府の手に依りて行はることが、出来はしないかと思ふ。一部落に於て

農家三戸毎に一戸のものが讀書が出来るならば、新農業方法に對する指導も、總督府の意志も、よく諒解せしむることが出来るやうになるであらう。支那は既に之を試み、「メキシコ」は現在民衆教育に努力し大なる利益を得つゝある。

(二) 設備擴張

無學者の高率なるに鑑み、那の農業技手には、幻燈機械及活動寫真機械(自動車の「エンヂン」を活動寫真の動力に使用す)を與へ、寫真で説明をすれば一舉兩得である。勿論活動寫真の「フィルム」及寫真板を必要とする。

(三) 指導者訓練

若し未だ試みられないことであれば、一年に一度農事講習會或は修養會を、面長及郡守主催の下に、各道に於て催されたならば、利益であると思はれる。此等の會合は、政府計畫の事業を説明するに好い機會であらう。協力一致の精神を養ふに、よき機會となるであらう。勿論面長等の意見を多く受け容るゝことが必要であらう。

(四) 普通學校に於ける實業教育

余は日本及朝鮮に來て驚いたのは、普通學校及小學校に於て、語學教授に多くの時間を費されて居ることである。其の國民の多くは農業に従事し、同時に其の經濟は窮迫して居るところに於ては、國家として今少し實業教育を促進する必要があるはせぬか。朝鮮人の頭には、教育を受けた爲勞働を嫌忌するに至ると云ふ誤れる考があるから、一層實業教育の振興を必要とするのである。自分は農業に興味を有せしむる爲に、讀本・算術及理科等の課程に於て、都會の學校に於てさへも農業に関する事項を多く加へることとしたいのである。

(五) 延長教育

普通學校卒業者に對しては、少くとも其の成績の優秀で高等の學校に進ましめ得る者には、卒業後數箇年は普通學校との連絡を取ること、男子は農業を營む上に於てよく之を指導し、女子には家庭・衛生・料理・育児・裁縫及個人衛生の教育をすること、更に此等を普通學校に於て教へしむることを得ば最善であらう。子供には讀むことのみを教へても、衛生上の不注意よりして「トラホーム」に罹り

視力を失はしめ、或は猩紅熱に依りて生命を奪はることがある。

社會生活

日本に於て農村社會學講座を設けたのは、本年を以て嚆矢とする。それは東京帝國大學に於て始められたのであつて、有名なる經濟學者にして雜誌「農業經濟研究」の主筆たる那須教授が之を擔任して居る。氏は經濟學者としての經驗から、農村に於ける社會及農村の人物に對して注意を向けるに至つた。米國に於ける農村社會問題研究は、過去二十年に亘り甚大なる努力が拂はれて來た。米國に於ては、農場管理の適正ならざる限り、生産増殖、即ち改良農法のみを以てしては、農村問題を解決することを出来ないと思はれて居る。之が解決には、農村に於ける經營法の改良及生活の改善を期せねばならぬ。朝鮮に於ける此の方面の經濟問題は、餘りに窮迫して居る爲に、政府は朝鮮農村生活の改善に對し殆んど注意を拂ふことが出来なかつたが、此の事項は、既に經濟問題を解決した模範部落に、適用して試験して見たならば如何かと思ふ。

此の問題は十分慎重に研究せらるべき價値がある。米國に於ける農村社會問題に於ては家庭構成・教育・保健・衛生・娛樂・社會生活・倫理・宗教・交通・地方行政・慈善救済・農村組織及農村計畫

等を網羅して研究の對象として居る。此等の各部門に對しては、各部門は關係ある數人が團體を作り、研究を確定的に完成し、又精密なる計畫書を樹て、而して此等凡ての研究調査は、順次研究の進みに従つて之を發表し、多くの人々の批評を乞ひ益々研究を進めつゝある、亞米利加に於ける現在迄の經驗に依れば、此等の方法は非常に賢明なる方策なりしのみならず、當然行はねばならぬことであつた。此の問題に付ては、朝鮮に於ても亞米利加農村生活協會の會員と意見を交換して、其の發達を圖つたならば必ずや好結果を得るであらう。

何人も此の農村社會の活動に對して、非常なる注意を向けねばならぬと確信するので、私は參考の爲次の様な意見を述べて置かうと思ふ。

(一) 社會的活動に最も適する部落の大きさ

朝鮮に於ては、目下部落と稱すべきものが二六、〇〇〇以上を算し、一部落の人口は六七十人より數千人に至る迄の相違があり、各其の周囲の田畑を加へて一個の自然的社會單位を作つて居る。此等の部落は其の大きさの異なる如くに、其の機能に於ても異なつて居る。或るものは市場を有し其の周囲の地方と接觸をして居り、又或るものは大都會の單なる附屬部落に過ぎないものもある。米國に於ては

二百五十人より小なる部落を、村落(Village)と呼び勢力は殆んどない。二百五十乃至一千位の人口を有する部落は、皆其の特色を有し或る種の社會及經濟寄與をなして居るが、其の人口の大となるに従つて、其の特色も濃厚となり又範圍も大きくなる。斯の如き考察から更に一步を進めて、夫には學校、銀行及教會の存在や又更に地方行政の様式にも論及することとなるのである。朝鮮に於ては、其の狀態を研究し、一學校が幾何の部落を果してよく教育することを得るかを研究し、而して一部落に一人宛の長を置くには、餘りに部落が小さき場合には、其の村落がどれ程他の大なる部落に接近して居つて、其の大部より幾何の影響を受け、又指導管理されるかを、研究する必要があると思ふ。東洋に於ては、總て部落が社會生活の殆んど凡てに對する單位となつて居る様であるが、之は數世紀に互る因習により出來たものであるから、自動車や鐵道の影響に因つて、急激に變化を來すといふことは、未だくゞ近き將來に於ては見ることも出來ないと思はれる。

(南京農科大學に於て研究せるカルプ教授の Country Life in South China. マッカーシー教授の「印度の農村經濟」 Rural Economy in India. ネット教授の「日本の基礎」 The Foundation of Japan. 參照)

(二) 政府の獎勵事業に對する聯絡

農務課の各部門は、地方團體に對する仕事をする場合に、餘りに各部門が獨立的に仕事をして居る。或る部落に於ては、或る村は堆肥、他の村は米の生産率に於ての模範村と云ふ有様である。一の計畫を樹て政府の希望する、凡ての事柄、社會の要求する條件及生産消費者の欲する事項を取捨選擇して、其の計畫の中に入入れることが必要である。就學兒童率、高等普通學校卒業生の就職、共同井戸の清潔、天然痘の豫防注射等が其の例であつて、此等の總ての點に於て優れて居る部落を、模範部落として指定することが肝要である。而して先づ各道に二十五部落宛の、斯る模範部落を得ることに努める様にせねばならぬ。其の部落の成績評價を定める方法としては、一千點を滿點として、此の方法に依りて健全なる競争及それに對する努力に、刺戟を與へることは効果が多し。此の方法は米國に於て、最も進歩の遅れてゐる州の一である西バーヂャ州に於ても成功したのである。

(三) 組合

朝鮮に於ける面の組合員の多數は、將來社會的にも大發展をする可能性を示して居る。然し多くの場合に於ては、其の組合の會員は名義のみに止まつて居ることが多いから、組合はもつと積極的に活動をせねばならぬ。其の方法の一つとしては、其の經營及方針に關して自發的に思ふ儘に腕を揮はし

め、少くとも指導に當つては、必要に應じてのみ間接的に、指導を與へるに止むることとするのである。強制的に作られた社會的組織は、如何なる種類のもでも永續することは難しい。例へば新地開拓計畫として、強制的繁榮策を採用するが如きは、實に其の目的は立派であるけれども、決して永續するものではない。此の如きは上に述べたるものの好き例證である。又或る小作人の如きに至りては、其の組合が如何なる仕事をして居るのかを了解することも出来なければ、又其の組合に依つて爲された仕事を鑑識することも出来ない者がある。之は重大なる問題と云はねばならぬ。

(四) 都會と村落の關係

産業の發展に伴ひ、都會と村落との間に利害の衝突が起り常に反感を醸し易い。之は既に他國に於て見られる實例であるが、最初から工業家と農業家とは相互に提携することが必要で、朝鮮の開発には國家的の見地から此の點につき十分の指導を要する。

(五) 社會的活動

學校の遠足及競技等は、青年の社會生活に非常に役立つものである。此等の活動は、多くの人々を

網羅し、種々の傳統的の舞踊、音樂及收穫祭等は、村の團體の主催の下に奨励すべきものである。

(六) 社會事業

日本は病院其の他の衛生機關の設立には、當初より非常に力を盡し、「コレラ」の豫防、天然痘の豫防及撲滅には非常なる功績を示して來たが、未だ世界の多くの國々に比較すれば、研究すべき餘地が澤山残されて居る。余の研究した部落の十分の九は、毎年或る種傳染病、例へば「腸チブス」・赤痢・猩紅熱の發生することを發見した。殊に南部に於ては、癩病患者・不具者及精神病者が澤山居て、其の部落を脅威するものであるから、出來ることならば、病院に此等を收容し、其の手當を受けさすべきであらう。私の調査した、數箇所村落に於ける死亡率は、千人中二十の率を示して居たが、其の多くは死亡を防ぎ得る病氣であつた。此等の事實は經濟的損失を意味する。此等の一般部落に對しては十分なる努力を必要とし、或る人を訓練し、補助費を與へて村落の状態に關し、十分なる調査をなさしめ、其の結果或る計畫を樹て、其の計畫に従つて、一般の人々を指導することが必要である。

一般的事項

(一) 研究

此の書面には數回に亘り、調査や觀察を述べて置いたが、日本政府は併合以來最初の十年間に、立派なる調査をして居る。朝鮮總督府としては、永久的に調査部を設けて、斯る調査を繼續し、又一方既に集められ、印刷せられ而も現在餘り利用されてゐない、種々なる統計に關する研究を爲し解釋を加へることは、必要缺くべからざることであらうと思ふ。

此等の統計は、今迄の状態に就き物語るのみならず、將來に於ける趨勢及傾向をも示すものである。更に同じ場所に就て同時代に得たる、種々の異なる種類の統計を比較對照すれば、多くの興味ある原因や結果を觀察することが出来る。斯る統計の根據の下に方針も定められ、物價も正確に定めることが出来るのである。斯る豊富な尊い材料を持ちながら、或る特別な研究の用に、或は一般社會科學の研究に利用せないのは、朝鮮に取つては實の持ち腐れで、非常な損失であると云ふべきである。

(二) 大朝鮮計畫

一九一九年(大正八年)産業調査會は非常に活動したが、其の調査の結果は失はれて居る様である。殊に西洋には知られて居らぬ。そして必要なる新しき正確なる統計を得んが爲に、必要なる研究を完了した場合には、直に全朝鮮會議を開くことが必要である。例へば先づ差當つて一九三〇年(昭和五年)迄に、來るべき十年間の綿密なる全朝鮮計畫を、樹立すべきであると思ふ。

斯る會議は、全朝鮮の新價値を定めることにもなり、且つ又各般に互る事業の完成にも役立ち、又各方面の協賛を得て、朝鮮の歴史上に新時代を劃することにならう。

(三) 着實に而も迅速に仕事を進めよ

日本は僅か半世紀間に、封建時代より一躍世界の列強國の仲間入りをした爲、朝鮮人の有つ異なる心理状態に付て、目が届かなかつたのも無理はない。日本の朝鮮に對する布告は、彼等が内地に於て行ひ成功した經驗を、其の儘適用したものである。

日本政府は其の政策の結果を、自ら既に覺つて居る。然し朝鮮人はそれを知らない。而して靜かな

平和な生活を、掻き亂されたものとして反抗する。余は方針の重要な部分が、五十種程變へられた明細書を持つて居る。其れは各方面に關して、併合以來始めの十年間に試みられたものである。政府は急激に大改革を行ふことは許さないであらうが、十年間に漸次少し宛の改革ならば、それが正當な社會改造であらば、必ず許して呉れるであらう。

教會及宣教師團體との關係

自分の想像する所に依ると、教會及宣教師團體は、十分政府の事業目的及仕事の進捗等につき周知して居らぬ様である。總督施政年報は實に立派であるが毎年發行されて居らぬ。(註二) 又唯一の英字新聞ソールプレス(The Seoul Press)は非常に貧弱であつて、米國の田舎新聞にも及ばない。此の教育ある宣教師達に對し、政府の目的及施設に付て教育することは、賢明なる方法である。其の具體的方法の一二を挙げれば次のやうである。

(一) 指導者の視察旅行

各派の宣教師團體の幹部のもの各二三名、若し朝鮮人に於て協力を希望するならば、其の幹部二三

名を一團として、模範部落或は産米増殖計畫に依る新企畫を視察せしめ、朝鮮人農民の利益の保護及將來朝鮮人の土地所有權を確保することを、知らしむる必要があらう。

(二) 朝鮮語學校

毎年渡鮮する宣教師は朝鮮語を研究する爲に、暫時京城に滞在する。此等のものを道種苗場、農學校或は水原模範場又は近くにある二三の模範部落を、視察せしむることは好い方法であらう。斯くして彼等に政府の爲しつゝある事業を知らしめ、如何にして彼等が之に協力するかを知らしむべきであらう。

(三) 宗教家、教育家、農民等と政府の協力

總督府が、朝鮮農民に對し殊に其の指導者に對しては、如何なる政策を採り如何にして産業開發の便宜を計つて居るかは、民衆は餘り知つて居らぬ。出来ることならば、斯る便宜のあることを、毎年各宗派經營の専門學校及其の外の學校生徒に對し簡單なる講話を試み、各宗派の毎年開催される會議、集會に於て、之を説明するべきであらう。斯ることは非常に戰術を必要とする問題で、教育に關す

ることであるから、先づ學校教育關係者に近づくべきである。而して如何なる仕事に關しても、宣傳に陥らざる様注意せねばならぬ。而して總督府の凡ての局或は課は宣教師・學校教員及農夫等の奉仕を歓迎し、且つ喜んで忠告を受ける様に努力せねばならぬ。

(四) 産業教師と政府の特別の協力

基督教經營の學校中には、實業教育を専門に擔當する教員を置く學校がある。此等の教師は生徒に熟練させ、卒業後生活の糧を得る様教へるのである。而して多くは農業を教へて居る。總督府農務課は、此等の教師達が他の宣教師に比して、政府の施設に付多くの知識を有するものであるが故に、常に此等を密接なる關係の下に置くことが肝心なことである。一年一回此等の教師を集め、意見の交換をするために會議を開くことも必要である。

(五) 教會及宣教師團體との協力

昭和三年の全鮮宣教師大會に於ては、農村協會に付て討議する筈になつて居る。而して農村研究常設委員會が組織されるであらう。而して之が實現の際に於ては、政府は其の計畫及びデモンストレー

シヨンに對し、喜んで援助する旨を傳へ、尙兩者の意見一致すれば、更に一定の援助を與へるべきであらう。

最後にキリスト教會が、如何に重大なるものであるかに付て、充分の考慮を拂はしむることを私は希望する。其の勢力は會員數が示すよりも遙かに大である。其は地方的にも朝鮮全體に於ても同一である。特に顯著なることは、滿洲に移住した多くの人々は教會の存在せし部落より出たことであつて、彼等に移住せしめたものも教會員であり、又同時に滿洲に安住の地を見出して呉れたのも、基督教徒であつた。又折々は教會の會員にして、土地を所有して居る者もある。又彼等は歐米諸國人の大多數に對して、奉仕を爲す唯一の團體である。又此等の基督教徒は、朝鮮に於ける日本人の活動を、日々歐米に對し特に米國に對し、翻譯して傳へて居るのである。其の故に總督府としては、彼等に對しては相當禮を厚くして、彼等との接觸を圖ることは、最も必要なることと思はる。

(註一)、これはアレンナー氏の演説である。大正十一年八月十七日朝鮮銀行第二十六回通商株主總會席上の總裁の演説を翻譯した爲に起つた誤解である。其の演説は次のやうなものであつた。「抑當行ハ朝鮮及滿洲ニ於ケル我國民ノ經濟的發展ヲ助長スベキ重大ナル使命ヲ以テ設立セラレタルモノニシテ、由來當行ハ當ニ此使命ノ重キニ鑑ミ荷モ鮮滿ノ富澤ヲ開發シ其ノ經濟發展ヲ圖ルニ必要ナル資金ニ對シテハ成ルベク便宜ヲ供與シ只管本邦ノ經濟的對外發展ニ裨助センコトヲ期シ……今後益鮮滿財界ノ繁榮ナル發達ヲ促シ以テ其ノ實務ヲ果シンコトヲ期スベシ」

(註二) 英文施政年報は毎年發行されてゐる。

(註三) 昭和三年の全鮮宣教師大會の決議に依り各新教(長老派四團體二美聖理派)基督教青年會は其本部より農業技師の派遣を乞ひ地方農民指導に當る事になり、青年會は米國にて此の方面にて有名なるクラーク博士、カナダより、バント氏、米國よりエドリン氏、北長老派は平塚のヘーツ氏、南聖理派は米國よりエムリッソン氏等各専門家を招聘し模範農場を設置し、冬假期を利用し全鮮に渡る講習會を開き昭和四年及五年の如き二十一ヶ所の講習會にては一ヶ所五日を一期とし出席者總數共四十二百八十名夜間講習會四萬人に及んで居る、其後毎年引續き講習會を開き農具の輸入改善に努めて居り且つ道種苗場の視察をなし本府及道よりの技師の講話も預つて其成績はみるべきものがある。

朝鮮人の熱望

シャウツド・エデー

本稿は「The challenge of the East」題するシャウツド・エデー博士の著書中に見る「Koreans Aspirations」なる一項の大意を譯したるものである。博士は一八七一年米因カンサス州に生れ、一八九六年印度に渡り、一九一一年本國に歸つて基督教青年會のアジア部長となり、朝鮮・支那・印度・極東ロシアに於ける青年の指導に衝り、歐洲大戦當時には、英國軍と共に陣中に活躍されたこともある。博士は我が國に對する理解と同情にあつく、遂にアメリカに於て我が移民問題の擡頭せる時、博士の合縁が幾々日本を訪づれ、朝野の間に奔走されたことは、吾人の記憶に新なる處である。博士には「印度の覺醒」、「アジアの新時代」、「勞働の新世界」其の他数多の著書があるが、今回紹介せんとするのは、一九三〇年に朝鮮を視察せる結果に基いて執筆されたもので、其の所論は廣汎に互り且つ詳細なるものであるが、認識の正確を缺く所もないではない。併し外人の忌憚なき感想を有りのまゝに紹介することは又以て他山の石と爲すべく、統治上の參考に資すべき點が少くない。(小田安馬)

朝鮮人の熱望

私が朝鮮を去る前のことであるが、私は顯著なる特種の一面を見る事が出来た。それはちやうど

朝鮮人の熱望



天長節の佳日で、總督齋藤子爵が祝賀の園遊會を開催せられた時の事である。之に充てられた會場は、朝鮮三千年の歴史を回顧するに相應しい韓國皇帝の宮園であつた。此所には古代支那風の建築があつて、昔時皇帝は此所に住居してゐられたのである。宮園の直前には、日本の統治に依り開拓された美麗極まる大理石や、花崗岩及び金屬によつて建築された、最新式の朝鮮總督府廳舎が屹立してゐる。古き宮殿を見て思ふのは、曾て日本に於ける儒教及び佛教文明の指導者として、過去の文化を誇つた朝鮮の歴史的發展である。僅か一世紀前の人民が惡政の下におかれて、屈辱的支配に甘んじた事實が追想される。そして吾人の心裡には二つの威が湧いて來る。即ち現時最も進歩せる總督政治は、果して漸次貧窮に陥り土地の所有權すら喪失しつゝある朝鮮人の膏血と犠牲とを以て、日本が帝國主義の實現を企圖せんとする爲であるか、將又刻々に自由を得且つ富みつゝ忠實な國民たらんとする朝鮮人の爲にするのであるか、それである。之を換言すれば、朝鮮が日本に對して、其の横腹に突き付けた短刀の如く、時期到來せば何時にても一撃せんとするアイルランドたるべきか、或は又た朝鮮が日本帝國の一部分として、日本に對し善良且つ満足なる感激を有する同胞たるべきかである。此の問題は、唯々日本の將來の方針にのみ依つて決定さるべきものであつて、日本の行爲如何に依

つて、朝鮮は忠實の國ともなり、又仇敵ともなる譯である。要は日本が賢名なるリベラル政治を此所に施すか、或は盲目的な軍閥家ミョクワカが此所に反抗を起さしめるに至るかの、一に歸着するかのやうに思はれる。

此の園遊會は、古代朝鮮と近代日本との會合であつた。私共は隣國支那によつて與へられた三千年前の朝鮮の輝ける過去を顧みることが出來たのみならず、歴史が腐敗せる政治に依つて終末を告げた事實をも觀たのである。暫く過去を検討して見やう。即ち當時は放蕩なる親戚の負債の爲に訴訟されることがあり、惡官吏の掠奪の爲に、全く事業の停頓することもあつた。而して官吏の地位は最高金額提供者に賣却せられ、役人や地主は掠奪を事とする階級に變化し、常民は役人から捲き上げられることを恐れて、寧ろ貧困に甘んじ、穢い伏屋に住むのを安全とした。勤儉力行の美風は廢れ、生命財産の保護は與へられなかつた。斯る場合朝鮮の改善と近代化に最も眞面目なりし日本が、此の國を併合することは當然の運命であつた。

私共は又一面に於て現代日本の歴然たるものを見ること出來た。總督は來賓一同の前で天皇陛下の萬歳を唱へ、軍服嚴めしき武官と盛裝せる文官は、之に和して萬歳を三唱した。日本がベルリ提督によりて門戸開放を迫られ、長夜の眠より覺めてこゝに五十餘年、今や文化燦然たる日本が、退嬰

的な朝鮮の門戸を叩き、覺醒を促したのである。

日本は海外に知識を求め、之を日本化して、凡ゆる物質的生活を近代化し、亞細亞に於ける無比の強國と成り、又西洋の諸國とも競争し得る大強國となつた。齋藤總督は曩に「ゼネバ」の海軍 少會議に列席した日本の首席全權で、世界二大海軍國に向つて、五―五―三の率以上を要求した人である。最近京城に於て朝鮮併合二十周年祝賀記念會が催された。此の際過去二十年間の施政に於て成遂げられた物質的發達の跡を、博覽會により示されたのであるが、其の發達の一面は建物によつても目の當り見ることが出来た。古い朝鮮の都の晩は、暗黒にして街燈だになく、日暮れて後は何人も外出を許されなかつた。周圍を繞らす禿山は、自然の與ふる資源を涸渇せしめ、國內は海外侵略者の擯恣に委せられてゐたが、今や山は綠樹を以て蔽われ、非常な變化を示してゐる。三十餘萬の人口を有する近代都市の廣い道路には、自動車輻輳し、宏壯なる建築物が櫛比して、商工業は頗る盛大を極めてゐる。

近代朝鮮の世相も亦博覽會の中に表現されてゐた。或朝鮮人は悲哀に滿ち、日本の物質的發達をたゞ黙視してゐるかに見えた。彼等は進歩しつゝ、ある物質文明の惠澤に浴してゐないからである。其の不満を公然と言語文章に表明することが出来ないからである。今朝鮮人の日本統治に對する不満とす

るものは、之を三大別することが出来る。

その一は、日本が同化又は吸收政策を以て朝鮮に臨み、朝鮮人の意志に反して日本化せんとし、彼等の尊重する歴史・文化及び習慣を無視し、破壊せんとしつゝ、あると云ふのである。又その二は、總督政治は專制的獨裁政治である。従つてともすれば同情と理解とを缺き易い。總督政治は總督の意志により 陛下の御裁可を仰ぎ、凡ての法律を定め、高等官吏を任命するので、二十萬の人民は、これに何等參與する權を有たないと云ふのである。其の三は、總督政治の現に執りつゝ、ある經濟的政策は、其の目的は如何であらうとも、結果から見れば朝鮮人の損失に於て、日本の經濟的擴張を圖るもので、之が爲に朝鮮人は其の所有權を失ひ、小作人と化しつゝ、あるといふのである。

誤解は只單に朝鮮・印度・比島等に限らず、如何なる被統治國に於ても、征服者・被征服者間に於て、自然的起る所のものである。斯るが故に最も偏らず同情的に日本統治の性質及び朝鮮人の立場を、十分の注意を拂つて、研究して見たいのであるが、間違のある所は、重々御説をして置き度いと思ふ。如何なる國に於ても、感情の激昂した場合には、其の聲明に對して多くの人々の反感激怒を買ふことが屢々ある。米國人として其の友人である朝鮮人に對して、自然的又當然に起るべき彼等の有する國家慾に同情し、又日本人に對して、一層感激の情を有し、更に一九二四年日本人排斥案の發令せられ

しことに對しては、深甚の恥辱を感じつゝ、此の筆をとるものである。

日本の施政

朝鮮は八萬五千二百二十八平方哩の面積を有し、日本々土・ミネソタ州・英國本土に對して三分の二の大きさを有し、人口は約二千萬である。其の八割三分三厘は農業及び林業にて生活し、僅か其の二分二厘が工業又は商業に依りて生活してゐる。日本統治二十年間（一九一〇年—一九三〇年）に、日本は朝鮮開發のため八億弗（軍費を含まず）を投じた。國債は日本保護時代の百萬弗より、現時一億四千九百萬弗に増加し、凡て植林・鐵道の延長・築港・水利・農民及び部落救濟補助、其の他に用ひられてゐる。朝鮮の商業は二十年間に於て、二千九百八十四萬八千弗より、四億弗に増加して居る。即ち十三倍以上の増加である。始めの十年間に於ける商業の發達は、如何なる東洋の諸國に於ても、見る事の出来ない増加率である。輸入は十倍し、輸出は二十年間に二十倍以上の増加率を示してゐる。政府の豫算は二千四百三十七萬五千五百弗より、九千七百萬弗以上に増加し、全半島の生産額は二億弗より十億弗、即ち五倍の増加を來してゐる。農産物の産額は三倍半に増加し、林業・鑛山・水産は三倍より九倍に増加してゐる。製品は七百五十萬弗より一億七千二百萬弗、即ち二十三倍に増加した。

三十年前の朝鮮は、彼等の政府の腐敗せる政治の下に置かれ、僅かに道路があつた位で、鐵道一線なく近代的の産業は全然なかつた。今日朝鮮内には二千哩の鐵道が布設され、また工事中のものが深山ある。鐵道と共に立派な道路や立派なホテルが設立されてある。中でも一番顯著に成功したのは林業である。朝鮮の昔の森林は薪として伐取られ、禿山は洪水や旱魃に齷齪されてゐたのである。統計に依ると、三百萬エーカーの土地に、三十億本の樹木を植を附けたと云ふことであつて、風致は漸時變化して來た、將來雨量も増すこと、思はれる。日本の水産は最も科學的で、世界でも一番成功した國であらう。其の捕獲の價格は十二倍にも増加してゐる。家庭産業として農民に蠶業を獎勵して來た。過去二十年間に優秀の蠶種を輸入し、之に従事するもの十倍の増加を來たし、鮮人農家の六分の一は之に従事してゐる。繭の年産額は二十三倍以上に増加してゐる。

朝鮮全人口の二分二厘、即ち四十二萬四千七百四十人が日本人である。而して、僅かに全農家の二厘五毛が農事に従事し二割五分は公務に従事してゐる。外國貿易は十二倍に増加し、日本人々口の増加に匹敵して、一部の商人は都會に居住する朝鮮人である。銀行預金は過去二十年間に五倍に増加し、朝鮮殖産銀行預金者の五割一分七厘は朝鮮人である。尤も其の金額は全體の二割であるが、一人當りの預金平均額は日本人の九十弗三七仙に對し、朝鮮人は二十一弗二六仙である。あらゆる情報により

調査してみると、朝鮮の富は漸次増加しつつある、特に都會に於て然りであるが、日本人は朝鮮人よりも富つゝある。都會より田園に目を轉ずれば、過去十五箇年間の日本統治の下に於て、耕作面積は三割五分を増加し、農産額は五割三分の増加である。最も公平な研究家の証言に依れば、日本の最善の努力は朝鮮人農民を援助しつゝあることであつて、尙ほ將來も援助するであらう。アメリカの陸地棉は輸入され、農業及び畜産に非常なる影響を與へ、水田の面積は産米増殖の爲に水利の便が計られ、米の輸出額は過去二十年間に於て六倍に増加してゐる。然るに「ドクトル・ブルナー」の報告に依れば、負債の増加及び小作人の増加と、否むべからざる人心の動搖とは、健全なる當時の状態にあらずと。一般の朝鮮人は二十年前に比して多くの金を有し、購買力も増してゐるが、併し十年毎に自作農は一割一分の割合で減じつゝあつて、小作人は二割の割合を以て増加しデンマークとは丁度反對の現象を呈してゐる。

統計に依れば、人口は漸次増加しつつあるが、個人所有の面積は減少の態である。平均一人當りの小作農は三エーカーを所有し、其の半分が水田である。併し之は日本に於ける二エーカー半に比して未だ大きい。法律に依る小作料は折半である。南部に於ける小作人の正味の収入は僅か作物の五分の一にしか當らない。平均一家當り収入は一年百弗より百七十弗の間である。其の内より八分乃至一割

を税金として拂はなければならぬ。南部に於ける調査に依れば、自作農者の利益を得たるものは僅か全體の三割であつて、半小作の九割五分九厘及び小作農の九割六分九厘は年中負債を以つて日を送ると云ふのである。北部に於ては五戸の内二戸は借財を有し南部に於ては五戸の内四戸まで借財を有つてゐる。彼等は平均年利三割六分をもつてゐる。各地方に於て自作農は其の土地を擔保に置いて、多くは失望落膽の裏にあり、或者は擔保を流失する者もある。南部に於ては耕作面積の二割の所に人口増加し、一平方哩に九百人に達した爲に生活難を生じ、日本内地・滿洲及びシベリヤ地方に多數移住するに至つた。従來政府の悪政に依り、農民は税關吏に苦しめられ、又寄食近親者に苦しめられてなすことなく、事業の發達せざる朝鮮を去つてしまつた。

農村に於ける内地人は、朝鮮人よりも多くの收穫を得てゐる。支那人も勞力競争に於て彼等を壓倒してゐる。封建時代及び産業時代の内にある變遷極なき時に於て、朝鮮の農民は日本内地に於けると等しく、苦境に立至つてゐる。朝鮮人は此の新時代に調和する能はず、生存競争に敗北しつゝある。或者は飲酒に依り此の苦境を忘れんとし、或青年は夢想に耽り失望の結果、最後の望として共產黨に走つてゐる。共產主義は北はシベリヤから、南は日本に留學せるもの及び労働者に依つて侵入してゐる。共產主義は極東(日本・朝鮮・支那)の三國に向つて盛なる宣傳をなし、農民労働者を捕へんとして

ゐるが、最も其の苦境にある者は支那人であつて、これに向つて勢力を集注してゐる。

現時の状況に鑑み、朝鮮人は日本人と同様に、富の程度に於て等しからずと雖も、日本の朝鮮に於ける施政は物質的に最も成功したと見ることが出来る。尤も靈的方面に於ては、日本の統治は上等とは云はれぬ。之は有力なる日本人の告白である。酒・遊廓等は政府に依つて公認せられ、其の数は共に増加して来た。政府の酒税より得る金額は莫大なものである。一千八百七十六年の條約によつて、日本は賢明なる策を採り、朝鮮に阿片の輸入を禁止する條項を設けたのであるが之は日本の門戸開放當時、タウンセント・ハリス氏の先見の明により、日本自身が幸を得たる賜物であつて、之を朝鮮に贈つたのである。

朝鮮人の訴

以上日本統治下に於ける、朝鮮の物質的進歩は否むべからずして喜ぶべきことであるが、今朝鮮人の云ふ所を聞いて見よう。それは寧ろ教育を受けたる朝鮮人で、獨立を希望するもの、九十九パーセント迄の一致した意見を綜合して書くこととする。朝鮮人の一部では、政府の恩澤に依り物質的利益を享け、或は日本の統治を歓迎するものもあらう。又多くは貧困にして生存競争に抑へられ、政治問

題には無干渉なるものもあるかも知れぬが、既に述べたる如く、朝鮮人は日本統治に對して、三つの訴へをもつてゐる。

(一) 第一の問題は、朝鮮人同化又は吸收政策である。

日本は一八六八年(明治元年)に自國民を軍事教育法により近代化したる經驗を有するを以て、極く簡単に朝鮮人を同化し得ると考へた。或る人は「自分は結局一つの事を考へて居る、それは數代かゝるかも知れないが、朝鮮人に國語を教へて日本に同化することである。朝鮮人は日本語を語り、又日本人の生活をなし、我等の國家構成の一要素とならねばならぬ。植民地の統治に二方法がある。一つは其の住民を外國人として治めることで、之は英國が印度に於て採つて居る政策であるが、英國の印度帝國統治は永續することが出来ない。印度は何れ英國の統治より脱するであらう。他は同化主義で、我等の採らんとするものである。我等は朝鮮人に國語を教へ、我等の制度に依りて朝鮮人を統べ、我等と同一の國民とするのである」といつてゐる。半政府の機關紙であるセウルプレス紙は、統治方針について、「我等は朝鮮人同化方針に就て、少しも躊躇することは無い」と述べてゐる。日本語を國語とし、之に依つて學科が教へられてゐる。

然しながら、朝鮮人としては、之を彼等の人格の蹂躪なりとし、朝鮮人としての修養缺くべからざ

る所の朝鮮の歴史・文化・慣習等、最も重んずべきものを除外されて了ふであらうと憤慨して居る。朝鮮人が日本化され度くないのは、丁度日本人が朝鮮化され度くないのと同じである。或る人は斯く云ふ、即ち「今朝鮮歴史が編纂されつゝある、其の編纂委員は内鮮人に依つて組織されて居るのであつて、完成の曉には之れを學校で教へる」と。

併し朝鮮人は千五百九十二年、秀吉の朝鮮侵略に因る生命財産の破壊が、莫大であつたことを忘れてゐない。總督の園遊會の際、或る朝鮮人は景福宮の灰塵に歸した理由は、日本の猛烈なる攻撃に因つてでなく、朝鮮人の群衆に依つて破壊されたのだと書いてあつた掲示板を私に示して呉れた、目下日本統治に反対するものは、新しき教育を受けつゝある學生である。

(二) 第二の問題は、朝鮮人の訴へる所の總督の専制統治である。

日本人は法律を制定し、官吏を任命し、自ら重要な位置を占めてゐる。統治初代の總督は特に嚴格で、軍閥的であつたと云はれてゐる。日本人は日本に於ける經驗を、何もかも一度に朝鮮に應用せんとして居るかの如くである。プルナー博士は書いて居る。「併合以來十年の間に、施政方針の大項目を六十回も變更して、僅か一年しか實行されずに改正されてしまつたのもあつた。現下の情況に於て、警察官は廣範圍の權力を有し、公開演說會開催の許可を與へ、其の會場に出席し、總督の施政方針を

調和せざる言動と考ふれば、其の演說を速時停止せしめ、必要と認められた場合には其の演說者を檢束し、取調をなすのである。齋藤子爵始め高官の多くは同情的で理解的であるが、下級官吏の多くは同情に乏しく嚴格に過ぎ、朝鮮人に惡感情を起させてゐる。而して之等の下級官吏が、一番多く一般朝鮮人と接觸するのである。朝鮮人は總督政治を批評する自由を有しない。總督政治の批評は、やゝもすれば治安妨害として問はれ勝ちである。朝鮮人の所有する三新聞は交々差押へられ、其の編輯者の數人は刑に處せられた」と。

現在でも朝鮮人の新聞なる東亞日報は發刊禁止を命ぜられたのであるが、昭和五年四月十八日のセウルプレス紙に依れば、警務局長は新聞記者を招致して警告を發したが、其の内容は東亞日報がジョージ・バーナード・ショウの論文及びチエコスロバキヤの成功と題する尹致昊博士の論文を掲載したと云ふにある。更にセウルプレス紙は續けて書いて居る。四月十六日の東亞日報には、ネーション紙の主筆ウキラード氏の黒奴の自由獲得成功と題する論文を掲載せしは、明かに朝鮮民族煽動の目的を以て爲されたものであるが故に、當局は其の責任者を召喚し、其の行爲に對する嚴重なる警告を與へたものであるが、更に反省する所なく、繰り返したのであつて、之れは政府に對し正而より反抗したるものと見らるゝので、止むなく發行停止を命ずるに至つたものである。と記してあつた。去年一月よ

り三月迄の間に於て、此の新聞は三十九回の禁止を喰つたのである。今少し詳しく云へば、發賣禁止十五回、記事の掲載禁止二十四回であり、問題なく通つた日は殆ど一日もなかつたことになる。

日本人は偉大な國民である、彼等の最近の進歩發達は、全く稀有のもので世界歴史中類例がない。彼等の特性の礎石は忠義と云ふ二字である。人種としての特長は社會的結合で、之が彼等を成功せしむるに至つた原因である。彼等の有する崇高なる理想、豊富なる犠牲の精神、團體的組織力は偉大なものである。然し獨逸人に比すれば未だ他人を諒解する點に於ては缺けてゐる。日本人は非常に遠慮深く、他の批評に神經過敏であり、自己批判に乏しい。

朝鮮人は日本人よりも情的に富んでゐる、故に平和的の和協的態度、正義を以て漸次自治を與へて行く政策をとれば、容易に彼等朝鮮人を抱き込む事が出来る。然るに朝鮮人は強壓的同化、又は專制的統御方法を決して受入れるものでない。日本人はダン／＼此の點に感じつゝあるのである。朝鮮人は印度や比島に於けるが如き自由の程度に於ては餘程遅れてゐるが、齋藤總督の同情且つ理解ある政治の下に、自治の第一歩を得たのである。朝鮮十三道の知事の中、五人は朝鮮人である。殆ど全部の面長は朝鮮人で、十分の九の郡守も然りである。齋藤總督は諮問機關を擴張して、漸次日本人の多く居住する都市及び指定面や經濟力を有する協議會等に、自治制を與へることにした。

(三) 經濟的差別政策は、朝鮮人の第三の訴である。

原因はさて置き、朝鮮人が土地所有權を失ひつゝあることは、アメリカ其の他の國に於ける農民の狀態と變りないのは事實である。朝鮮人農民の四分の三は地主との關係を持つてゐる。地主の中五分の一のものは極めて大地主で彼等は凡て其の所有地全部を小作せしめ、而して彼等の全部所有土地を合すると朝鮮の耕作面積の二分の一以上に達するのである。日本人は半島の土地の二割二分乃至二割を所有してゐるが、併合以來僅か一萬戸足らずの人が移住して來たのみである。南部に於ては朝鮮人所有地の四分の一が、朝鮮人の手を離れた。朝鮮人は政府が長期及び低利資金を以て、日本人を誘引し、爲に或少數の朝鮮人は、小作人或は流失擔保保持者の如何を問はず、日本人移住者の爲に、其の場をあげねばならぬ事を不平に思つて居る。(註。政府が長期及び低利の資金を以て、内地移民を朝鮮に誘引し、爲に朝鮮人が田圃を追はれたことはない。政府の低利資金で、移民の爲に用ゐられたのは沃漕の干拓地にある不二農村組合のみである。同所は全然新たな埋立に依つて得た地で、從來朝鮮人の所有してゐた土地ではない。)島田三郎氏や其の他の日本人は、朝鮮人小作が、或者は一世に耕作して、殆ど所有に等しい國家所有地(驛屯土)を日本人移民の便宜の爲に割讓されるに對して、反對意見を提出した。(註。驛屯土を政府から移民の便宜の爲に割讓されたことはない。東洋拓殖株式會社に對する

韓國政府の出資が、驛屯土を以てされたことがあるのである。又政府は大正七年から十年賦で、其の所有する驛屯土を其の耕作者たりし朝鮮人に買渡した。日本人は法律の援助に依り自然的に新商業及び工業の権利を取得したのである。有限会社に於ては、其の理事中に必ず日本人を加へなければならぬ(註)。有限会社の理事中に、内地人を入れねばならぬと云ふ法はない。實際多くの会社では朝鮮人のみで經營してゐる。日本は朝鮮をして日本の原料供給地とし、日本製作品の消費地たらしめんがため最善の努力を拂ひつゝあつて、朝鮮内の製品に對しては、僅かの援助を與へられてゐないと云ふのである。朝鮮には實際上二つの法律が行はれてゐて、一つは日本人のためで、他の一つは朝鮮人のためである。(註)。朝鮮人の爲と内地人との爲に、各別の法律が行はれてゐると云ふことはない。朝鮮人のみに適用せられ且つその經濟發展を阻害するが如き法律の存在する譯はない。嚴に一視同仁の大義に依りて、内地人も朝鮮人も法律上全く平等に取扱はれてゐる。朝鮮人は特に政府や莫大なる土地所有者として日本人の利益を圖る東洋殖産會社及び朝鮮銀行等の、差別的待遇に對し、苦情を云つてゐるのである。朝鮮銀行は朝鮮を利用し朝鮮人の發展を圖らない。鮮銀總裁の内地に於て演説を試みた其の中に「鮮銀は鮮滿に於ける日本人商業の發展援助の目的で設立せられたのである。日本經濟發展のためになさるゝに外ならぬ云々」と述べた。日本人は云ふ、「朝鮮は日本の主要なる一部で、其の人民

は 天皇陛下の赤子である」と。之が朝鮮同化の根據である。然るに彼等は永續的不均等の經濟政策に依り、鮮人の代代繼承せし漁業權が剝奪せられつゝある如く、彼等は所有者と非所有者との、二つに分たれつゝある。斯るが故に、經濟的に日本の政策は其の主張に依るよりも、寧ろ其の行爲に依りて判斷さるべきものである。

以上述べたる所を綜合すれば、偉大なる物質的發達を來せしことは、日本統治による統治上の大なる誇であるが、しかし、朝鮮人の枚擧する三つの訴たる強制的同化政策は、賢明の處置でもなかつたし、又成功であつたとも云へぬ。寧ろ人民の反感を増したに過ぎない。日本統治は專制的で獨裁執權で、少なくとも或種の經濟的不均等主義であつて、そのために、朝鮮人の土地所有權喪失の如き、豫め防止することが出来ぬ。

日本の經濟的不均等はアメリカに於いても亦他の國に於ても同様、我儘な無慈悲な資本主義が横行してゐる所には共通である所の、ただ搾取的自己利益のみを求める邪教的實業の制度に於て見るところのものに外ならぬ。朝鮮人待遇はアメリカに於ける黒奴に對する經濟的取扱や、小兒勞働や、失業者に對するものに比べて悪くはない。若し私共が朝鮮統治を印度や比島のそれに比べると經濟的には餘程優秀である。勿論此等三國は各々其の事情を異にしてゐる。日本にとつて朝鮮は、比島が米國に

とつて大切なるよりも遙に大切である。

朝鮮は過去の日本にとつて危険區域であつて、常に禍の種であつた。日本は朝鮮のために二大戦争に於て闘つたのであつて、朝鮮は日本帝國內の一部として併合されなければならぬ様に考へらるゝに至つたのである。日本が朝鮮を手離しする様なことは、輕卒に考へ得ない事である。印度や比島に於ては、未だ曾て其の國民を同化吸収し、又は其の國民性破壊を試られたことはない。これ等の領土では專制的の行爲が少なく、自由であり民主主義であり、自治的である。比島人は云ふであらう、「自分等に對しては殆ど差別的待遇と云ふべきものはない。寧ろ其の法令に於ては、アメリカ人や外國人に對し、大量的土地所有權防止事項を加へてゐる」と。現在まで比島に於ては、米國人に對する酷い感情がなく、又比島人統治上強制的のものが一つもない。役人の數に於ても、アメリカ人は極く少數に減少し、比島人は三千人以上に増加して來た。比島人は自己の法律を制定し、殆ど完全に自治制を有してゐる。印度に於ても亦然りで、英國は民主政體を發達せしむるべく、比較的長年月を經過して來たが、印度人は朝鮮に於けるよりも、餘程多くの自決權を與へられてゐる。

日本人の立場

善良なる日本人は、憂國の英國人が印度に於けるが如く、又アメリカ人が比島人に於けるが如く、朝鮮問題に就いて憂慮して居る。或日本人は、朝鮮の自治權を嘆願したことがある。或人は云ふ、「朝鮮は日本のアイルランドである、諸君は朝鮮を我等のカナダとすることに御援助出來ないか」と。多くの朝鮮人は感ずるであらう。如何に日本が朝鮮に善政を施くとも、朝鮮人は決して満足するものではない、日本は一九〇九年(明治四十二年)統監府時代、既に朝鮮歴史の調査を始めたのであるが、現在の歴史編纂委員の半數は朝鮮人であり、又た朝鮮人は彼等自國の歴史を書くことは自由であると云つてゐる。所が朝鮮人は政府の檢閲を経るに非ざれば、其の歴史書の發行が出來ないのである。普通學校使用の歴史書籍の三三七頁中、僅か二十二頁だけが、數千年に亙る朝鮮の歴史に就いて書いてあるのみであり、且つ八十七の參照繪は日本の事柄に就てであり、朝鮮の事に關しては、僅か六つに過ぎない。

朝鮮人が參政權なしと云ふに對し、日本人は云ふ「元々朝鮮には選舉制度なるものを、もたなかつたのであつた。又朝鮮に於ては日本人も選舉權を有しないのである。彼等朝鮮人は日本内地に於ては、選舉權をもつてゐて、現に一九三〇年(昭和五年)の選舉權者の中、五割一分八厘は投票して居る」と。或日本人は又云ふ「警察官の舉動は勿論理想的ではないが、其の警察官の總數の半數以上は朝鮮

人である」と。又批判の自由に就ては、「朝鮮に於ける新聞法は日本に於けると同一で、等しく日本紙及び朝鮮紙にも同一に適用されてゐるのである」と。然し新聞法は同一でも、朝鮮に於ては其の適用が嚴重であり、事實上數人の編輯人と政府攻撃者が檢舉され投獄されてゐる、之によつて見ても確である。

日本人は云ふ、「小作人が増加しつゝ、あると云ふことは事實であるが、朝鮮統治以來今日に至るまでの期間に於て、米國に於ける小作人の増加は二割に及び、又日本内地に於ても同様の數字を示してゐるではないか。小作人の手を去つた土地の大部分は、地價より生ずる利益を目的とする朝鮮の地主の手に移つたのである」と。現に政府は一九一二年(明治四十五年)十月朝鮮總督府令を始めとし、種々なる法令に依り、自作農の奨励をなし、地主への土地兼併防止に努力して來たのである。驛屯土は殆んどすべて朝鮮農民に分與され、其の數は二十二萬五百五人に達してゐる。更に小作法を制定し、低利資金を貸與し、副業の奨励をなし、農會を組織し、一九二八年(昭和三年)には、小作法の改正をなしたのである。模範部落を指定し、種苗場・試験場等を設け、棉・畜産・養蠶・其の他穀類の試験をなして居る。此は或アメリカの専門家に依つて立證された様に、實に重要なものであり、これと相俟つて既に相互救済會・農業勞働組合等の努力に依り、過去二十年間に朝鮮米作は二倍の増收を來してゐる

地方もある。

産米増殖計畫は國內消費以外に多額の移出が出來、其の年額は一億弗(二億圓)に及んでゐる。十二箇年産米増殖計畫は、四千六十二萬七千ブツシユルの増額を見、米價暴落甚だしからざる時は、一年一億二千三百萬弗(二億四千六百萬圓)に達することになる。普通學校卒業生に對しては、特別に指導教育を施し、其の教師に對しては講習會を開き、耕作法の教授をなし、又回覽圖書の便が與へられてゐる。指導學校教師は、各部落に到つて其の毎土曜・日曜日に生徒を指導し、農業競技品評會を開催し、又改良品種の配布をなし、種々なる團體には農具の貸付をなしてゐる。

朝鮮には千二百三十一萬六千五百弗(二千四百六十三萬三千圓)の總資本を有する六百二十一の金融組合が在り、其の會員數は實に五十八萬八千五百六十人に達してゐる。目下自作農奨励運動が起つて、着々實行されつゝある。東山農場は其の小作人二千四百四十四人に、二十五萬四千弗(五十萬八千圓)以上を年七分の利子で、十箇年償却として貸附してゐるが、之は以前法外な高利で借財して居つた負債を支拂ふ爲の便宜供與であつて、日本の農業指導は英國が印度に於てなしたよりも遙に超越し、又アメリカ政府が其の農民に爲してゐるが如き指導方法が多々ある。之は充分日本の自慢するに足る有效な働である。

政府の示す所に依れば、不思議にも朝鮮は二千萬の人口を有し、比島は千三百萬の人口であるが、朝鮮の學齡兒童数は二百六十萬人で、比島の夫れと同一であると云ふことを發見する。就學兒童の四十七萬一千八百四十七人は公立學校に、二十四萬九千人は各種學校に通學し、其の總數は七十二萬八百四十七人で、約全學齡兒童の二割八分に相當する。

最近始められたキリスト教青年會及び宣教師團體の農村開發運動に對しては、政府も之を認め協力して居る。或人の手紙に依れば、誠意籠れる次の言葉が書いてあつた。「朝鮮人は我等の同胞であり、又兄弟である。彼等の幸福は我等の幸福であり、彼等の悲は我等の悲みであり、彼等の苦悶は我等の苦悶である。朝鮮に於ける我等の標榜する「モットー」は共存共榮である」と。總督府は過去二十餘年間に互り、科學的研究及び調査を重ね、莫大なる豫算及び臨時費を以つて之に當り、少なからず犠牲を拂つて來たのであるが、然し未だ充分に人民の信頼を得る事が出来ない。其の理由は一方朝鮮人が過去に於ける惡政治に依る苦き經驗と、又一方彼等の覺醒が遅いからである。然し漸次其の忍耐努力の結果は、農村に於て現はれつゝある。

以上述べた通り、眞誠なる日本人の精神は、印度に於けるアーヴィン卿の精神と同様、終極に於て朝鮮の爲になさんとする努力である。意志の存する所には必ず其の道が拓かれると云ふことは、日本

の自由主義者からも、又世界の公論からも支持されるところである。

將來に於ける日本の政策

朝鮮内の情態が改善されて來たことは、各般に互つて顯著であるが、ただ残念に思はれることは、内鮮人の融和が完全に行はれてゐないことである。政府の強要的吸收政策、專制統治及び多少の經濟的差別待遇等に依り、教育ある鮮人及び最も善良なる鮮人をして、殆ど其九分九厘迄が日本に對する沈黙的敵對の態度に出づる様になつて居る。日本人は反駁して云ふ、「朝鮮人は信頼することが出來ないから、嚴重にやらねばならぬのだ」と。

朝鮮歴史を研究すれば、漸時朝鮮人に與へられつゝある所の(初めに地方、道、後に中央の)自治の政策に對して彼等は好感をもつて居ることである。朝鮮人に今少し高官の職を與へ、今少し責任ある地位を與へ、日本人と肩を並べさせてやつては如何であらう。朝鮮に於て必要なのは法律的、政治的自治よりも、寧ろ文化の自由である。同化と云ふ言葉は朝鮮人にとつては苦い毒の様なもので、彼等を同化すべく強ゆる爲に努力するよりも、鮮人は鮮人たらしめたら如何だらう。彼等に其の歴史を書かしめ、其の言語を保存せしめ、印度や比島に於けるが如く、其の繼承せし文化を保護させなければ

ばならぬ。又彼等には不法的差別をすることなくして、經濟的自由を與へねばならぬ。

日本が鮮人の信頼を得る唯一のものは、其の公正なる行爲と和協的精神とに依るものであつて、日本の最賢明なる政策は、多く語らず著々地方自治を始めとし、中央の自治實行に邁進し、法律文化及び經濟自治と相俟つて行くべきものである。朝鮮人が獨立の希望をもつが故に疑ひをかけられ、壓迫を加へらるゝ様なことがあつてはならぬ。自尊心ある朝鮮人が日本人と等しく、それを希望すると云ふことは當然のことであらう。他方に於て朝鮮が眞の自治に向つて進歩を來しつゝ、あるとすれば、朝鮮人は執念深く敵對態度を保つてはならない。小事にも注意すべきである。而して世界の最大強國の一である日本に對して、團體的行動を取る如き希望は棄てなければならぬ。自治制に向つての日本の進歩に對しては、五分五分に折合はなくてはならぬ。現在に於ては漸次一歩々々と進んで行かなければならぬ。日本及び朝鮮の爲に必ず新時代が到來する。

比島は多分獨立するのであらう。印度は英帝國内に於てか或は外に於てか自決を獲得するであらう。教育と啓發された公論は、朝鮮人を新らしき理想に導くであらう。又日本人は鮮人をして帝國主義擴張内に於ける單なる農僕、又は經濟的質草としてを考へてあるとすれば、彼等朝鮮人に教育を授くべきではない。未だそれ以上必要なことは、新らしき自由の日本が建設されつゝ、あることであ

る。普選、勞働團體の發達、プロレタリア團體の發達の可能性、而して公正なる經濟的理想に向つての日本人學生教育（學生は折々學究的理論の極端に走つて、政府より危險思想家として取扱はれて居ることもあるが）、以上は朝鮮の將來に向つての輝ける踐約である。日本の自由主義者の或る者は、既に朝鮮の爲めに考慮しつゝあるが、必ずや朝鮮に代つて、言論を戦はしてくれてゐるであらう。

朝鮮の過去

朝鮮と日本との現時の事情を知らんと欲すれば、先づ彼等の過去の歴史を通じて之を知るに如くはない。朝鮮半島は曾て支那・日本及びロシアの三大強國を分ち、又結びつけた國である。それ故に何時も其の禍中に巻き込まれた。數世紀の間、朝鮮は隱道國であつた。支那を除くの外世界各國とは如何なる折衝もなつた。只支那のみが其の優秀なる文化を分與して名目上其の屬國であつた。支那の文學及び佛教は朝鮮を経て日本に輸入されたのである。日本は一千八百五十四年ペルリ提督來訪以來、門戸開放主義を探り、隱道國たる朝鮮に對しても門戸開放を迫つた。日本は國內の必要なる改革を計畫し、其の獨立を保持せんがために、諸國に當つたのであるが、それは先づ支那次にロシアであつた。

前に記述した様に、朝鮮の宮廷は虚弱腐敗し、官位官職を公賣して收入を得てゐたのである。役人は殆ど俸給の支拂を受けること無く、爲に官職を買ひ、其の競賣者に對峙し得るために、人民の膏血を絞り蓄財する必要があつた。皇帝は貴族を絞り上げ、貴族は人民より搾取した。觀察使は其の管轄道より絞り取り、市尹は其の市より、其の他官吏は國民より絞り取つたのである。富豪は牢獄に投ぜられ、官を買収するまでは釋放されることが出来なかつた。勤儉貯蓄の美風は廢たれ、今日まで其の悪影響を及ぼすところが少なくない。皇帝皇后に屬する黨派は分れ分れて、日本・支那・ロシアの間にあつて、盛んに陰謀を企てた。

千八百七十三年より千八百九十五年迄に於ける日本の政策は、朝鮮の改革進歩獨立のためであり、凡て彼自身に對する威嚇に對してであつた。即ち支那、最後にロシアであつて、日本は朝鮮の支那に對する臣服、保守思想及び腐敗を茲に一掃し、其の獨立改革を敢行せしめたのである。

千八百九十四年より九十五年に日清戦争が開かれ、世界の豫期に反し戦は日本の大勝に歸した。支那は其の結果朝鮮の獨立を認め、遼東半島を日本に割譲し、賠償金を拂つた。然るにロシア・フランス及びドイツの三國は之に抗議し、遼東半島の還付を迫り、彼等自身が其の領土を獲得租借した。ロシアが滿洲及び遼東半島に進出し、更に日本の門戸に衝る朝鮮に迄伸び出て来たために、日本は千九

百四年止むなくロシアとの戦端を開く様になつたのである。之は全く自衛的に出たものであつて、僅か日清戦争後十年に過ぎなかつた時である。日本が支那に大勝して僅か一年足らざる間に、ロシアは朝鮮の改革及び獨立を阻害した。日本は歐洲に於ける最大強國ロシアに衝り、再び朝鮮のために戦を交ゆるに至つた。

アメリカ人として記憶しおかなければならぬことは、日本の朝鮮及び滿洲に於ける關係は、米國が遠距離にある比島に對するそれと同一のものでないと云ふことである。寧ろ千八百四十五年に、メキシコから戦争によつて獲得した加州の如きものである。抽象的権限から云へば、加州はメキシコに還付さるべきものであるが、然し米國人はそんなことを考慮する餘地を有たないと同様に、日本も朝鮮のために二大戦役の犠牲を拂つた以上には、朝鮮の獨立を叫ぶことは困難であらう。

千九百五年(明治三十八年)に朝鮮は日本の保護國となつた。日本の大政治家伊藤公爵は千九百六年(明治三十九年)統監に任ぜられ、諸般の改革案を携へて着任された。然し是等の實行は諸種の困難に遭遇し、朝鮮人間には好評を博し得なかつた。遂に千九百十年(明治四十三年)正式に併合が行はれた。之の併合は日本人にとつては當然の出来事と思はれたけれども、朝鮮に於ける改革派にとつては、國家の大抱負に對する打撃であつた。大體に於て日本の政策は物質的に顯著に能率が上つたが、

只同情と理解と協調の點に於て缺けてゐる。

朝鮮人の日本人に對する三つの排日的の精神がある。第一は千九百十二年(大正元年)暗殺事件に於ける失策である。第二に千九百十九年(大正八年)朝鮮獨立宣言である。第三に千九百二十九年—三十年(昭和四・五年)學生騷擾事件である。

日本軍國主義者は、數世紀間孤獨的生活を續けて、陸軍政治には非常に忠實であつて、異國民に對する心理的理解を缺き、朝鮮問題の如きデリケートなものに對して、賢明なる處置を採るには不適當であつた。先づ彼等は非常に嚴格であり、折々荒々しい官僚的態度に出でて失敗した。之は明に暗殺事件に於て證明されてゐる。二人の泥棒が處罰を逃れるために、アメリカ宣教師及び朝鮮人キリスト教信者が寺内總督暗殺の陰謀を有することを傳へた爲に、百二十三名(主としてキリスト教會牧師及び平信徒)が檢舉され、裁判の結果有罪となつた。六人は十年、十八人は七年、三十一人は六年、四十一人は五年の刑に處せられた。控訴の結果六人は尙五年又は六年の刑に處せられた。

第二は千九百十九年(大正八年)三月一日に朝鮮の指導者が、全鮮の各街頭に立ち彼等の受けつゝある虐待と艱苦を訴へ、獨立宣言文を読み上げ、萬歳を唱へたことである。然して其の指導者は平和的に自首し出たのであるが、其の他の暴徒は官憲に反抗し捕縛せられ、數百人が投獄されたのであつた。

た。日本人は此の豫期せざる國家的大騷擾に狼狽したのである。然かるに日本に於ける新聞は、軍閥政治に依り統治される朝鮮に、惹起された實狀記事の掲載を禁止したのである。其の以前即ち一月二十一日に、皇后暗殺後數年間に於て朝鮮皇帝は崩御された。千八百九十五年(明治二十八年)に王妃は宮廷に亂入した暴漢の爲に殺害されたのである。皇帝崩御の喪は當時國家的精神の再勃興せしめで、眞實彼等の獨立を失つたと云ふ悲哀な空氣に満ち、全民悉く悲哀混亂の状態に在つたのである。皇帝の國葬及び獨立宣言の當時には、日本は軍隊を出動せしめて、暴動を鎮壓し、數百名が投獄せられた。長谷川大將は軍人の常として、日本新聞記者に此の騷擾は「ボルセビキ」の煽動に依るものであり、過去十年間全世界に互り、彼等は政治・社會・産業の不正を鳴らしてゐるが、之も其の一例に洩れないのである」と云はれた。此の騷擾事件の結果、陸軍々人たりし總督は退職し、恐らく此の最大難局に當るべき日本に於ける最善の人、海軍大將齋藤男爵の任命を見るに至つた。彼の純良なる精神、慈悲深き性質、協調的政治は數多の改善を齎し、充分の讃辭を呈するに足るのであつた。併し未だ日鮮人間に於ては、根本的に又心理的の誤解が存在し、政府の施政が如何なる物質的進歩を來たしてゐるにもせよ、又朝鮮人官吏が内鮮協調の態度に出てもせよ、彼等の有する之等の誤解が、有爲なる人民や眞の愛國者をして、日本と相結ぶ事を爲さしめずして、隔離して了ふのである。

次は第三の學生騷擾事件に於て善く證明されてゐる。全鮮の學生が殆ど擧つて之に加はり、特に官公立學校の生徒が之に和し、政府に對する根強い反感あることを如實に示したのである。之は僅かの事件より惹起されたもので、二日本人學生が一朝鮮人女學生に對し、侮辱を與へたと云ふに端を發したのであるが、千九百二十九年(昭和四年)十月三十一日以来日鮮人學生間に大なる争鬭が惹起された。雙方の學生とも負傷し、警察官の出動を見るに至つた。朝鮮人は裁判所の判決が朝鮮人に重く、内地人に輕かつたと感じた。之は一般の場合に於ける不公平なる差別待遇であると感じたのである。學生騷擾に次いで一般的學生のストライキが行はれ、學校々庭から飛び出し萬歳を叫んだ。而して更に千九百三十年(昭和五年)一月に至つて擴大して全鮮の中等學校に及び、警察官との衝突あり、數百名の鮮人學生は投獄され、退學處分に附せられ、學校は數週間に互つて休校した。日本官憲及び警察官は、例に依り彼等は共產主義的秘書結社に依るものだと云つて居る。

斯るものを見て露西亞の陰謀と云ふは餘である。朝鮮に共產主義影響のあることは誰一人疑ふものはないが、其の共產主義なるものが、朝鮮人の有する如何なるものを訴へて居るのであらうか、取りも直さず前述の三つの訴あるが故であつて、其の老若たるを問はず、日本統治に對する一般的怨恨に對して、刺戟を與ふるものである。日本人が此の點を十分認識し、朝鮮の指導者からの信頼を勝ち得、彼等と協調的態度に於て、誠心誠意等の問題に立脚するに非ざれば、何時迄も朝鮮人の反感を除

去することは出来ない。兩民族の幸福を希望する者は、すべて彼等雙方のより善き理解を希望するものである。

朝鮮には一大勢力があつて、朝鮮人を形造りつゝあり、外部的に日本政府の賢實なる働があり、又一方にはキリスト教の内部的精神の運動がある。此の膨脹力ある精神運動は、最も有識的進歩的社會に對し、其の教會・學校・病院、其の他の團體、家庭等を通じて働いてゐる。三十餘年前腐敗せる惡政の下にあつた朝鮮は、逆退しつゝある儒教文明の下に、しかも國家は眠り人民は懶惰に陥り婦人は隠遁されて了つた。佛教は廢類し、政治陰謀を事とし、不道徳裡に終始して、遂に首都京城より放逐されて了つた。一般民衆は精靈説、黃教、廢除の神崇拜、魔法に因りて弄ばれ、人間の頭は材に刺されて路傍に曝され、罪人に對するみせしめにされ、牢獄には改革者と、愛國者を以つて滿された。此の最も宗教の必要なる國に、千七百八十四年羅馬舊教が侵入して來たが、侵入と同時に魔の手は延びて、宣教師や信者が死刑に處せらるゝ等迫害の限りを受けた。

新宗教は各宗派信徒數三十六萬人、即ち全人口の二パーセントになる迄急促の進歩を爲したが、各基督教の勢力は其の數に比して偉大なるものであり、初代傳道は主として、神學的な精神的なもので、其の目的たるや健全な獨立的の社會建設にあつた。然るに今日に於ける使命は經濟及び社會の要求を充たすにある。政府は賢明の策に出でて、基督教青年會及び宣教師團等、農村經濟の開發の爲に設置

され、農村講習會・販賣組合・土壤の改良・品種の改善・農具改良・米産畑作・商業等の改善努力に協力して居る。斯る政策は物質的に有利に導くのみならず、政治思想にのみかられて、實質的生活に親まな

いものも方向轉換することが出来、更に自己陶冶の新しい希望を與へることが出来る。朝鮮人はデンマルクの更生を研究し、教會により啓發された其の國民高等學校及び共同販賣に學ばんとし、又印度の基督教青年會によつてなされつゝある共同金融機關を研究してゐる。模範部落を造り農村の範として研究を怠らないが、斯る計畫と試みは、將來の教會と政府と人民との協力を意味するものであつて、凡て朝鮮人の福祉の爲である。

近時、國家思想勃興し、帝國主義廢類の傾向ある際、一國が他國民を統御せんとするのは至難の事業で、有り難く思はれない引き合はぬ仕事である。例へ朝鮮が他國より統治され不評判の統治であるにしても、朝鮮人は過去に於て未だ見ることの出来なかつた、立派な近代的の政府を有して居るのである。貧乏甚だしくして或るものは、此の變遷極まりなき時代に於て滅ぶものもあらうが、新朝鮮は新愛國心と宗教、教育、法律及び秩序の下に建設されつゝあるのである。

日本の朝鮮に於ける將來の成功の原因たるべきものは、彼の勢力や商業權の擴張進歩等によるものでなく、只管朝鮮人の經濟的繁榮に對する同情理解と、政治的自治と、鮮人の精神的品性によるものである。之等の事を考察する時に、朝鮮の將來に大なる期待をもつことが出来る。(おわり)

米國視察團の眼に映せる朝鮮

カーネギー財團主催に係る米國記者團一行十二名は、昭和四年六月九日より十三日まで朝鮮の各地を視察し、京城にては本府、科學館、朝鮮神宮、朝鮮人家庭、林業試験所、海松洞普通學校、經學院、梨花女子普通及專門學校等を視察、東九段に詣り、又昌徳宮を拜觀したが、一日を仁川におくり其所の名所をも視察したのである。一行中のアトランタ・コンスタチューション紙のフランシス・クラーク氏、ワシントン紙のスター紙のワイオン氏、ロサンゼルス・タイムス紙のホイガ氏が、朝鮮の印象に就て筆を執つてゐるが、彼等の視察はほんの一斑を呈ししか云へない。記事中いろいろの誤りがあるが、數字に關する誤は注記して之を正し、事實に關する誤は傍側に△點を附して誤解を避けることとした。

苦情と利益

新聞記者一行が朝鮮の首都京城に到着すると、朝鮮民族運動者は先づ遠來の客を迎へて、彼等が政府に對して有てる苦情を訴へんが爲め、其の諺文新聞特別號を出して日本統治に對する不滿苦情を書き並べたものを一行に配布した。之に對する一行の反響は果してどうであつたか、吾等は朝鮮人に對して充分同情を持ち氣の毒には思ふて居るが、朝鮮に於ける日本の統治は、畢竟鮮人の自ら統治する

に比し、遙に勝つて益をなして居ると考ふるより外はなかつた。

朝鮮人は自國を統治しつゝある政府の施政に對しては一言を容るゝ自由を有たないことは事實であらう、又學校に於ける常用語は日本語であり、王族は日本婦人と結婚し、朝鮮が日本化されつゝある事實を認めるが、然し又一方に於て、數世紀の間隣強諸國より蹂躪され、其の結果貧乏の極に達して居た朝鮮が、今や恒久的惠澤の裡に太平を謳歌し、無限の進歩と繁榮とに輝きつゝある事實をも認むるのである。

教育ある朝鮮人は愛嬌好く上品であるが、彼等は祖國を愛し其の傳統的精神を尊び、自治權を失つた事を非常に痛嘆して居る。然し又一面に於て、日本の統治がその宜しきを得、時を追ふて貧民の數を少くしつゝあることは、豫想するに難くない、即ち彼等は一方に失つたけれども、それによつて得たものは遙に大なるものがあらうと、クラーク氏は述べてゐるが、又ホーグ氏は次の如く書いて居る。

日本統治に不満を抱いてゐるものは、朝鮮少壯者であるが彼等は政府の建てた學校で教育を受けた者である、朝鮮に於ける人口の大部分を占むる農民と勞働者は、政治に對しては無關心であり、寧ろ現時の朝鮮は昔の韓國政府時代に比して遙かに大なる進歩であると考へてゐる。たゞ學校にある青少年が日本を敵視してゐる、彼等は學校でデモクラシーの眞意を學んで居て、東京で發令になる嚴正な

法の命令によらないと仲々服従しない。然し汽車の窓から見える千萬の農民達は日韓併合に對しては何の反感をも有つて居ない、寧ろ之を承認してゐる。而して又過去十九箇年間、其の生命財産の安全を保證せられて居るのであるから、若し一朝其凡てが引上げてもなつたら、それを大恐慌を來すのである。

政體などと云ふ様な事は、彼等の原始的な概念では考へ得らるゝ處でない。けれども日露戦争後二十五年間と云ふものは、彼等の所有する田畑が、兵馬の爲めに、峠道一隅たりとも損はれた事は無い、勿論他國の侵略を蒙つた事も無い、又一度たりとも掠奪に遭つた事も無い、田園生活の平和は斯くして亂された事はないのである。

朝鮮人は對岸の支那人が革命戦争の爲に、戦々兢兢々として國境を越え、彼等の領内の山谷に避難して來るのを目撃して居る、彼等は二十代を経て、漸く今日始めて他國の侵略を免かれて居るのである、彼等の消費する食糧は祖先の時よりも少くはないが、尙多量の殘餘があつて、四代前には夢にも見なかつた價で賣捌く事が出来、多額の收入を齎してゐる。それ故、いくら外部より政府は朝鮮人の味方でないと言傳されても、そんな事に傾聴する事は出來ない、「安全」と云ふ事は彼等の子弟が外人の書いた書物で學ぶデモクラシーの眞意よりも、遙かに勝つて價値あるものである。然し此の状態が何

年間續くものやら豫想は出来ない。政府は朝鮮に四千餘の學校を設立し（昭和四年五月末日現在の幼稚園及書堂を除く學校數は、官公立二、一六二校、私立六四〇校、計二、八〇二校である。）初等教育の普及に努めて居る。進歩は津々浦々に及んで居る。之がため一本の釘が他の釘を打ち出す様に、新思想が舊思想を迫出して居る。學校を出たばかりの青年は、水田で草とりをするよりも、京城の都會でセメントの人道を測歩するのを好むから、其親達は田圃に鋤をとりをる間も、常に之等の事が腦裡を往復して、惱みの種となつて居る。何故今の子弟等は、祖先には一向氣にされなかつた事柄を、斯くまで嫌ふのであらうか。彼等農夫が政府に對する唯一の不滿は、子弟の就學を強要せられる事である。それは時間の浪費であり、又無益の事柄の勉強であつて、其の時間を用ゆれば水田で立派な收益があるからである。

汽車の窓から見た朝鮮人の生活状態

汽車の窓から見た朝鮮人は、我等一行には誠に奇妙に見へるが、又實に繪の様に美しい。

朝鮮人の服装は男女共に眞白であつて、殆ど他色を用ひて居ない。可笑しな馬毛で出来た帽子は特に目を惹く、此帽子は四十年前に朝鮮全權一行が、我が國の首府ワシントン市を訪れ、我政府に朝鮮

獨立の承認を求めて失敗に終つた時、彼地の人々を仰天せしめた帽子である。此帽子を冠る人はチヂヂ、即ち背に運搬機を擔つて居る人々の有たない威嚴を保持して居る。帽子は鬚を保護するもので、其の鬚は社會に於ける地位の表章である、尙齒を保護する帽子を冠る人は、實に上位の人である。尙帽子の上に今一つの帽子をつけるものもある。

婦人も男子と異つた帽子を冠る。又彼等は男子と變りない程重いものを運ぶが、其方法は頭上で運ぶ。我等の國でやるのと好く似て居る。此の爲か婦人の身體は眞直である。

我等一行は朝鮮の農民と其指導者のなしてをる農作法の原始的なものには驚かざるを得なかつたとライオン氏は書いて居る。即ち直ぐ汽車の窓下の處で二人の男が麥の籬ひ分をやつて居つたが、一人は籬を持ち、他の一人はショブルで少量づつの麥をほり込んで、一人が籬ひを振つてをる間、他の一人は之を見て居る。我等の汽車がカーブを廻るまで之が見へて居た。實に遅々たる動作である。少し行くと田の中で非戸か溜池かで、水田に水を汲み上げて居たが、二人はバケツの様な水槽の兩端に結ばれた綱を一本づつ持ち、そして同時に溜池に下しては、又引きあげて水を送つてゐた。尤も之は熟練を要する仕事ではあるが、骨の折れる仕事である。ポンプか水車でやれば、勞力も省けてより善い仕事が出来る様に思はれる。

日本は朝鮮で何をなしたか

ライオン氏は次のやうに書いて居る。私は昭和二年度の朝鮮總督府の施政年報を讀んだが、昭和元年には千九百十萬三千九百の人口中、千五百五十一萬三千四百十八人即ち八十一パーセントは農業に従事して居る。(上記の數は農業・林業・牧畜業を合せたるもので、昭和元年の純農業者數は一四、六九〇、七三五人である。)政府は極力彼等に仕事を與へる方針をとつて居て、京城附近の農學校で出来るだけ近代式の農業法を教へて、骨の折れない様に努めて居る。然し新農法に直ぐ改良される事は誠に時を要する、又随分迷信も手傳つて居て、新農作法に變るまでには、一代位經ないと六箇敷からう。

朝鮮には洪水による土壤浸蝕があつて、土壤は悪くなつた、上流から押し流されて來た多量の汚土が、肥沃な田畑を蔽ふて居るので、長年月に亘つて充分の手入れを爲し、肥料を施さないでは舊に復さないであらう。

然し幸に此の浸蝕による危険は防がれた、政府の賢明な然かも進歩的施設の結果、山は既に水を保留し得る様になつて來た。併合以來植ゑられた木の數は二百七十萬本(二十七億の誤である)であつ

て、政府は毎年八千町歩の割合で植林して居る。其の他民間でも八萬町歩を、政府の補助に依つて植林して居る。既に植林された土地丈でも八萬八千町歩(八十八萬町歩の誤である)ある。政府は毎年三千町歩の砂防工事を施し、一年に九萬一千町歩の割合で、浸蝕に備へて居る。

之によつて水害は目に見へる程減少した。河川の底は毎年礫や砂利やで埋められて來たが、漸時河底も深くなつて來た。又降雨も多くなつたと云はれて居る。然し之は果して事實か、自分には疑はしい、自分は未だ氣象にまで變化を來たしたとは信じて居ない。然し今の政府の方針が繼續されたら、今から五十年も経つた後には、今植林されつゝある樹木が森林を成し、乾ききつて居る土壤も、日本内地に於ける土壤のやうに、水も潤つて來ると思ふ。

又、クラーク氏は言つて居る。朝鮮人は身體も強壯で、立派な體格をして居る。頭腦も明晰であるが、たゞ代々不安にかられて、文明からは遠ざかつて居た、國內を眺めても鐵道はないし、自動車や、東洋で最も必要な灌漑の便もなかつた、道路は禿山を通じ、峠道大のものに過ぎなかつた、市街は穢いし、建物は不十分な古くけた物許りであつた。

今見へる此の變化は何であらう。首都京城はさながら西洋の都會を見る觀がある。道路は廣いブルバードで、立派な學校の校舍は建てられ、總督府廳舎は、米國等で建たらしくとも五百萬弗(約一千

日本は朝鮮で何をなしたか

一八四

萬圓)は要する立派なものである。釜山から京城に行く途中、プールマン車の内から目に映ずるものは豊作の田畑で、灌漑の爲のイリゲション・デッチが山谷を颯々として流れて、豊富に注いで居るのが見える。良き道路は風景を飾つて居る。近い中には残りの禿山も緑と化するであらう。

日本は併合以來十九年間に於て、數百年間停頓状態にあつた朝鮮と、近代文明國との間に渡橋を架けてやつた。之等の變化に照してみても、當局者の名は何と呼ばれやうが、朝鮮民衆の爲には、或は多少忍耐の足りない處があるかもしれぬ。又朝鮮人の苦しみもあるかもしれぬが、日本は莫大な利益をもたらし居る事は明らかである。(おわり)

朝鮮部落の宗教

ロバート・ムーズ

本稿は、米國基督教團員たりし、ロバート・ムーズ氏が、十數年間朝鮮に於て布教に從事したる折の感想の一部の摘譯である。米國人が基督教布教に熱心なことは衆知の事實であるが、彼等が朝鮮部落内に入り如何なる活動を爲し、又如何なる研究をすゝめて居たかを窺知するに足るべき好資料であるから、茲に譯出したのである。

(一)

世界何れの國に於ても、宗教の存在しない國は無く、又信仰心の無い國民も無いと言ふてよい。然るに朝鮮には一定の宗教として認む可きものが殆んど無い。儒教と佛教の國に介在して居る朝鮮は、當然何れかの影響を受けて居らねばならぬのに、夫等に類似した宗教は殆んど認められないのである。

朝鮮部落の宗教

一八五

私は、如何なる理由で朝鮮には宗教が存在しないかと言ふことを了解するに苦しむが、朝鮮人の先天的に神佛に對する觀念は極めて簡單で、従つてその尊崇心も非常に薄い事は私のみならず、朝鮮を旅行する者には全く奇異の感を懐かしむる程である。想ふに彼等は、人間は常に不善を爲さなければ宇宙の何物に對しても怖るゝ所なく、平穩なる生涯を送つて行く事が出来ると云ふ固い信念を懐いて居るらしい、實に東洋的の面白い思想の表象がある。であるから、彼等は常に善行を理想とし不善を嫌惡して居る。萬一にも不善を爲した者は或自然の鬼神(ゴイシ)の激怒に觸れて、何等かの不運に遭遇せなければならぬものとせられて居る。この鬼神の災危を避け罪障を消滅せんとして、其處に始めて迷信が生じ、所謂淫祠邪宗を信仰するものが尠くない。是が朝鮮部落の宗教とも言ふ可きものであらうと思ふ。此の他に尙一つ重要な事は祖先崇拜心である。彼等の祖先崇拜は頗る強く専ら盲目的で、徒らに因襲に因はれ文明人の開發を極端に排斥して居る有様である。部落に於ける祖先の祭祀は迷信に劣らざる強い宗教心の結晶である事は争へない。以下鬼神崇敬と祖先崇拜とを分つて觀察して見やう。

(二)

朝鮮の思想を観るに、世界は陸・海・天空及び祖先の精靈に依つて満たされて居り、その精靈は多種多様で或は崇高極りなき靈神もあれば、恐る可き鬼神もある。此等の精靈と俗界との間に起る不可思議が、吾々の幸運となり不運となると云ふのである。總ての精靈の主を神様(ゴナマ)と言ひ世界の總てのものを創造し、日光を送り、雨を降らすものであるとして居る。此の點は基督教の神の信條に酷似し、殊にプロテスタント派の神の教旨に近いが、それであるからと言つて部落の宗教がプロテスタントの影響を受けて居るのも無く、又前に述べた様に、佛教でも無ければ儒教でも無い。唯傳統的な特殊の傳説、其他に依るものであるとする外仕方があるまい。彼等の宗教が、自力善行に依つて安心立命を得る事をモットーとして居る以上、善行者には他力本願の對稱は不必要である。けれども不善者に於て自責の恐怖心の爲めに始めて鬼神の存在を信じ、その授罰を避け、怒りを解かんとするもので、此處に神の存在が認められて居る。されば、彼等の宗教心は敬神思想に依るのでは無く、畏神思想より來た事は明かである。

日本や支那を旅行すると、到る處に高壯なる神社佛閣を見その敬神思想の盛んな事をよく了解し得るが、朝鮮にては此の種の建造物は殆んど發見し得ない。唯簡單な神祠や、佛像が此處彼處の路傍に風雨に晒らされて居るのみである。之は宗教思想に乏しい事を雄辯に物語るものであるが、一つは部落

民の經濟狀態の貧弱な事と、中央政府の宗教事業に冷淡な事に起因するとも云ひ得る。

此の様な狀態であるから、僧侶や司教主等も勿論存在してゐない。儀式の折や祈禱の場合には巫女(ムジ)或は判數(ムネ)と稱する者が、僧侶の役を務めて居るのである。巫女は必ず婦人であつて、人生の不遇に悩んだ最も下層社會に屬する婦人が多く、此の職業を有して居る。悪行者を呪ふ鬼神と神秘的に意を通じ、無言の中に言辭を交はし鬼神の心を宥め、或は病魔に侵されたる人體より、鬼神の怒りを解く事が巫女の妖術とされて居る。斯の如き極度の迷心的宗教心は、一般國民に相當深刻に且普遍的に浸潤して居り、相當高位高官の者も又學識ある者でさへも、解決の困難な事件に遭遇した時には巫女を呼んで祈禱を爲すに何等の躊躇を持たない程であるから、巫女の収入は少くないのである。

判數は必ず盲目者であつて、巫女と同様下層階級の職業とされて居る。併しその修業の力に依つて、宇宙の各種の精靈を統御し得る事を明言し、運命を豫言し、病魔を滅し、惡靈を拂ひ退ける事を以て獨白の妖力として居る。此の妖術者も巫女と同様に非常に収益があり、贅澤なる生活を爲して居る者も尠く無い。兩者共社會の地位こそ低い、地方では相當の勢力を有する者多く、部落民の間では畏敬されて居り、その冠・婚・葬・旅行出發・事業着手等の場合には、その吉日を選ぶ爲めに必ず

招かれて儀式にも出席し、又其の村に特殊の神靈に對する供養等のある場合にも、亦招待されて饗應に預るのである。

家庭的の宗教として、各家庭に精靈を祭るべき特別の場所が設置せられてある。多くは家の裏庭に粗末な小屋が設けられて、土器の皿に榊と稻とが供へられてゐる。家庭内に神佛の禮拜所を設ける事は、東洋では屢々見る所である。日本の家庭にも必ず禮拜所が設けられてあるが、夫は朝鮮部落の神廟とは別な意味で、祖先の精靈を祭つて居るのである。之は家族制度より來る當然の結果であつて、往々聞く處の東洋人の自尊排他的の人種性の必然の歸趨なりとする説は、明かに謬りである事を斷言し得る。朝鮮部落の家庭宗教は鬼神を祭祀し、外部より侵入せんとする惡魔を驅逐せんとするに在る。部落民は朝夕祭壇に供物を供へ禮拜するので、如何に貧しい家庭に於てもこの祭祀の爲めには、非常なる費用をかけても惜む所は無いのである。

近親者が死去した場合には、その靈を弔ふ爲めに非常に鄭重な供養會が行はれる。その前に彼等は其の墳墓地を非常なる努力と細心の注意を拂つて神聖な土地に選ぶ。墳墓の前には食物や衣服や特に靈の爲に作つた異様な布片を満した籠等が供へられる。墳墓の形態や供物の種類及び儀式を見るに、吾人の目には失笑に値する程の奇異な風習があるが、之等を理論的に解釋する事は不可能であつ

て、不可解な家庭的宗教の因襲として見るより外仕方あるまいと思ふ。

部落の入口には、往々木像の偶像が建てられてあるのを見る。之は外來侵入の鬼神に對する威脅であつて、其の頭部には恐ろしい外貌が彫刻されており、其の胴體には「天下大將軍」「地下女將軍」と云ふ文字が刻まれてある。私は朝鮮人が斯の様な簡単な偶像に依つて、其の部落の安全が保たれて居るとする彼等の迷信力を羨望せずには居られなかつた。吾々が莫大な費用を投じ且大なる建造物の中で、朝夕禮拜せなければならぬとする宗教心と、彼等の様な迷信力とは何れが信仰の眞實味に富んで居るかと云ふ事を考へると思ひ半にするものがある。私は嘗て部落の除厄の祈禱を見た事がある。除厄の祈禱と云ふのは、巫女が司る祈禱で屢々行はるゝものである。私が或田舎へ旅行した時の事である、突然鼓や鐘の音が聞えて來たので、好奇心に驅られて其の場所へ赴いて見ると、其處には普通見られない様な朝鮮料理が並べられてあり、其の側には蒼白の朝鮮婦人が座して居つた、巫女は其の前に立つて呪文を唱へ、此の病魔に執りつかれた婦人から、惡靈を除かんとして居るのである事が分つた。巫女は頻りと一種の奇異なる舞踊を爲し、鼓や、鐘が、耳を聳する許りに打はやされる。その内式が終つて婦人は立上つたが、私が其の効果を尋ねると、其の婦人は身神共に救はれた事を告げた。私は再び信仰力の偉大さを感じずには居られなかつた。

右は迷信宗教の一端の例に過ぎないが、此の外、判數の豫言功力も、相當厚く信仰されて居る。此の様な状態で部落の迷信は強固なる宗教となつて、彼等のあらゆる階級に普及して居るのである。

(三)

朝鮮人の祖先崇拜は、多少儒教の影響を受けて來たものであると思ふ。崇拜思想は極めて根深く彼等の心底に潜在し都會地に於ても亦田舎に於ても、此の點だけは同様に強い宗教心となつて居る事は確である。東洋人の思想から見れば、祖先崇拜は必ずしも悪い風俗では無いかも知れぬ。自己を善なりとし自國を尊しとして、祖先傳來の風俗習慣を金科玉條として無條件に受入れ、外來の新思想を極端に忌避する通性の東洋人に對しては、當然すぎる程當然の風習かも知れぬが、吾人の目には非文明的の惡習慣としか思へない。即ち年少結婚、父母扶養の義務、雇妾制度、男尊女卑等は、今日の世界には餘り相應しいものであるまいと思ふ。

祖先の祭祀の儀式が、必ず其の男子の子弟に依つて行はるべき事や、兩親の將來の幸福と安寧は、其の子は何物を犠牲としても飽くまで保證せねばならぬ事や、女子は如何なる儀式にも參列出來ず、社會的生活には男子に服従せねばならぬこと等は、朝鮮に於て始めて見らるゝ所である。

服喪の期間は両親に對しては三年間である。其の間毎日能ふ限りの料理を三回乃至四回佛前に供ふる。祖先の靈所は住宅より少し離れた所に、立派な小屋を建て、其の中に純白の幕を張り其の後に卓子及安樂椅子が設けられてある。三年を経過すると、服喪期間は明けて喪服喪章を取除ける。そして久し振りに世間の人と平等に交際する事が出来る様になる。其後は死亡者の命日の来る度毎に、其の家庭では親戚知己を招いて盛大なる酒宴を催すのである。饗應の當日には近郷近在から、多少なりとも縁故あるものは皆參集する、そして其家庭が豪家であればある程多くの招待客があり、盛な振舞があるものとせられて居る。此の様に祖先祭祀の儀式に費す額は莫大なものであつて、之が爲めに家財を傾ける者も尠くない、之れに就ては次の様な實話がある。

丁度ある冬の日の事であつた。私共が或る山間の村へ旅行したことがある。正午時分になつたので午食をとろうと思つたが、吾々は同行の朝鮮人の案内者の食事を用意して來なつた事に氣が付いて非常に困惑し、何處にか鮮家で食を乞はんと思つたが容易に家が見當らなかつた。苦心の後漸く山上に一軒の家を見出した。我々に食事をすべき場所を少時貸してくると同時に、同行鮮人に食を與へてくれる事を依頼した。すると家人は快く引受け、我々を天井の低い小さな部屋に案内した。其處には豊富な朝鮮料理が用意されてあつた。私が家人に其の理由を問ふた時、彼等は明日の祖先命日の饗應

に用ふべきものなることを告げた。自分は彼等の粗末なる衣服と、冬の最中であるにも不拘、子供等は薄衣を一枚身に纏ひ、老母は破れたる夏の着物を着て居るのに氣が附いた。如何に傳統的の遺風とは云へ、斯くまで祖先崇拜の弊に縛られて、此の衰れむ可き母子が、不相應不自然を爲さねばならぬ事かと、彼等の爲めに涙ぐまずにはゐられなかつた。

我等は同家を離る前に家族の者に、基督教の教旨を説き、之に歸依する者は皆愛と幸福の生活に入る事が出来ることを淳々と教へた。けれども、千數百年來彼等の心裡に深く滲透してゐる土俗宗教の固執は、如何とも齟す事が出来ない様に思はれた。

祖先傳來の鐵鎖の如き遺風は、強ち部落の非智識階級にのみ限られたわけではなく、智識階級の者でも之に束縛せられて、極度に外來の新思想を排斥してゐるのである。されば吾等布教者は、この頑強なる保守的生活を打破し、我教旨を了解せしむる爲めに、如何程までに苦心するかは全く想像の外である。

然し我等の努力に依つて、最近では相當の基督教信者も出來、漸く因襲打破の點に目覺めて來た。そして我々の布教が政策的であると云ふ彼等の偏見も次第に薄らぎ、新しき信仰に生さんとする者が新に出來つゝあるのである。そして基督教に眞心をこめて歸依する者は我々を父兄の如く敬親し、家

事身上に就ての依頼を受ける事が少くない。今日我々の教徒たるものは殆んど新しい教育を受けた女性に多く、従て結婚問題より起る祖先萬能の厭制と、新しい女性の自由の要求とが、家庭の一大衝突となつて表はれる事が屢々ある。

私が此の點に就て深く感じた事が一つある。私が或る部落で地方事情の研究をして居る時分一教會に止宿して居た。その教會の監督者たる朝鮮人の家族が、又教會別館に起臥してゐたが、家族は老母夫婦と息子及未婚の娘との五人暮であつた。皆基督教信者であつたが、老母丈は頑として我等の言を聞き入れなかつたのである。處が、偶々娘の結婚問題が起つた。求婚者は五十才に近い再婚者であつたが、彼は部落の有力者であるとの理由で、老母は非常に此の結婚問題を喜んだのである。彼女の長男が部落の官吏である以上、全く彼女の家にとつては絶大な好機會であつたに違ひない。けれども娘は飽く迄も之を拒絶したのであるが、娘の拒絶は其の家族の者には非常なる驚愕であつた。年長者の命に背いて拒絶すると云ふ様な事は朝鮮人の家庭では稀に見る所で、彼等の傳統的の慣習は年長者たる者の命令は盲從的に實現せられねばならぬとされて居り、之が祖先に對する義務であり、年長者に對する禮である。若し之を背じなければ祖先に對する禮を失する者とされ、社會的に誹謗的となるのである。

娘の父母は彼女の祖父の命に依て結婚した。彼女が老母の命に服従する事は當然の事とされて居る。之が彼等の祖先崇拜即ち年長者崇拜の極端な社會相である。娘は求婚者が基督教信者に非ざるとの理由で、其の兄弟に破談の交渉を頼んだのであるが、兄弟も一應は娘の立場に同情はして居たけれども、老母の意に背く事を欲しなかつた。娘が自殺を計らんとしたので、其の朋友が私の許へ來つて救を求めたのである。自分は他人の結婚問題に容喙する事を好まなかつたが、再三再四依頼されたので、止むを得ず其の娘に面會して眞意を確かめたが、彼女は夫の選擇の自由を熱望して止まなかつた。私は老母に其の哀情を訴へて娘の幸福を計らん事を説いたが、彼女は却つて激昂し、彼等の國には嘗て此の様な不敬な家族を出したる事なく、且つ外國人が結婚問題に干渉するのは我々の體面を汚辱するものなりと號呼して、我々は全く爲すべき措置を知らなかつたのであつた。

我々は、今更乍ら彼等の頑迷なる祖先崇拜に驚かざるを得ないのである。

(四)

朝鮮部落の宗教の状態は、大體右の様な次第である。田夫野人のみが此の惡弊の多い部落宗教に束縛せらるゝならば兎に角、新智識に目覺めた青年婦女が、此の慘酷なる原始時代よりの因襲の犠牲と

なる事は悲しむべき事である。我々は此の點を屢々部落民に説くのであるが、一部分の者は之を了解するけれども、多數の者は我々を異端者、邪宗教徒と觀て居るらしい。我々の長い間の經驗に見るに朝鮮民族の通性として、彼等が自己の盲昧に依つて受くる禍は甘じて之を受けつゝも他人の授くる幸福に對しては、之に詭辯的理山を附して回避せんとする偏狹なる民族性を有することは、首肯するに足るものであらうと思ふ。(大正十五年九月雜誌「朝鮮掲載」)

變化せる朝鮮

フランク・ヘツヂ

釜山沖から遙かに見ゆる朝鮮の山は國境の鴨綠江岸まで波の如く連続的に起伏して居る。抑も此の半島國は昔から絶へ間なき紛争に國內分裂し、隣邦からは常に野心の眼を以て狙はれたが、又一面に於て西洋が未だ思想力に支配されず只強食弱肉の世界であつた時代に、アジア特有の文化を日本に紹介して大に貢獻する處があつた。

其の歴史ある朝鮮の過去現在及未來を象徴するものは山である。併て國家の隆盛時代には到る處立派な森をなして居たが、多年打續く惡政の下に樹木の亂伐甚しく、いつしか山は裸となり、其の上風雨に曝されて更に荒廢を極め、爲に田野は水害や旱害の自然的脅威を受くること夥しかつた。然るに近來山の面目が變じて來た、其の變化は朝鮮の現狀並に實際問題を語るものである。

之は戦争や政治に關した話でなく、又人民が政治的自由の爲に奮闘して居ると云ふ事でもない、之は實に經濟の話である、具體的に云へば米・麥・生絲・木綿・石炭・灌漑・科學的農業及植林に關する話で

ある。更に進んで之は今日迄悲觀した人民が政治上の自由平等を獲得する前提として、經濟上の均等を得べく努力しつゝあることを暗示する。彼等は既に輝ける希望の曙光を捉へた、彼等は若し永く忍耐して努力するならば、其の效果は期して待つべきものありと確信して居る。

十年前まで朝鮮の山は恰も座して死を待つ禿頭翁の如く見えたり。然るに今日は植林の御蔭で若々しい短髮青年の如く見える。又山の變化と共に鮮人の心理状態にも變調を來した。彼等は最早禿頭翁でなく元氣潑瀾氣満々たる青年學生の眼孔を以て、世界を見渡す様になつた。そして彼等は過去の苦き經驗と、時代の趨勢とに鑑み、將來政治なり、其の他の方面に活躍せんとするならば、先づ自ら働いて富を作らねばならぬと感じて居る。

之と共に彼等の主權者たる日本帝國が、朝鮮問題を政治的や軍事的より、寧ろ經濟的に觀察して居る事は、彼等に取て幸福である。今日の鮮人間には政治談を除き耳にしない、彼等の談ずる處は何れも經濟である。試に政治問題を提へて彼等の意見を叩くと、彼等は簡單に答へて曰く、今は政治など論ずべき場合でない。

内鮮の融和を來す最善の方法も亦經濟上の均等を得ることに外ならない。何よりも先づ兩方の人民に充分の食料を與へよ、而して後宗教家をして説教せしめよ、先年獨立黨員として其の筋に睨まれた

る一人の鮮人名士は斯く云ふた。吾々は自己の努力に依て經濟上の獨立を得るまでは、政治上の獨立など到底望まれないと。又此の國に多年在留して鮮人側に同情せる知名の一米人も同一の意見を有し語て曰く、朝鮮の現在に於ける唯一の大問題は如何にして總人口の大部分を占むる鮮人百姓の生活状態を改善すべきにあると。

當局者も亦茲に見る處あり。今日の方針は半島經濟發展を第一の主眼として居る。固より教育事業に對しても努力して居るが其の方面の經費は比較的に少い。宗教上の自由も日本内地と同じく、大に認められて居る。尤も自己の本領を忘れて政治問題に干渉する様な宣教師は鐵槌を加へられる。施政上に於ては多少の失態なきを得なかつたが、全體から觀察して朝鮮は寧ろ内地よりも良く治まつて居ると云はる。統治者は官僚系に屬するが、政黨臭味は極めて稀薄である。鮮人は公務參與の權限を擴張されて居るが、未だ地方の相談役として勢力あるに過ぎない。

今日の朝鮮は最早政治や獨立運動の問題としない、問題とする處は如何にして生産力を増加し、如何にして豫算の均衡を保つかに在る。其の實行方法として産米増殖案の成立を見た。巨額の經費を要する此の計畫は故下閣總監に依て提唱され、氏の努力に依て帝國議會をも通過したのである。朝鮮の輸出額を平均せしむるには年に一千万圓を要する。其の解決法としては産米増殖より外に捷徑は

ない。豫定の資金を投ずれば従來の收穫高たる一千五百萬石は二千三百萬石に増加し得られる。之を實現するには荒蕪地の開拓、水利事業の擴張、耕作法の改良を最も必要とする。事業費の一部は補助金として使用されるであらうが、大部分は鮮人百姓に低利の貸付となるであらう。關係地方の地主連は組合を組織して貸付金を受け、官廳指導の下に其の方面の事業を經營するであらう。鮮人の八割以上は百姓であつて、工業は未だ幼稚である。紡績會社も少く、發展の傾向はあるが、農業の進歩と比較して論ずるに足らない。

現在の朝鮮は食料品を輸入する。但し鮮米の日本移出は増加しつゝある。多數の鮮人は貧民階級である。米食は彼等にとつて餘り高價である。彼等は自作米を賣り其の代金を以て、安價な滿洲黍や其の他の穀物を買つて生活する。産米増殖の結果を豫想するに、之が爲鮮米の移出剩餘を生ずるとは限らない。何となれば其の間に一般の生活程度も向上するからである。

恐らく産米増加率以上に向上して其の消費量は、生産量を超過するかも知れない。故に此の計畫はより多く鮮人の利益を意味すべく、日本の食料缺乏を之に依て補充し得る直接の手段とはならぬであらう。鮮人百姓が自己の生活状態を改善せんと努力する限り、經濟以外の問題を好んで論ずる遑なきことは敢て怪しとしない。

生活に追はれて、内地や滿洲方面に出稼する多くの鮮人を見る。併し滿洲に行っても彼等は支那人の百姓や労働者とは競争が出来ない。内地に行っても彼等の存在は問題とされるが、同じく日本臣民たる以上平等の待遇を受けねばならない。水呑百姓の彼等が勞銀の高い内地に行きたいのは無理もない、鮮人労働者は内地に於ても多く道路・鐵道其他竹の折れる工事に雇はれる。内地人は勞銀や生活程度の點に於て彼等と競争は出来ない。併し人口過剰の日本であるから、鮮人の内地移住は厄介な問題となるであらう。

京城の町には耶蘇教會の尖塔や、十字形が深山空中に聳へて居る。之は人民の間に働いて居る一の無形的勢力を表徴する。鮮人基督教徒の数は約四十萬と稱し、他の何れの奉教者よりも数が多い。其の宣教師は曾て朝鮮の政治問題に對しても一種の勢力があつた、其の時代は最早過去に屬するが、然し天國よりも現世の問題により多く浮身を窺して居る様な、でも宣教師も未だ居らないではない。由來獨特の感化力を有し、個人の價値を尊重し、人生に對して積極的態度を持する基督教は、朝鮮に於ても自ら盡すべき使命の存するを思ふ。

五年前の京城は實に悲觀すべきものがあつた、市内到る處獨立運動の話や、内地人の横暴に對する不平の聲ばかりであつた。然るに今日は斯の如き現象を見ない、恐らく斯の如き問題は一般の念頭か

ら消滅したものであらう。要するに今日は何でも眞面目に働いて、運命を開拓すると云ふことが最も注意される様になつた。鮮人も内地人も朝鮮當面の問題は、政治でもなく、宗教でもなく、否根本的に經濟であると云ふことを自覺し、其の方面に専心努力する様になつた。(終り)

リビンクエーナ(昭和二年二月號)より譯載

北滿在住の朝鮮人

ロイド・ヘンダーソン

本稿は昭和四年三月號コレア・ミンション・ワールドに掲載されたるロイド・ヒー・ヘンダーソン氏の「北滿朝鮮基督教會訪問記」を摘譯せるものである。

南滿洲に住んでゐる人であつても、朝鮮からは、飛びはなれ孤立してゐる感があるであらう。その人は北方ハルビン位まで行つたゞけで、北滿の朝鮮人がどんなにその故國から、まるつきり隔絶してゐるかを知るだらう。彼らの多くはその本土を一度も見ることが無い。一人の朝鮮の紳士が言つたように「この地方に居る我々朝鮮人は、半分がロシア人で、半分が支那人、そしてその残りが朝鮮人である。」だから七年間南滿地方を轉々してゐた私の眼には、其處では支那當局が朝鮮服を着ることを禁じ、そして朝鮮語は、その當人が自國語ではない言葉を使つてゐると言ふことを意識しないまでに變化してゐる、北吉林地方の状況を見ることは、まづたく新奇なる經驗であつた。

北滿在住の朝鮮人

約二ヶ年前までは、これら長老派の巡回宣教師團は、西比利亞長老派が、或は朝鮮長老派に、ホー
ム・ミツジョン・フィールドとして属してゐた。西比利亞長老派の喪失は、數個の巡回宣教師團を、南
滿洲長老派の管理するところたらしめた。クック氏は、千九百二十七年の春、これらの教會中のある
ものを訪問した。北滿からの一再ならざる招きによつて、クック氏と私は、浦鹽斯徳の北、露支國境
に近き穆稜・東寧・密山に於ける四個の巡回教會に、一ヶ月巡教するために、十月上旬奉天を立つた。
二人はその一ヶ月の大部分を共に巡教する計畫を立てた。それで我々二人の爲に子供を一人だけクッ
クとして連れて行つた。さて愈々の段になると、我々は二日行を共にしたゞけで、それから更に區域
を廣くすべく袂を別つたのであつた。

ハルビンに於ける日は興味あるものであつた。ロシア人市街たるプリスタンを道達し、歐羅巴風の
店を見、コーカサス種に屬する人々で満ちた乗合自動車に乗ると、妙な言語を別としては、人をし
て、突然自分自身の國へやつてきたような感起さしむるのである。ハルビンは、宣教師を置くべく
餘りに、重要ではないと考へられてゐた一寒村から二十五年間のうちに、約六萬の露西亞人を含む
人口五十萬の都に成長したのである。支那人街は奉天若しくは北京に於ける店舗の連続によく似て居
る。プリスタンは外國風の趣きを藏し、丘上新市街ノツイゴロドに於ては、人はその身支那に居るこ

とを容易に忘らしむるものがある。河口に添ふて、傳馬船や淺吃水汽船の繁忙な荷卸しは、ハルビ
ンが商業中心として、詰らぬ處ではないことを語つてゐるのである。

十月十二日午前九時五十分には、我々は、浦鹽斯徳行の、東清鐵道に乗つた。終日密林に覆はれた
る山岳多き地方を旅
したのであつた。翌
朝三時半、眞の間と
それから冷めたい雨
の霏々と降る中に、
ミュリン驛で、八人
の朝鮮人のクリスチ
ヤンに迎へられた。



地理的に言へば朝
鮮へのみならず、
内地への距離に於
て、最も近き北吉
林滿洲州方面に於
ける事情は交通の
不便によつて知ら
るところが少な
いとされてゐる。
此の意味で、この
一帯は多少の困難
があると思ふ。

旅券を檢べにやつてきた。それは土曜日であつた。そしてはじめは官憲はクリスチャンの集りを禁止
した。土曜日に教會を開く例はなかつたからと言ふ申分である。遂に、我々は教會の集りを二つ催す
べき書状による願出を差出すことを許された。これに對して主任警吏は特別の恩恵として許可を與え

各自荷物を一つ宛肩
にして、二つの提灯
の火のきらめく中
を、我々は我々の宿
るべき家まで一哩ば
かりの間を、深い泥
濘を踏んで進んだ。
やがて巡警は我々の

てくれた。二名の支那巡警は、小建物の後方のベンチに腰をかけてゐた。後に至つてその心配する原因を我らは知つた。その建物は一時、共産主義宣傳を擴める場所として使はれてゐた。

我らの泊れる家の主人公の、元のタイプに立歸る様を記すことは興味あることであらう。彼の家は十年前一ロシア人から買ったものであつた。その十年間、ロシア式の煉瓦のストーヴで煮炊して、彼は妻と共に其處で暮らして来た。今年彼は瀬戸に、温突・低い戸・及び藁葺家根の朝鮮風の家を一軒建てた。「この方が我々には向いてゐる。」と言ふのが彼の説明であつた。この男は自分の家屋・水田・馬及び馬車を所有し、そして彼の家の地所の正面にあたる小部分には、苺・おらんだ苺を栽培し、それは最近の一作に八十圓の純益を挙げさせた。彼はその双方が隣人であるところの、支那語も露西亞語も話し、露支兩方の衣服を着け、支那の民籍に這入つてゐるのであるが……然も尙その氣持に於て全然朝鮮人なのである。

日曜の朝、クツク氏と私は袂を別つた。氏は樺太郡の方へ行き、私は馬橋河に於ける朝鮮人の教會へ行くことにした。この教會に於ける朝鮮人の大部は、一度も宣教師を見たことがなかつた。若き子女は、一白人が朝鮮語で話すのに怪訝な容子であつたが、しかし、二三分にして、私が彼ら自身の言葉で語つてゐるのだと知つて、大に喜ばるゝところとなつた。その日の午後、教會の役員は皆て富裕

なロシア人の家庭に勤めて居つた朝鮮人によつて整えられた露西亞料理を御馳走してくれた。コツテリした野菜スープ、上に玉子をのせ、揚げた馬鈴薯で圍んだ厚いピンテキ、パン、詩羅の漬物、ラスク及び茶……これがその献立であつた。

翌朝は早く起きて、朝食は認めずに、汽車の停車場まで四哩の道を歩いた。この支線に於ける、私の乗合した客は支那人であつた。この男は四五年間ニコルスタの米國の鑛山技師に使はれてゐた。

彼の記憶してゐる英語の大部分は、判り難いものであつた。鐵道の終點李子店では、ガツガツした支那の宿屋の者が私の荷物を取つて抑へ、そして我々を降りしきる雨の中を百ヤード四方の圍みの中にある、大きい煤けた旅宿の中に導いた。翌日我々は奥地に進むべき荷馬車を雇ふことができなかった。耶蘇教信者の朝鮮人の家に移り、そして成行を待つことにした。その晩我々は二軒の家の人々で簡単な集りを催した。其處の主人公は六名の伴と共に住む老人であつたが、伴は皆教會には無關心であるか或は敵愾的であつて、ボルシエビキ思想に染まつてゐた。主人は動かすべからざる信者であつた。その晩我々四人は、縦横五呎に九呎の上席に寝た一床には空席がなかつた。

翌日我々は日に焦けた支那人の農夫から馬車を貸りた。彼は家に歸る路で、百六十支里を五十五ドルで我々を乗せて行こうと言ふのであつた。他の者は百二十ドルを呉れと言ふのであつた。一朝鮮老婆

は我々の行に一緒になつた。彼女は車の真中に座を占めた。一二度車に攀ち上つて、我々全部が乗切れたと思つたとき、馬は泥にはまつて動けなくなつてしまつた。我々三人は朝鮮のお婆さんのために下りて、そして歩いた。密山縣は黒い沃土の荒野であつた……勿論農耕には良好であるが、しかし、道をつるには適してゐない。轍の跡は底無しであつた。我々の速度は一日十五哩であつた。

最初の夜旅屋の中で、支那の警吏は私を注意深く調べた。私の名刺を二度取つた。そして深夜になつてから警察署長が私に會ひにやつてきた。我々は名刺を交換した。彼自身は耶蘇教會に友誼的であると名した。そしてその署長の友好が、これから先の旅路に、我々が、もう官憲によつて累はされない保證となるもの、如くであつた。三日目は、我々はクリスチャンの支那人の鍛冶屋が住む町まで泥濘中を辿るのであつた。その支那人は十五年前まで吉林に於ける教會の副牧師であつたのだ。その男は我々を歓迎した。我々をその内房に請じ、そして手厚い晚餐の饗應をしてくれた。晚餐後祈禱と讚美歌を支那語で唱つた。我々は朝鮮語でそれを共にした。彼の息子は町を廻つて、前にクリスチャンであつたものや、教會に好意のある支那人を私に挨拶せしむべく集めた。その人たちは、その町へ訪れた私が、最初の外國宣教師であると言つた。

馬車はそれ以上先へは行かなかつた。そして、別に車を雇ふ術がなかつたので、副牧師の家に荷

物を残し、信聖村まで二十哩を徒歩で行くことにした。その信聖村には六十戸のクリスチャンの一部落があり、約四百人のその部落者が、平原に汎濫する水の達せぬ丘上に住んでゐた。その沼はその直徑に於て約七十哩あつた。九月中の豪雨は廣き地域に涉つて水に浸し、そして水稻の大部分は害を受けなかつたが、しかし無数の鴨と鶩が、豊饒なる水田に棲息すべく、そこを巢としたのである。多くの農夫は、冬收穫半ばのその四分の一ばかりを失つてしまつた。

私は此處の人たちほどに手厚く歓迎されたことは未だ嘗て無かつた。私は彼らの多くが見てきた露西亞人には非ざる最初の白人であつた。彼らの多くは、耶蘇教に對するロシアの迫害の爲に、西比利亞から支那領に移つてきた農夫であつた。彼らの多くは丈高くすらりとした人々であつた。ズボンを穿き、そして露西亞農夫の帯のあるブローズを着けてゐるのであつた。日曜日の朝教會に集まつた男女三百人の中、朝鮮服を着た人はたつた二人しか見なかつた。クリスチャンは自らの手で教會を建てた。約二十五呎に五十呎の建物で、冬の寒氣に堪えるために厚さ三呎の泥の壁を有してゐる。材木は安くそしてベンチは雑作なく作れるのであるが、彼らは床の上に座し、そして暖味のために足を下に敷く方を良しとなすもの、ようである。午後の集りの後、新長老は選出された。その人は西比利亞に於ける朝鮮人に對する傳道師であつた、手腕ある人物であつた。現在は學校教師として少額の俸給を

得てゐるに過ぎぬのであるが、その精力と時間とを彼自身の教會に於ける青年男女の仕事、並びに、その巡回教區に屬する總での教會のために、教會から若き人々と縁を切らせようと誓す耶蘇教排斥の勢力と闘ふべく、傾倒してゐるのである。

日曜日の方つて、進みがたい悪路、それを行く便の不足、及び私の件れであつた朝鮮人の牧師の病氣とは、郡廳所在地たる密山郡にまで七十支里を行くことを避けた。かくて松林に縁どられ、そして魚類の簇る大湖水與凱湖の清新なる大水面に視線を投ぐるの望みは邪魔されてしまつた。露西亞國境に近く、支那人が稱して「耶蘇教村」と稱するに至つた所に小さい朝鮮人の教會が一つある。二十年以上そこには耶蘇教徒が住んでゐるのでその名がある。殆ど牧師の機關を缺いてゐるが、しかしその教會は残つて居り、そして耶蘇教村の實は今だに擧つてゐるのだ。

火曜日には我々は徒歩で、四丘狀の大鍋器山と稱する山の麓にある一教會に向つて出立した。山は行手に見え、誰にも道を失ふことはあるまいと考へられるが、それでも尙、我々の道案内まで、我々の通つて行く湿地の道に迷つたのである。間は通つてきたが、まだ我々は五哩を行かなければならなかつた。人家は見えなかつた。月の光はあつたが日中でも道に迷ふのであるとしたら、夜暗どうして迷はずにゐられよう。間もなく我々はまつたく道を失つてしまつた。そして往々膝を没する湿地を右

往左往、水を跳ねて行くのであつた。しばしば愕いた鷺鳥の群れが聲を上げて飛び舞ふのであつた。

二時間、泥土の中を絶望的に歩き廻つてから、我々は一軒の支那人の家へ來た。だがそこに住む人たちは、ちつとばかり金を儲けるのは、このたつた一つの機會とばかりに、朝鮮村に我々を案内すべく五弗の金を要求した。我々一行の案内は、そんな金を出さぐらいなら、開の中でも行くと言つた。かくて我々は歩きつゝけた。そして嬉しくも我々の目的地が四分の一哩ばかりのところにあることを見出した。間もなく我々の濡れた着物は着更へられ、そして、體のつめたさを追ひやるべく、熱い床の上に坐つた。ボカボカした米と鶏のスープは、完全に元氣恢復を果さしめた。

此處の教會で我々は信者たちと友情の樂しき一日を送り、そして次の町までの案内者を頼んで、三日目にその人たちと別れたのであつた。少し行つてから、我々を案内する若者が道を知らぬと告白した。これは慘めな話だ。と言つて我々は歸るわけにも行かない。そこで我々は足をはやめた。菓子や嚙りをして茶を喫むだけに止り、そして急いだ。さもないと、我々は日が暮れてから湿地にゐなければならなかつたからだ。度々道を訊いてから、我々は道を探しあて、そしてちようど夜がすつかり平野に來たときに、朝鮮人の部落に着いた。夕食の後その人たちは集りを催すことを求めた。そこで九時頃から十時の間に、我々は讚美歌を唱ひ、そして祈禱をなした。そして私は簡單に「イエスを

熟考へよ。」のテキストに就て語つた。

この處から、私は家路に向つてゐるような気がした事實に於て、其處に着くまでには十日を要するのであるけれども、二日の何事もなかつた馬車旅行は、我々を再び鐵道に連れて來つた。この奥地の旅行に於て、私は百五十哩を歩いた。支那と朝鮮の食物の他は何物も口にせず、そして私のことを、支那人共通の露西亞人を目して言ふ言葉たる「洋鬼」とか、「大鼻」とか言ふのを數限りなく耳にした。支那人の開拓者によつて新たに開かれたこの地方全體を通じて、私が米國人であると知ると、親切に扱はれることを知つた。とも角米國は支那の友人であると言ふ觀念を形づくつてゐるのだ。

最後の日曜は、郡の中心となるバルミュントンと言ふ町の、舊いそしてよく整頓した教會で費した。其處のこの朝鮮の教會は二十年を経て居り、二百人の信徒を有し、教會と牧師館を所有し、そしてその信徒は皆土地所有者でありそして支那國民となつてゐる。

北吉林省に於ける朝鮮人は迫害と困苦を通つてきたのだ。だが、ザツと見積つて、現在五ツの巡回教區の中に朝鮮人の牧師によつて面倒を見られてゐる千五百乃至二千の信徒が居る。これらの他にまだ傳道されてゐない大分野がある。其處では無数の朝鮮人がその家と耕すべき土地を求めて散在してゐるのだ。我々はちようど、深山の米が收穫されてゐるときに、その人たちのところに行つたのだ。

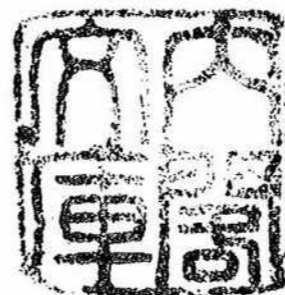
其處には更に價値多き收穫が收穫されるのを待つてゐるのだ。少數の刈手がそれを持來らすであらうところの靈的の收穫だ。この地方は滿洲全體の中で最も富源の多い地方の一つだ。材木・石炭及び沃土は到るところにある。朝鮮人教會の前途は明るい。

十一月五日には馬車屋が午前二時半に我々を起した。かくて再び歸路に就いた。

附 録

冊 總督府書庫に在る朝鮮關係の洋書

- 録 Allen, H.N. Things Corean.
Allen, H.N. Korea: Fact and fancy.
Armstrong, R.C. The Christian Movement in Japan, Korea.
(1914).
Backham, B. Catalogue of the Le Bland collection of
Corean pottery.
Baird, A. K. A. Daybreak in Korea.
Bishop. Korea and her neighbours.
Bland, J.O.P. China, Japan and Korea.
Bland, J.O.P. "
Brown, A.J. The mastery of the Far East.
Brown, A.J. The Korean conspiracy case.
Carles, W.R. Life in Korea.
Carpenter, G. Japan and Korea.
Cavendish, A.E.J. Korea and the sacred white mountain.
Clark, C.A. First fruits in Korea.
Cynn, H.H.W. The rebirth of Korea.
Drake, H.B. Korea of the Japanese.
Dearing, J.L. Christian Movement in the Japanese Em-
pire including Korea and Formosa.(1914).
Dearing, J.L. Christian Movement in Japan, including
Korea and Formosa. (1915).
二 Eckerdt. History of Korean art.
五 Elias, F. The Far East: China, Korea and Japan.
Gale, J.S. Korean sketches.
Gale, J.S. Korea in transition.
Gale, J.S. Korean folk tales.



Taylor, C.J.C. Koreans at home.
 Underwood, L.H. With Tommy Tompkins in Korea.
 Whitgham, H.J. Manchuria and Korea.
 冊 Young, A.M. The independence movement in Korea.
 森 Backhausen, A. Die japanische verwaltung in Korea und ihre tatigkeit.
 Brandt, M. Ostasiatische fragen China, Japan, Korea.
 Genthe, R. Korea reiseschilderungen.
 Hoss-Wartegg. Korea.
 Knochenhuer, B. Korea.
 Kriebel, E. Wie ich an den Koreanischen kaiserhof kam.
 Bonduret, E. En Corée.
 Courant, M. La bibliographie Coréenne, (Vol. 1-4).
 Hamilton, A. En Corée.
 Layuerie. La Corée, indépendante, Russe, ou Japonaise.
 Madrolle, C.L. Chine du nord et de l'ouest, Corée, Le Transsibérien.
 Moncharville, M. Le Japon d'Outre-mer. Carte de Corée.

Gifford, D.L. Every-day life in Korea.
 Graves, J.W. The Renaissance of Korea.
 Griffis, W.E. Corea: The hermit nation. 冊
 Griffis, W.E. Korean fairy tales. 冊
 Griffis, W.E. A modern pioneer in Korea. 冊
 Hall, B. Voyage to Corea, and the Island of Loo-Choo.
 Hamilton, A. Korea.
 Hatch, F.G. Far Eastern impression.
 Henry, C. The case of Korea.
 Hulbert, H.B. The passing of Korea.
 Hulbert, H.B. The history of Korea, (Vol. 1.2.).
 Hulton, D.C. Christian movement in Japan, Korea and Formosa.
 Ireland, A. The new Korea.
 Jefferys, W.H. The diseases of China, including Formosa and Korea.
 Kuroda, N. Notes Korean and Manchurian birds.
 Ladd, G.T. In Korea with Marquis Ito.
 Longford, J.H. The story of Korea.
 Lowell, P. Chosen(The land of the morning calm).
 McKenzie, F.A. Korea's fight for freedom.
 McKenzie, F.A. The tragedy of Korea.
 Oltmans, A. Christian movement in Japan, Korea and Formosa.
 Oppert, E. A forbidden land: (Voyage to Korea). 冊
 Palmer, F. Look to the East. 冊
 Savage-Landor, A.H. Corea or Chosen.
 Starr, F. Korean buddhism.
 Starr, F. Korean coin charms and amulets.

昭和七年三月二十五日印刷
昭和七年三月二十八日發行

朝鮮總督府

京城府南米倉町一五九

印刷所 行政學會印刷所